

いて國民經濟のこれらのすべての主要部門へは、社會化部分の資本投下の八五%が投じられる。

國民經濟のための生産手段を生産する部門中、資本投下の増大が最大のテンポをもつて行はれてゐるのは機械製作であつて、ここでは資本投下の総額は一九三〇年に比較して殆ど三倍に増加してゐる。重機械製作に關しては、資本投下の総額一億八千萬ルーブルのうち約八千萬ルーブルが、二つの巨體——即ちウラル機械製作所とクラム機械製作所の建設に向けられてゐるが、それらはソヴェート同盟の東部と南部における鑛業および冶金工業の支柱である。

機關車、車輛製作に關する資本投下も、一九三一年には一九三〇年に比較して二倍半に増加し、増大の高速を示してゐる。だが、それらはまだ鐵道輸送の要求を満たしてはゐない。

一九三一年には製鐵工業にも著しい投資が行はれてゐるが、その任務は五ヶ年計畫の終りまでに千七百萬噸の鉄鐵を産出することである。

製鐵工業への投資の総額は一九三一年には二・三倍に増加する。そのうち、マグニツトゴルスク工場へは一億七千萬ルーブル、クヅネツツ工場へは一億一千五百萬ルーブル支出する豫定である。なほニジネータギリスクおよびドニエプロペトロフスク冶金工場を加へて、これら四つの新しい工場へは、一九三一年における製鐵工業への投資總額の四三%が當てられてゐる。

有色金屬工業への投資は二・八倍に増加してゐる。此處では、レニングラードおよびキチカスのアルミニウム複合企業、ウラル銅採掘所が目立つてゐるが、後者には有色金屬鑛業への投資總額の約一

八%が投下される。

基礎化學工業の多くの部門の建設も廣汎に展開してゐる。これには、農業のための肥料を生産する部門と共に、我國の國防力を保證する部門が屬する。基礎化學への投資は一・九倍に増大してゐる。一九三一年にはネフスク、第一ポプリコフ、第一ベレズニコフ——カルシウム工業の根據地、ルドニク第一號、ベルムの諸工場が作業を開始する。

工業における深刻な技術上の改造は、新建設の比重の上向のうちに現れてゐる。この點における資本建設の傾向は、特に一九三一年度の計畫の特徴をなすものである。これは次の數字から看取される。

一九三〇年度の計畫	一九三一年度の計畫
(投資總額に對する%)	
新建設	四五・六
その中、繼續中のもの	二七・〇
新しく開始されたもの	一八・六
擴張および修葺	一九・五
その中、繼續中のもの	一二・八
新しく開始されたもの	六・七

かやうに、一九三一年度の投資の全計畫のうちに新建設が占めてゐる部分は、工業への投資總額の半ば以上(五〇・七%)である。

一九三一年の工業に關する資本活動の計畫は、この年に對する五ヶ年計畫の目標を二倍以上も超過

してゐる。五ヶ年計畫によれば一九三一年における投資は二十七億三千五百萬ルーブルの筈であるが、一九三一年度の計畫によればそれは五十五億ルーブルである。一九三一年には五ヶ年計畫によつて豫想される資本建設の總量の八〇%が遂行されるであらう。これは一九三〇年にアメリカ合衆國において投資された額よりも殆ど三倍も多いのである。帝制ロシアの戦前の工業に投資された額は、投資が最も廣汎に行はれた一九〇七—一九一三年の五ヶ年間に於いて二十億六千萬ルーブル、つまり丸五年間において、我々が一九三一年の單に一ヶ年間に投下する額の半分にも足りないのである。

ソヴェート同盟における工業の地理的配置

新建設が発達した結果、最重要な課題の一つとして、我國經濟の生産力の正しい配置の課題、就中工業の正しい配置の課題が提出された。

すでに一九一八年四月にレーニンは、論文『科學的技術的活動計畫のスケッチ』のなかで、國の經濟的昂揚の一つの中心的課題としてこの課題を掲げた。

レーニンは書いてゐる、——

『この計畫(即ち科學的技術的活動計畫)には次の如きものが加はらねばならぬ。それは、出來上つた生産物の獲得に至るまで、原料の手入れから半成品の仕上げの連續的なすべての段階に移るに際して、勞力を最も少なく消耗する可能性、および原料の近接といふ見地から行はれる、ロシアにおける

工業の合理的な配置である。』(5)

(5) レーニン全集、第二十卷第二部、一九二六年版、二二八頁。

この課題は新建設に立脚してのみ解決されるのである。國の工業化のテンポを高め、全域的共營農場の諸地方を作り出すためには、一切の國民經濟の合理的分布のために工業の配置と、農業の改造および配置とを結びつけることが必要である。

『當面の任務は、——と同志スターリンは第十六回黨大會において、言つてゐる、——何よりもまづソヴェート同盟全般に亘る工業の正しい配置の問題である。我々が如何に國民經濟を發達させようとしても、次の問題を除外してはやつてゆくことが出來ない。即ち、國民經濟の指導的部門としての工業を如何に正しく配置するかといふことである。』(6)

(6) スターリン、第十六回黨大會報告、七五頁。

資本主義の諸條件の下では、工業の配置は個々の資本家達および彼等の聯合同の利潤の利害に從屬してをり、自然發生的に、そして社會一般の利害といふ見地から言へば不合理に、行はれる。それは自然的資源や社會の生産力を最大限に利用する可能性を與へない。資本主義下の工業配置のそれらの一般的特徴は、帝制時代のロシアにあつては、工業における外國資本の大きな役割、農奴制度の遺物および、ロシアの工業一般の退歩と關聯して、更に一層著しく現れてゐた。

ソヴェート經濟の諸條件の下では、生産諸力の配置は計畫的に行はれ、國民經濟全體の利害に從屬

してゐる單一の完全な合成體としての一つの地方から出發する。

ソヴェート同盟の諸條件の下では、工業の地理的配置は、後れた地方の工業化を保證し、ソヴェート同盟全體にわたつて工業をもつと平等に配分し、我國の國防力を保證せねばならぬ。ソヴェート同盟の地圖は根本的に變つて行く。以前には裸かの曠野であつた處には巨大な工場が建設されつゝある。帝制時代のロシアにおいて植民地および半植民地の状態にあつた諸地方は、急速に生産を發達させてゐる。ソヴェート同盟の新しい強力な工業地帯が創設されてゐる。

この情勢は諸地方間における資本投下の割當のうちに見れてゐる。諸地方の新建設の比重は年毎に高まつてゆく。例へば、一般工業建設における多くの新しい地方の比重は、一九二六—二七年の八・六%から、一九二九—三〇年の二七・一%まで増大した。ウラル一帯の資本活動は一九二九—三〇年には一九二七—二八年と比較して五倍に擴大し、シベリアにおいては殆ど七倍に擴大した。

五ヶ年計畫の終りまでには、ウラル、シベリア、カザクスタン、中部ヴォルガの如き諸地方の面貌が本質的に變化する。我々は既にウラル—クツネツ複合企業について述べた。我國の社會的諸條件の下では巨大なテンポの可能性を與へる尨大な自然資源を擁するシベリアはどうかと言へば、シベリアの工業生産は五ヶ年計畫の終りまでには十四倍に増大し、Aグループは二十倍にも擴大する。

生産の迅速な發達にとつて大きな可能性を有つてゐるのは中部ヴォルガ地方である。強力なエネルギー資源、恵まれた地理的條件、貴重な礦物層、農業發達の諸條件等は、この地方の發展のために廣

大な見透しを與へてゐる。この地方の總生産は五ヶ年間に七倍に増大し、工業の構造が甚しく變化する。即ちAグループ、つまり重工業部門は優勢を占め始めてをり、一九三二—三三年には六〇・五%に達する。

カザクスタンはすばらしい富源、即ち原料乃至エネルギー資源を有してゐる。カザクスタンにおける銅鑛の埋藏は同盟の全埋藏の六〇%である。石油、石炭、燐、鉛および銀、鐵および銅、——すべてこれらはカザクスタンの發展にとつて恵まれた條件を物語つてゐる。カザクスタンの工業は五ヶ年間に十五倍に増大する。カザクスタンは有色金屬の中心地となり、遊牧的な草原地方から同盟の重要な産業地帯の一つとなる。

以上我々が觀察したのは、單に若干の新しい工業地帯の發展であつた。これらの實例によつて明かなことは、我々が既に正しい工業の配置に關するレーニンの指摘を實現し始めてゐることである。

工業への融資

資本建設の強力な過程は、帝制ロシアにおいては資本投下の主要な財源の一つであつた外國資本の側からの何等の援助も受けずに、専ら國內の力と資本とに立脚して發生したのであり、また發生しつつある。工業への資本投下の源泉は、工業自體の蓄積、並びに國家豫算、およびプロレタリア國家の銀行組織による工業への融資である。

次の表はソヴェート同盟の國營工業の蓄積財源を特徴づけるものである。(單位百萬ルーブル)

最高國民經濟會議所屬の工業	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二九年—三〇年	一九三一年
全投資額	一八九六・七	二五一九・〇	三二二六・〇	五五〇〇・〇
工業自體の資本				
(イ) 利 潤	八一〇・〇	一一〇〇・〇	一四五〇・〇	二七五〇・〇
(ロ) 償 却	四四〇・〇	五〇〇・〇	五七六・〇	六五〇・〇
國家豫算からの資本の流入	二五八・九	四三〇・〇	四一八・〇	二七八九・三
銀行組織を經ての資本の流入	四六九・二	四六三・〇	一〇五五・〇	七二八・九
その中、短期クレジットを經ての資本の流入	三九〇・〇	三四四・〇	九五〇・〇	五四三・〇

かくの如く我々は、工業への資本投下のための資金は大體において、利潤と償却とが屬する工業自體の資本から成つてゐるのを見る。償却資金は、生産過程において消耗される固定資本の恢復のために毎年控除される金額である。償却資本が資本建設にあてられるやうな場合は、それらは改造の財源となる。

工業に投下される全資金の著しい部分は、國家豫算を通じて得られるのであるが、一九三一年には資本建設のために國民收入の大凡三分の一が動員される。一九三一年における國民經濟全體への資本投下は、國民經濟の統一的財政計畫全體の五〇%、國家豫算の資金の三分の二を計上してゐる。

工業への資本投下の増大、新しい鐵道建設、農業の改造は、今や蓄積財源の問題を新たに提起して

ゐる。同志スターリンは一九三一年六月の經營者會議において言つてゐる、——「輕工業のみ、豫算上の蓄積にのみ、農業からの所得にのみ、もはやこれ以上心を奪はれてはならぬ。」「重工業と、そして何よりもまづその機械製作の部分もまた、蓄積を行ふやうに努力する必要がある。」「

我々は重工業における蓄積の任務を新しい契機として提出すると共に、同時に、古い蓄積財源を發展させ強化せねばならぬ。だが、同志スターリンが指摘してゐるやうに、次のことを理解する必要がある。即ち、これらの財源は無限ではないこと、特に農業は豊富な蓄積財源であるとはいへ、その改造期たる今日においてはそれ自體國家の財政上の援助を要求してゐるのである。

工業へのクレジット提供は長期のものと短期のものに分たれる。長期のクレジットは主として建物、機械、その他の設備のとき工業の固定資本への資本投下のために役立つ。短期クレジットは、原料、燃料、材料、そして賃銀のとき、主として流動資本に役立つ。長期のクレジットは長期のクレジット銀行によつて、工業および電氣經營を割當てられるが、この銀行は計畫し、計量し、また資本建設に關するすべての資本の支出を統制する。

一九三一年に行はれた、「工業の資本建設の融資組織における變更」に關する労働および防衛會議の決定は、建設豫定および、建設しつゝある諸團體と結んだ契約による義務の實際的履行に相應して、資本建設の融資を行ふことを決定してゐる。決定は次のことを指摘してゐる。即ち、過去の計畫によるクレジット提供の實際は建設に對する資本の支出を統制せず、建設における經營採算を破壊したり、

資本建設のために支出された資本が屢々投機的必要のために消費されるやうなことがあつた。資本建設のための支出は如何なる場合にも投機に費されてはならず、確定的な見積りや設計のない建設にもまた資金を提供してはならぬ。資金支出の實際上の統制は、国立銀行支店に附屬する長期クレヂット銀行の委員達によつて、資本建設の諸地方において、また大きな各建設においても實現される。これは建設における資金の最も合理的な利用および經營採算の普及を保證し、資本建設の進行のためのルールの統制を實現するものである。

資本投下のほかに、工業は流動資本を必要とするが、その範圍は生産過程の進行如何によつて變化する。流動資本の融通は国立銀行によつて實現される。

固定資本並に流動資本の利用において重要な契機をなすものは、それらの流通の速度である。流通の速度は、生産過程にとつて必要な、固定および流動資本の量を減少させる。なぜなら、これらの資本はヨリ速かに生産に復歸するからである。これを紡績工場と機關車製作所の實例で證明してみよう。紡績工場においては一週間、機關車製作所においては十二週間を要する生産時間を除いて、生産の一切の條件は同一であると假定する。生産に投じられた資本の總額は同じである。初めの一週間で超過すれば、紡績工場においては資本が生産に復歸するが、機關車製作所においては毎週、賃銀、材料およびその他の生産要素のために新しい金額が投下されねばならぬ。機關車製作所には十二倍ほど多く資本が費されることは明かである。こゝから次のやうな他の重要な結論を引き出すことができる。

即ち、或る部門における流通を速めるならば、工業の他の諸部門における生産のために利用され、または資本投下に向けられる資本が解放される、と。流通が速められると、生産される生産物の原価が低下する。なぜなら、既成の一單位生産物に對する生産費を減ずるからである。これは今度は蓄積を増大する。かやうにして流通の加速化もまた、資本投下のための資本の増大を助けるのである。

五、工業と運輸

運輸はソヴェート同盟の社會主義建設の事業において、大きな經濟的、政治的および文化的役割を演じてゐる。

運輸の役割と意義とは我國發展の現段階において非常に増大してゐる。工業や國營農業および共營農業の建設の高いテンポ、邊境地方の工業化の普及等々は、我國の經濟における重要な地位の一つを運輸に與へ、その前に多くの新しい任務を提起してゐる。わが同盟の面積は非常に廣大であるから、後れてゐる地方と進んでゐる地方とを聯絡し、新たに創設された工業および農工業中心地を援助する點において、運輸の役割は特に大きい。運輸の舊い技術的基礎は、これらの任務を遂行するために充分な條件を與へない。それゆゑ、運輸の根本的改造の課題は、社會主義建設の一切の過程の促進にとつて決定的な意義を得てゐるのである。

資本主義諸國では、運輸は資本主義の××××××××の影響の下に、停滞状態にある。ソヴェート

同盟の諸條件の下では、近年運輸は非常な發達を遂げてゐる。例へばイギリスでは今日まで、鐵道の戦前の貨物運輸が恢復されてゐない。北米合衆國では戦前と比較して貨物輸送は非常に衰へてゐる。反對にソヴェート同盟では、戦前と比較して貨物輸送は一八二%増大し、一九三二―三三年に對する五ヶ年計畫の豫定より七%低いだけである。全世界において經濟恐慌は鐵道の建設を衰退させ、運輸關係のプロレタリアートを甚しく減少させ、車輛の利用率を低下させてゐる。ソヴェート同盟では反對に、運輸の發達の全線に亘つて不斷の前進が行はれてゐる。我國の貨物輸送は年毎に増大してゆ

年	貨物(單位百萬噸)	増加率(%)
一九二七年	一三九・六	—
一九二八年	一五六・二	一二・〇
一九二九年	一八七・六	二〇・〇
一九三〇年	二四四・〇	二七・九
一九三一年	三三〇・〇	三五・二

一九三二―三三年には、ソヴェート同盟の鐵道は貨物輸送に關しては、北米合衆國に次いで世界第二位を占めるだらう。我國の旅客輸送もまた大いに増大しつゝある。一九三一年には七億二千三百萬の旅客を輸送する筈であるが、一九一三年には、ロシアでは鐵道旅客は約一億八千五百萬人に過ぎなかつた。

新規の運輸建設の五ヶ年計畫によれば、一萬八千キロメートルの新しい鐵道の敷設が豫定されてゐる。敷設を豫定されてゐる鐵路のうちで注目されるべきは、ウラル・クズネツ複合企業のための輸送問題を解決するシベリア線と、トルキスタン・シベリア方面の建設を完成するトルクシブ線とである。ドンバスと他の多くの工業地帯とを聯絡する新しい鐵道の敷設もまた開始されつゝある。

六月(一九三一年)の黨中央委員總會は、かやうな運輸の發達にも拘らず、そのテンポはやはり國民經濟發達の一般的テンポから著しく後れてゐることを指摘した。その原因は根本的には運輸の技術上の後進性と、その車輛の不足とである。機關車庫は非常に古びたまゝである。假建築や道路の構造は脆くて、新しい強力な機關車を入れることができない。運輸の技術的基礎が急速に高まらないのは、最近國民經濟全體への資本投下の増大に立ち後れた、運輸建設への資本投下の不足に起因するのである。この立ち後れは、基礎資本の總額と比較した鐵道輸送の基礎資本の割合の變動によつて、窺ふことが出来る。即ち、一九二五―二六年には一七・四%であつた運輸資金の割合は、一九二九―三〇年には一四・五%にまで低下してゐる。鐵道輸送の基礎資本の増大のテンポは、またその貨物輸送の増大よりも著しく後れてゐる。運輸の後れてゐる他の原因は、國內の運輸資源を充分に利用しなかつたこと、それに合理化された方法を充分適用しなかつたことである。妨害者達の妨害行動もまた、運輸活動の齒止めとして大きな意義を有してゐる。

十二月(一九三〇年)黨中央委員總會は、全く第十六回黨大會の豫定から出發してゐるところの、

運輸改造のための多くの根本的決定を與へた。總會は一九三一年度の運輸への投資額を總計三十一億八千五百萬ルーブルと確定し、輸送原價をば一九三〇年の原價と比較して九%以上低下させること、そして五ヶ年計畫の最後の年のために豫定されてゐる三億八千百萬噸に對して、貨物流通量を三億三千萬噸と決定した。

交通人民委員部によつて豫定された鐵道輸送の技術的改造を完成するためには、機關車の牽引力と車輛の起重力とを擴大することが必要である。車輛の自動閉鎖、自動閉鎖、荷揚げ、荷卸し作業の機械化を行はねばならぬ。六月（一九三一年）の黨中央委員總會は特に、鐵道輸送の技術的改造における指導的環としてのその電化の意義を強調した。運輸の電化は燃料を大いに節約せしめ、それが要求する燃料は大凡、蒸氣運輸によるよりも四倍ほど少ない。これによつて鐵道の運輸能力は三―四倍に増大する。既に現在の五ヶ年計畫においては、三千六百九十キロメートルの鐵道網が電化される筈であるが、北米合衆國においては一九三一年一月に、總計三千八百三十三キロメートルが電化されてゐる有様である。

運輸の改造を實現するためには緊張した工業の活動が必要である。工業は、國民經濟の他の諸部門の發展テンポに照應してその發展テンポを保證するために、運輸改造のための必要な技術的前提を作り出さねばならぬ。運輸機械製作は特別な意義を帯びてゐる。工業は強力な機關車と車輛、自動ブレーキと自動閉鎖器とを、運輸に提供せねばならぬ。荷卸しと荷揚げの装置の生産、および豫備部分品

の生産を組織する必要がある。六月の中央委員總會の決定によれば、輸送のための機關車の數は千三十八臺を計上する筈であるが、これは五ヶ年計畫の最終年の豫定を二七・九%ほど凌駕し、一九三〇年に比較して機關車數の六五・八%の増加、即ち六百二十臺から千三十八臺までの増加を意味してゐる。製作される貨車と水槽車の數は一九三一年には四萬七千四百臺まで増大するが、それもまた五ヶ年計畫の最後の年のための目標を四倍ほど凌駕する。一九三一年には運輸は五十九萬七千噸のレールと、二千二百萬臺の寢臺車を得る筈である。

運輸の退歩を清算するために最重要の意義をもつてゐるのは、合理化的諸方策である。健全な機關車のための鬭争は政治的意義を帯びた鬭争である。なぜなら、運輸活動の質をよくすること、そしてすべての國民經濟發達のテンポを速めることは、著しい程度において、それに依存してゐるからである。

亂雑な運輸の清算と受持乗務制の實施こそ、この方面における確實な方策である。無規律な運輸は労働規律を弱め、機關車の状態に對する機關車乗務員の責任感を減殺し、故障機關車の率を増大させ、運輸の精確さを破らせ、輸送の計畫性を弛緩させた。乗務員を一定の機關車に固定する受持乗務員の乗車は、機關車の状態に對する彼等の責任感を高め、品質や適時の修繕に注目せしめ、燃料の節約、輸送の速度と精確さとを助け、一般に運輸活動を改良する。受持乗務員の乗車を實行した鐵道は完全に無規律を清算し、鐵道網の一切の活動の改良において大なる成功をかち得てゐる。

例へばオクチャブリ鐵道は一九三一年五月に受持乗務員の乗車を實行した結果、百キロメートルにつき二・四秒から〇・六秒まで遅刻を低下させて、急行列車が總じて五回の些細な（三秒）遅刻をしたに過ぎなかつた。然るに受持乗務員の乗車の實行を止めた北部鐵道においては、一九三一年五月における汽車の遅刻は百八十七時間となつて現れた。

鐵道輸送の發達と並んで肝要なのは運輸の他の諸形態をも發達させることである。ソヴェート同盟においては水路が非常に多いので、水路による貨物の運送は鐵道輸送を著しく輕減し、運賃を低廉にする筈である。ソヴェートの海上運輸は、外國船舶による輸出入品の輸送のために高い運賃を支拂ふ必要から我々を解放し、相當多額の外國貨幣を節約させることができる。一九三一年度の統制數字は河川と海上運輸に著しい注意を向けてゐる。鐵道輸送に關しては三五%の輸送の擴張が計畫されてゐる時、河川運輸による輸送は八二%、海上運輸によるそれは六四%ほど擴張する計畫である。

ソヴェート同盟中央執行委員會第五回總會第三會議は、一九二九—三〇年における六千四百萬噸に對して、一億一千六百萬噸の國內水路の貨物流通を豫定し、一九三一年に豫定されたところの鐵道と國內の交通水路による貨物流通の相互關係（三億三千萬噸と一億一千六百萬噸）は、水上輸送に關する指令の遂行における最初の段階に過ぎないことを認めた。

五ヶ年計畫の決定的な第三年は河川運輸にとつて急轉向の年である筈である。——それは決定的な改造および國內資源の廣汎な利用に基いて前進してゐる國民經濟の諸部門に、この後れた部分を決定

的に追いつかせねばならぬのである。

國民經濟の工業化に關聯して、自動車運輸も重大な意義を有してゐる。自動車はわが同盟の最も隔離してゐる邊境地と産業中心地とを結合し、もつて國の一般的文化水準の向上を助け、農村と都市の隔絶を廢除する。農業に自動車を適用すれば、その勞働の生産性は著しく高まる。自動車化は國防力を高める。自動車運輸は運輸の最も安價な形態の一つである。

五ヶ年計畫の終り頃には自動車生産は年額十三萬臺に達することになつてゐたが、すでに一九三一年には、一九三〇年の八千七百臺に對して三萬三千九百臺に増加してゐた。一九三一年には自動車の年産額十四萬臺の生産能力を有するニゼゴロド工場が作業を始めることになつてゐるので、一九三二年の生産額は著しく増大するものと思はれる。

自動車使用の發達につれて、道路建設の著しい擴大が必要となつて來る。この方面では我々は殆ど何物をも爲してゐない。道路の延長總數は僅かに三百萬キロメートルであり、このうち三分の二は全くひどい状態にある。立派な道路は僻地を文化的中心に結びつけ、これらの僻地の封鎖性を打破し、都市と農村との關係を密接にするのであるから、我が同盟の住民は道路の開設に緊密な關心をもたねばならない。

あらゆる種類の運輸改造の任務は、たゞ工業化の根據地において實現されてゐるにすぎない。

賣却された(2)。アメリカ農民は否應なくその農場を放棄して都市に逃げ込まねばならない。その結果、最近二十年間に農民人口は四百萬人も減少した。

(1) 第十六回黨大會におけるヤコブ・ブレフの報告参照。

(2) 同所。

資本主義諸國における農業の状態は、資本主義的体制の×××非常に明瞭に現してゐる。農學の最近の成果も、農業技術も資本主義は利用することができない。アメリカ合衆國のやうに技術を充分利用してゐる國でも、全農場の五分の四は一臺のトラクターも持つてゐない。しかるに大農業資本家の手には百萬臺のトラクターがある。農業の分散性のためにトラクターの完全な利用は不可能である。トラクターは千ヘクター以上の農場で初めて有利である。合衆國では二百ヘクター以上の経営——既にトラクターやコムバインの使用が可能であるが、勿論とても完全には使用されない——が経営總數の僅か三五%しか占めてゐない。七十ヘクター以上の経営でさへも全部で僅か一八%である。だから合衆國では、トラクターがその可能な生産性の四分の一しか利用されてゐないことがはつきり分る。新しい技術の急速な發達にも拘らず、合衆國では最近十年間に作付面積が僅か四百五十萬ヘクターしか増加しなかつた。過剰生産の極めて兇暴な恐慌の諸條件の下に、農業ブルジョアジーは價格の低落と利潤の減少のために作付を手控へてゐる。

最も大きい資本主義的農業國がこの有様である。ドイツを取つて見ると、こゝでは絶対にトラクターを利用することができない経営、即ち二十ヘクター以下の経営が全経営の九五・七%を占めてゐる。ドイツのブルジョア經濟學者はこの農業状態の前代未聞の苦しい有様をば、一般にトラクター一般が不利益であるとか、馬がトラクターよりも有利であるとか、いふそのお粗末な「理論」で、徳行の程度にまで高めようとしてゐる。

その他の資本主義國における勤勞農民の苦しい乞食のやうな状態と××××××については、今更ら言ふまでもないことである。

農業發展の社會主義的道程のあらゆる優越性を見出すためには、百年以上の資本主義の發達が農業に及ぼした結果と、ソヴェート同盟の社會主義建設の成果とを比較すればよい。分散した小生産的個人的農民經營の代りにソヴェート同盟には社會化された共同經營が形成されてゐる。この共同經營の前には高い技術に立脚する社會主義的發達の道が開かれてゐる。我々は見事に共營化された巨大な地域を持つてをり、一九三二年にはソヴェート同盟全體に亘つて農業の共營化を根本的に完成する。我々は共營農場と並んで、國營社會主義的大農業企業(ソフホーズ)を組織しつゝある。

六月の黨中央委員會總會が提出した一九三一年の春季播種の暫定總計は、社會主義的道程における農業の史上未曾有の成果を物語つてゐる。

「國營農場が發達し——と六月中央委員會總會の決議は言つてゐる——多數勤勞農民が共營化の道へ移つた結果、わが國は世界最大の農業國となつた。一九三一年春二十萬の共同經營(嘗て個人的經營

營であつた千三百萬の經營を合併したものであるが、は、四、千の國營農場と共に、夏季作付面積の三分の二以上に植付けた。しかるに残りの千二百萬といふ單獨な農業經營は、夏季作付面積の僅か約三分の一しか植付けないといふ状態を示した。』

ソヴェート同盟の基本的な穀作地方における共營農場の平均面積は千二百ヘクタールに當つてゐる。穀作國營農場の平均面積は今日六萬乃至七萬ヘクタールに當つてゐる。これは穀作經營の領域ではアメリカ合衆國並に資本主義國一般で最大の會社、キヤムベル會社の面積を著しく凌駕してゐる。キヤムベル會社は三萬乃至四萬ヘクタールを占めてゐるにすぎぬ。我々は技術的には合衆國よりもずつと低いにも拘らず、さうなのである。

十月××は勤勞農民に何を與へたか

ソヴェート同盟の社會主義的大農業の輝かしい勝利は、我々が資本主義から繼承した農業の水準と状態とを思ひ浮べて見れば一層はつきりしてくる。

革命前のロシアは夥しい封建的關係の遺物をもつた後れた國であつた。國の工業的發達が僅少であつたこと、地主、貴族の支配、專制政治の警察的支配、外國帝國主義への依存は農業生産力の發達を阻止してゐた。勤勞農村大衆の資本主義的搾取は中世紀の野蠻な方法（雇役、土地賃借のために收穫の三分の一、二分の一、そして往々その大部分を支拂ふこと、分益小作）により、農村における地主

の全能により、高利貸や×××的奴隸制度によつて倍加されてゐた。農民が一八六一年の農奴「解放」の際に得た土地に對する買戻金の支拂、租税および貢税のために、勤勞農民は否應なしに營養不良となり、穀物を市場に投げ出させねばならなかつた。農村は疲弊し、プロレタリア化し、小數の富農に搾取者を出した。×××は農村における×××政府の×××であり、勞働者及び勤勞農民の明白な敵であつた。『富農は最も兇暴な、最も辛辣な、最も野蠻×××者である』——とレーニンは言つてゐる。レーニンの計算によると、×××時代のヨーロッパ・ロシアの農村では、農奴的搾取によつて破滅され抑壓された千五十萬戸の農民と百萬戸の中經營に對して、百五十萬の農民的ブルジョア及び資本主義的地主の所有地と三萬の農奴的巨大大農場とがあつた。

地主および富農は農業において、途方もない經濟力を持つてゐた。一九一三年には彼等は農村外の商品的穀物全體の三分の二を支配してをり、しかも富農は商品的穀物の約二分の一を支配してゐた。これらの穀物は飢餓的賃銀で、または土地や鋤や馬等々を使用する代償として、貧農や日雇勞働者によつて生産されたものであることは明かである。貧農は租税や公課を支拂ふために商人とか富農とかいふ貧農が常にその農奴となつてゐるものに、その穀物を二束三文で賣らなければならなかつた。富農に經濟的に依存してゐるのは貧農ばかりでなかつた、中農もまたさうである。彼等は資本主義の下では不可避免的に零落すべき基本的大衆であつた。

十月××は地主的土地所有を根本から××××。土地の國有化はソヴェート農村の發達の社會主義

的道的ために富農とX場合の崇高なプロレタリアXの命令である。地主、富農、教會からX土地は、土地のない、または土地の少ない勤勞農民に分配された。土地のない、または土地の少ない農民は一部の土地を國家の土地基金から得た。Xの結果、貧農及び中農はソヴェート同盟において一億一千萬ヘクターを獲得したが、富農はXまで彼等が持つてゐた土地の五分の四を失つたのである。

ソヴェート権力は三億一千五百萬ルーブルに上る年々の賃借料と土地買入のために負つた負債とから農民を解放した。それ（負債）は一九一五年に十五億乃至二十億ルーブルに當つてゐた。地主の農具（家畜、機械、馬等々）の等しい部分が農民の手に移つた。その額は少く見積つても三億ルーブルである。

十月X、農村における激化された闘争、殊に戦時X時代における闘争の結果、農村は「中農化」された。中農がソヴェート農村における農業の中心人物となつた。

農業復興の概略

帝國主義Xとは著しく工業と農業とを破壊した。復興期は農業の復興と共に始まつた。新經濟政策の諸條件の下で貧中農大衆は自分の破壊された經濟を建て直したり、以前の地主や富農の土地を我物とし始めた。

一九二七—二八年に農業の總生産は戦前水準の九五%、作付面積は九八・六%に達した。作付面積は一九二五—二六年に一億六百萬ヘクター、一九二六—二七年には一億一千二百三十萬ヘクター、一九二七—二八年に一億一千五百十萬ヘクターに當つてゐた。一九二八年には作付面積は一般に増加したが、穀物耕作の作付面積が三%縮少した。これはウクライナのステップ地方における冬蒔きの全減と早魘、一部は北カフカズにおける冬蒔きの全減に起因してゐた。一九二八年に技術的作物の作付面積は一七・三%、穀物の面積は二四%増加した。家畜全體は大家畜に換算して、一九二五—二六年には一九一三年の八九・五%に當り、一九二六—二七年は九五%、一九二七—二八年は一〇〇%に當つてゐた。

一層多くの勞力を要する技術的作物及び穀物の作物上の比重が増加してゐることは、農業集約化の過程と農場經營のより完全な方法への移行とを物語つてゐる。復興期においては農民大衆の社會主義的道への急激な變化はまだ起ることができなかつた。この時期には復興した工業も、農業を社會主義的原則に従つて根本的に改造することを保證し得るやうな水準には達せず、またさういふ状態にはなかつた。我々は當時實例を以つて農民大衆に社會主義的大經營の優越を確信させるやうな強大な國營農場も、機械トラクター配給所も、共營農場も持つことができなかった。個人的な勤勞農民經營はまだその破壊された經營を建て直してをらず、以前の富農や地主の土地を獲得したにはしたが自分のものとはしてゐなかつた。この意味で個人的農民經營は農業生産力を發展するためのあらゆる可能性

を使用し盡してはゐなかつた。だが勿論、それはプロレタリア×が農村の社會主義的改造の政策を實現せず、あらゆる方法で農業の復興と社會主義的發達の道への根本的變化のための準備とを指導しなかつたことを意味するのではない。それは農村が「ひとりで」發達したことを意味しない。復興期はあらゆる國民經濟における新經濟政策といふ軌道への社會主義的進出の一時期であつたし、農村でもさうであつた。協同組合的社會性を發展させ、協同組合的習慣を農民に植えつけ、租税、信用、及びあらゆる經濟上の政策によつて、戦争のために破壊された貧しい中農大衆の經營の再建を助けながら、ソヴェート權力は労働者階級と農民との同盟を強化し、富農を孤立させ、彼等を制限し、驅逐し、農民に協同組合の優越を示し、かうして農業を社會主義的原則に従つて根本的に改造するための地盤を準備したのである。復興期に發展した農業における供給、販賣、及び信用の協同組合化は、レニンの協同的計畫實現の最初の段階であつた。この計畫については更に詳細に論及する。

しかし分散した小生産に立脚する農業の發達は、都市工業の急テンポの發達と歩調を共にしなかつた。このために改造期には農業の發展テンポは異常に遲滞せざるを得なかつた。

農業の後進性は穀物栽培の方面で最もはつきり暴露された。一九二八年に穀物の總生産は僅か一九一三年の八五%に當り、しかも商品の部分は大つた五六%に達したに過ぎない、穀物栽培の總生産、殊に商品性の増大が遅れた根本的原因是、農業の分散といふことであつた。農村の中農化の結果、個人的小民經營は革命前の二千五百萬の代りに千六百萬となつた。支配的な三團農法、土地耕作の舊式

な方法のために收穫性の急速な増加は不可能であつた。だから收穫性の向上は作付面積の復興よりも緩慢であつた。しかるに労働者の福祉の一般的上向、ソヴェート同盟の人口の増加、工業の需要の増大は、穀物その他の農産物に對する都市及び貧しい中農大衆自身の需要を途方もなく増大した。

これらすべての事情から、穀物問題が全幅の重要性をもつて立現れた。この問題が、解決されないでは國の工業化の道へも、社會主義的建設の道へも更に前進することができなかつたのである。現在我々は資本主義的分子に對する執拗な攻撃、貧しい中農的經營の基本的大衆の共營化、及び國營農場や機械トラクター配給所の建設に立脚して穀物問題を根本的に解決した。

農業の領域での成長の困難は、國民經濟全體での困難と同様、たゞ富農や都市の資本主義的分子に對する社會主義的攻撃の強化といふ方法、共營農場及び國營農場の普及といふ方法でのみ克服し得たのである。

しかるに富農に對する攻撃の強化政策を否定し、共營農場の建設を「侮辱」し、悲觀的論調で農業の状態を描き、困難の原因を黨の一般的方針に、工業化の高いテンポに見た右翼は、正しいレニンの立場に立つ黨と衝突しようとする努力をした。

日和見主義的な農業「退化説」なるものが現れた。右翼は主張する、農業は發達しないで、没落し退化する、と。同志フルムキンは一九二八年に書いた、「農村は少數の貧農を除くと我々に反對してゐる、『そして』最近取つた方針は基本的中農大衆を無智と絶望とに導いた。」

右翼側の農村状態の「無智な」「絶望的」な評價は、ソヴェート農村が社会主義に至る大道としての共營農場建設を右翼が否定したことの自然的結果であつた。

實際、共營農業を通ずる社会主義的發展道程を取り去るならば、残るはたゞ資本主義的發展道程のみである。なぜならば、小生産の發展可能性は制限されてをり、當時すでに大體において使ひ果されてゐたからである。だが貧しい中農といふ農民の基本的な大衆の没落および破滅を伴はない資本主義的發展道程などといふものは何物をも約束することができない。右翼は資本主義的または社会主義的發展道程以外に第三の道などは、ある筈がないといふことを、どうしても理解することができなかつた。

すでにその根本的可能性を涸渇した個人的農民經濟の土臺の上で生産力を發展させるといふ右翼の提議は、農業の資本主義的發展道程の客觀的擁護以外の何ものをも意味してゐなかつた。一九二八年に右翼は農業が發展せず、退化すると主張したが、それは農業發展の現實的行程と明かに矛盾してゐる。

「そもそも、さういふ退化とは何か——と同志スターリンは一九二八年十一月に全同盟×××中央委員會總會で言つてゐる——そしてそれは農業ではどういふ點に現れねばならないか？ 明かにそれは農業の後退および低下に、新經營形態からその古い中世紀的形態への退歩に現れなければならない。それは農民が、たとへば三圃農法から閑田農法に移り、鋤や機械からロシア式犁へ、不純物のない純粹な種類の種子から不純な系統不明な種子へ、現代的な土地耕作から低度の耕作へ移ること等々に現れなければならない。しかし現在にはこれに似た諸事實が存在するか？ 數萬または數十萬の農民が毎

日三圃農法から四圃農法や多圃農法へ、系統不明の種子から純粹な種類の種子へ、ロシア式犁から鋤や機械へ、低度の土地耕作から高度の耕作へ移りつゝあることは、すべての人、あらゆる人々が知つてゐることではないか？

一體この退化とはどんなものか？ (3)

(3) 「レーニン主義の諸問題」四四七頁、第七版。

復興期及び改造期最初の年度における農業の退化に関する右翼の侮辱的主張は、現實によつて反駁されてしまつた。あらゆる基本的指標によると、農業はその生産を不斷に増大し、その品質を改良して、絶えず發展したのである。

ソヴェート農村における分化

新經濟政策の最初の段階では、小商品生産者の土臺の上で農業の昂進が僅かばかり行はれた。従つてそれは、不可避免的に農業における資本主義的分子の若干の増加を伴つた。中農經營の強化と數的増加と相並んで、農村には富農經營が生長し、分化過程が起つた。

ソヴェート農村における分化過程は資本主義の諸條件の下での分化と著しく異つてゐる。農村の中農大衆は資本主義の場合に起るやうに掃蕩されないで、むしろ増加し、その經營を強化し、改善した。中農經營の數的増大は主として、中農階級に移りつゝある貧農經營の狀態の強化と改善によつ

て説明された。

貧農の一部は農業プロレタリアートに轉化した。その場合、この轉化は貧農の生活水準の向上を伴つた。なぜならば、農業労働者の生計はソヴェート農村では貧農の生計よりも高いからである。中農の僅かな富裕な部分は富農となつた、これもまた富農数の若干の絶對的增加に現れた。

復興期におけるソヴェート農村の分化の性質は次の表から看取される。(4)

	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年
貧農	二八・七	二六・一	二四・九
中農	六七・六	六九・一	七〇・六
富農	三・七	四・六	四・五

(4) 『一九二八年ソヴェート同盟統計報告』、四二頁。

ソヴェート農村の分化過程の特殊性は、プロレタリア××の政治経済的秩序の特殊性によつて説明される。

地主的搾取の××と土地の國有化とは農村の個々の層の経済諸關係に途方もない變化をもたらした復興期において富農經營は主として土地の賃貸と農具の蓄積とのために増加した。しかし借地關係は非常に大きな意義をもつてゐたにしても、自由賣買が演じたやうな分化の要素たる役割を演ずることができなかつた。土地の國有化とその著しい部分を貧||中農經營に與へたことは彼等の経済的地位を強化し、農村の富農的上層の生産力を減殺した。プロレタリア國家の農民の貧||中農大衆に對する多

方面の援助、協同組合促進政策、信用および租稅政策、富農の制限驅逐政策、富農の政治的權利の剝奪、隷屬的關係の法律的支持の缺除、等々——すべてこれらのことはソヴェート農村の生活諸條件を根本的に變化し、復興期及び改造期最初の年度におけるその階級分化の性質の上に影響した。ソヴェート政府は勤勞農民の前に新しい發展の道、共營化に基づく成長の道、發展の社會主義的道を開いた。改造期における共營化の増大、一九二九年の農村における大衆的共營化の方への『大なる急轉』、全域的共營化の地方の形成、および富農の制限驅逐から徹底的な共營化に基づく階級としての富農××への推移は、ソヴェート農村の階級分化を根本的に絶滅してゐる。

現在社會主義への進入期において社會主義的經濟の基礎の完成は、まだ共營農場に入らないソヴェート同盟の農民の貧||中農大衆の前に、たゞ一つの發展の道——共營化を通じて社會主義への——を開いてゐる。

二、社會主義への農業發展の道

既に示したやうに、復興期及び改造期の最初の年度における農業の發展テンポは、全國民經濟における工業化および社會主義的建設のテンポと歩調が合はなかつた。社會主義的原理に基づく農業生産諸力の急速な向上の唯一可能な正しい道は、農民經濟の共營化と國營の徹底的に社會主義的な大企業(國營農場、機械||トラクター配給所)の發展の道である。第十五會黨大會(一九二七年十月)は次

の如く指摘した、――

『現在の瞬間における農民経済を大集團へ結合し變形する任務は、農村における黨の根本的任務として提起されねばならない。』

共營農場および國營農場の發展は、社會主義的農業大企業の優越を美事に證明した。若干の數字を挙げよう。

ソヴェート同盟中央統計局専門家會議の對照表によると、一九二八年の穀物の商品性を收穫總額に對する百分比で表はすと、次表の如くであつた。

すべての穀物	小麥とライ麥
農民經濟……………一九	二二
共營農場……………三八	四二
國營農場……………五九	七〇

『若し以前は――と第十六回黨大會でヤコヴレフは報告した――わが農民經營で一ヘクタールの耕作に夏小麥のために二百三十時間、冬小麥のために二百八十一時間の人間労働が必要だつたとすれば小麥トラストの國營農場では一ヘクタールの耕作のために、一臺のキアクビラーを二時間半働かせると、僅かに九時間の人間労働しか要しない。だが仕事を改善し諸行程を機械化し、鉤を大きくした場合に、トラクターが二時間作業すれば六時間以上は要しないだらう。』

労働力利用の能率は、共營農場では個人經營に比べて四〇―五〇%も増大してゐる。

一九三一年の春の作付には、共營農場に統一された千三百萬の農民經營が四千の國營農場と共に夏穀物作付面積の三分の二以上に播種したのに、千二百萬の個人經營は僅か三分の一しか作付けしなかつた。これは明かに社會主義的大經營の優越を強調してゐる。共營農場よりも二―三週間早く作付を終へた國營農場は前進してゐる。ポリシエヴィキの作付は中農や貧農のために、全域的共營化が有利であることを重ねて確證した。共營農場内の中農經營では、共營農場外にある中農よりも一倍半多くの作付が行はれてゐる。全域的に共營化した地方では共營農場に入つてゐる貧農はまた、その物質的狀態を共營農場外の經營の水準以上に高めた。

國民經濟の發展と新經濟政策の軌道への社會主義的進入の成功とのために、我々が農業の根本的社會主義的改造の必要に緊切に迫られ、またそれが可能となつた時、新經濟政策の初めに當つてレーニンが提起した『誰が誰を』の問題は異常に尖鋭化したのである。

我々はすでに、資本主義國では大農業企業がどんな風にして作られたかを見た。勤勞農民大衆の没落と貧窮化といふこの資本主義的行程をば、富農およびそのイデオログたる妨害者が我々に押し付けようとした。左翼、殊に右翼の日和見主義は、客觀的には吾々をこの同じ行程につき入れた。労働者階級はたゞ二つの戦線における假借なき闘争において、富農との闘争において、農民の中農大衆との同盟における自己の指導的役割を強化しながら、貧農を支持することによつて小商品的生産の資本主義的發展傾向を克服し、中農を共營化の道に轉向せしめることができた。この道の利益を中農に確

信せしめねばならなかつた。彼に社會主義的大農業の優越を示さなければならなかつた。彼を農村の富農的上層への依存から解放しなければならなかつた。黨とソヴェート政府はそれをやつた。中農は共營化の社會主義的道がプロレタリア××の下での農業發展の唯一の道であること、農民はこの道を取ることによつてのみ自分達の福祉と、彼等に必要な労働者階級の支持とを保證するものであることを理解した。黨およびソヴェート政府はプロレタリア××の下において勤勞農民が社會主義に至る大道としてのレーニンの協同組合計畫を最終的に實現することによつて、始めて中農の社會主義への歴史的轉向と農業の一般的向上とを達成することができたのである。

協同組合化——農民の社會主義への道

小商品生産を社會主義的に改造するレーニンの協同組合計畫は、プロレタリア××の意識的計畫的指導の下で、過渡的經濟を社會主義的經濟に××的に改造するといふ一般的過程の不可分の一部である。若し農業における大共營の形態を普及する意識的政策を拒み、農民に社會主義的大經營の利益を事實の上で確信させてゐる國營農場、機械トラクター配給所の組織を拒否し、農業に新しい技術的基礎を與へる大工業の發展を拒み、社會主義的農業に移るために貧しい中農大衆に與へる金融その他のあらゆる援助を拒否するならば、協同組合は社會主義のための闘争の武器から資本主義發展の形態に轉化してしまふだらう。レーニンの協同組合計畫を全國民經濟の社會主義的改造、従つてまた小農民

經營の社會主義的改造の基礎としての工業化、電化から引き離すほど誤つた、危険なことではない。社會主義的工業の指導的役割なくしては、協同組合は農民を社會主義に導くことができない。協同組合はたゞ土地を國有化し、その掌中に支配的地位を収め、そして貧農を支持し、資本主義的分子と容赦なく争闘するために中農と同盟する、といふ正しい政策を實現するプロレタリア××の下でのみ社會主義に到達するのである。

小商品生産者の協同組合化は資本主義の下でも起る。例へばロシアでは富農の階級協同組合が發達した。しかし小ブルジョア社會主義者のみが資本主義的協同組合を通じて小商品生産者を没落から解放し、彼等を社會主義に導くことを夢みたのである。まだ革命前にメンシェヴィキのヌハノフは、資本主義の下でも協同組合化による農村の資本主義的發展が可能だといふ幻想を植え付ける危険を犯したが、レーニンが如何に彼をやりこめたかは周知のことである。

「……彼等は——とレーニンは協同組合に關する論文で言つてゐる——階級闘争とか、労働者階級による政治權力の××とか、搾取者の階級支配の××とかいふ根本問題を顧慮しないで、現代社會を平和的に社會主義に變形することについて夢想を描いた。だから、この「協同組合的」社會主義を全くの夢想と見做してゐる我々は正しい……國民の單なる協同組合化によつて如何にして階級敵を階級的協同者階級敵を階級平和に轉化することができるかといふ夢想は、月並でさへあると我々は考へてゐる。」

資本主義の下では農民の富裕を部分だけが協同組合を作ることができる。協同組合は資本主義的銀行、資本主義的大工業企業及び大商業企業と密接に結びつき、信用を與へられ、あらゆる點でそれらに依存してゐる。資本主義の下では或る協同組合的結合がうまく發達すると、それは雇傭労働者を使用し搾取する資本主義的共同企業に轉化してしまふ。協同組合の性質はどの階級の手に權力、基本的生産手段、支配的地位が握られてゐるか、どんな社會制度が國民經濟において指導的であるか、によつて決定される。

新經濟政策の初めには社會主義的部面がまだ大きくなかつたので、協同組合は資本主義的傳統と傾向から一舉に解放され得なかつた。況んや協同組合においては、協同組合といふ組織形態をソヴェート政府と×××とに對する闘争のために利用しようとしたメンシェヴィキ分子が勢力を持つてゐたので、なほ更さうであつた。ソヴェート政府は協同組合を許容された資本主義と同様にその統制の下に置き、國家資本主義の河床に引き入れねばならなかつた。國家資本主義を廣汎に普及することが提案された。だから當時、レーニンは協同組合を國家資本主義と呼んだのである。

「レーニンは——と同志スターリンは言つてゐる——國家資本主義をわが經濟運用の最も基本的な形態として考へ、協同組合を國家資本主義と關聯して觀察した。」一九二三年には社會主義的部面が著しく發展し強化し、國家資本主義は廣汎に普及しなかつたが、この時既に、レーニンはわが國で協同組合は完全に國家資本主義と一致すると言つた。

我々はすでに本書の初めの諸章で次のことを一再ならず述べた、即ち過渡期には小生産者を×××することができず、一舉に社會主義的諸關係に導くことができない、彼等を育て直し改造しなければならぬ、と。小農民を改造する道は、この道の最初の段階が農民のために最も單純で、分り易く、やり易い、利益の多いやうなものでなければならぬ。この道は農民の小所有者としての利益を社會主義的經濟の建設といふ一般的任務に結び付け、しかもこの結び付けを社會主義的任務に從屬させなければならぬ。プロレタリア×××の下ではかういふ道が、農業協同組合化の道なのである。この道の最初の段階は主として流通領域における農民の協同組合化、協同組合的社會性の涵養にあつた。我々は早くから協同組合を通じて都市工業品を買ひ、その生産物を販賣する利益を實際に農民に示すことができた。新經濟政策の最初の段階では我々は共營的大生産、社會主義的大經營の優越を幾百萬の農民に事實上示すことはできなかつた。國營農場は活動し初めたばかりであり、その數も多からず、大工業はまだ復興してゐなかつた、我々は十萬臺のトラクターを農民に與へることができなかつた。この十萬臺のトラクターは、レーニンの言葉（現在の我々の建設の經驗に確證された）によると、急速に農民を社會主義的發展の道の方に引き入れることができる筈であつた。

しかし、本質的には左翼日和見主義者が説いてゐるやうに、流通領域と生産領域との協同組合化は互に相容れない協同組合化の諸段階である、即ち先づすべての農民を流通領域で協同組合化しなければならぬ、しかる後生産領域の協同組合化に移ることができたらう、と考へるならば正しくなるだ

らう。この考は協同組合に關するレーニンの教へや、發展の現實的行程とは少しも一致してゐない。

すでに我々はレーニンの協同組合計畫の實現の最初の段階に、即ち協同組合の歴史的形態が販賣組合、供給組合、および信用組合であつた時に、共同耕作組合からコンミュンに至る集團的生産結合體を發展せしめてゐた。我々は農民の社會主義的改造の方法としての農民經營の協同組合化をあらゆる種類の協同組合との一般的關係において、そして既に述べたやうに、國民經濟の社會主義的改造のあらゆる過程との聯關において考察しなければならぬ。さうでない場合には、例へば左翼の場合のやうにレーニンの協同組合計畫は轉覆され、共營化は協同組合と無意味に對立してしまふのである。

レーニンの協同組合計畫は、漸次幾百萬の農民を生産様式そのもの、社會主義的原則による根本的變化へと導くやうに仕組まれてゐる。殘餘のあらゆる種類の協同組合は相互に結びつき、プロレタリア××の經濟政策と支配的地位とのあらゆる楯杆と結び付いて、この協同組合計畫と過渡期との基本的任務の實現をその目的としてゐる。

『小經營者の協同組合から社會主義への推移は——とレーニンは「現物税について」といふ論文で書いてゐる——小生産の大生産への推移である、即ちより複雑で、しかもうまく行けばより廣汎な人民大衆を捉へることができ、古い前社會主義的、いや前資本主義的な諸關係、あらゆる「新奇なもの」に抵抗するといふ意味で最も頑強な諸關係の、ヨリ深いヨリ生々とした根幹を斷ち切ることが出来る推移である……協同組合政策がうまく行けば、我々は小經營を引き上げ、それらが短い期間に任意結

合の原則による大生産へと移ることを容易にすることができる。』

メンシエヴィキ達は常に農民的「偏向」の故にポリシエヴィキを攻撃し、レーニン主義の思想はマルクス、エンゲルスの教へに矛盾することを「立證」しようとした。これはメンシエヴィキが労働者階級から同盟者——勤勞農民——を切り離し、労働者階級の力を弱め、資本主義を救はうとするために必要なのだ。だが實際にはレーニンがプロレタリア××のこの最重要な問題において、マルクス、エンゲルスの教へを發展し、完成したことを知るのには容易である。エンゲルスはプロレタリアートが×力獲取後勤勞農民に對して採用しなければならぬ政策について『フランスおよびドイツにおける農民問題』といふ著書の中で次のやうに書いた。『國家權力を××した我々は、我々が大地主についてやらねばならぬやうな……×××××を小農民についてやるとは考へないだらう。小農民に對する我が任務は、何よりも先づ彼等の私的生産と私的所有とを共同的のそれへ、しかもこの目的のためには暴力的にはなく、實例と社會的援助の提供によつて、導くことにある。』

農業の社會主義的改造の諸形態

小農民經營の分散した經濟を社會主義的大經濟の軌道に移すことは、都市と農村を一つの單一經濟に結び付け、資本主義の發達において作り出された都鄙間の永久の溝渠を撤廢することである。農民（中農、貧農）の共營農場への加入は、彼等の小所有者から社會主義的労働者への轉化の道に、根

本的な決定的な一步を踏み出したことに外ならぬ。勿論、共營農場に加入した農民は、共營農場の入口で自分達のすべての小ブルジョアの習慣と偏見とを棄て、しまつたのではない。彼等の個人主義的習慣と偏見との最後の克服は、共營農場自體の中で集團的行動の結果、技術的基礎の向上の結果、共營農場の幹部と共營農場加盟員の文化的水準との發達の結果として得られるのである。

企業の社會的性質を決定する根本的なもの、即ち基本的生産手段の所有、生産における人間の諸關係、労働生産物の分配——これは共營農場では社會主義的類型に従つて組織されてゐる。共營農場では基本的生産手段は社會化されてをり、生産物は根本的には労働に従つて分配される。共營農場には搾取者階級も被搾取者階級もない。小所有者の殘存物や、個人主義的習慣や、これらの殘存物を克服するための若干の階級闘争の分子はあるにはあるが、それは共營農場を社會主義的類型の企業でないと考へる何等の根據も與へない。

共營農場建設の現段階におけるその基本的形態はアルテリである。アルテリでは、農民は基本的生産手段（農具、馬匹、酪業用家畜の一部）の社會化に基づいて社會的經營を行つてゐる。しかしこれと並んで、アルテリの成員は副次的なものとして更に個人經營——社會化されない小家畜、家禽、住宅、それから牛その他を持つてゐる。

「アルテリに加入する農民に向つて——と第十六回大會でヤコヴレフは言つてゐる——速かにあらゆる個人主義的習慣と利益を棄てよとか、社會化された經營を補足する私的經營（牛、羊、家禽、小

蔬菜園）を遂行する可能性を棄てよとか、自ら賃銀労働者を使用する可能性を棄てよとか要求することは、マルクス主義レーニン主義のイロハを忘却したことを意味する。」

共營農場のヨリ高い形態はコンミンンであつて、それはあらゆる生産手段を社會化するといふ點でアルテリと異つてゐる。コンミンンの特質は農民が義務として共同の家屋に住み、義務として消費が完全にコンミンン内で充たされねばならぬことにある、と考へるのは粗雑な考へ方だ。

アルテリへの過渡的形態は共同耕作組合——即ち土地の社會的耕作共同體である。この組合内では生産手段は農民の個人的所有である、たゞ耕作労働の時にのみ共同に利用する。共同耕作組合における収益の分配は、各成員が土地の共同耕作に當つてそれをもち合つて参加する財産の額に應じて行はれる。

農業における社會主義的企業の最高形態は國營農場であつて、それは農業の社會主義的改造において指導的役割を演じてゐる。國營農場は國營企業の徹底的に社會主義的な典型であつて、社會主義的諸關係の點では都市のどの國營工場とも少しも異ならない。國營農場の指導者は國家の當該組織體によつて任命され、その労働者は都會のすべての工場の労働者と同じく労働賃銀を受取り、そのすべての生産物の處分は國家によつて行はれる。ところが、共營農場はその加入者によつて選舉される評議會によつて管理され、その生産物は共營農場が處理し、共營農場は生産物を國家に販賣する。

國營農場は最も優秀な農業プロレタリアート、最も優秀な試験場をもつた農業中心地であつて、そ

の成果を示して農民に社会主義的大経営の優越を確信させるものである。

農場の合理的組織の明白な指標の一つは收穫性である。農民経営に対する國營農場の優越性は、收穫性とその増加のテンポとの比較によつて鮮かに示されてゐる。

それは次の表から看取される。

穀物收穫（一ヘクター當リツェントネル）

國營農場(穀物トラストを含まず)	一九二七年	一九二八年	一九二九年
農民經營	九・九	一一・五	一三・〇
農民經營一〇〇に対する國營農場の百分率	七・五	七・七	八・〇
	一四九・四	一六二・五	

國營農場はその成果を示すだけに止まらないで、農民の土地をトラクターで耕作してやつたり、改良された家屋、種畜等々を供給したりして、農民に現實的な具體的援助をも與へてゐる。

國營農場中心組織體の國營農場が農民的農場に示した素晴らしい援助を、完全にはないが明かに示してゐる若干の數字を擧げよう。それは次の表に示されてゐる。

一九二九年春の作付カムバニア

一九三〇年春の作付カムバニア

一九二九年の夏作付のため農民經營に與へられた種子材料 (單位ツェントネル)	精製された農民の穀物 (單位ツェントネル)	農民經營のために行はれた機械 (單位ヘクタール)	農民經營で耕作された面積 (單位ヘクタール)	働で耕作された面積 (單位ヘクタール)	五月二十五日に耕作された面積 (單位ヘクタール)	五月二十五日に作付された面積 (單位ヘクタール)
三、四、五〇	五七、六〇	三、八八	一九、六六	一三、三六	一五、〇三	一八、九〇

國營農場が農民經營に與へた農業上の援助の結果はどうかと言へば、これは中央黒土地方の一國營農場の活動を示す次の表で見ることが出来る。

經營の種類	收穫 (一ヘクター當リツェントネル)	牛乳 (單位ツェントネル)	一農場當り生産物の販賣 (單位ルーブル)
國營農場から農業上の援助を受けた經營	ライ麦	燕麥	
國營農場から農業上の援助を受けた經營	一一・一	一一・四	一七九
受けない經營	六・七	九・二	四〇

國營農場の意義は個人的農民經營に對するその影響、農業共營化運動上のその役割だけに限られてゐない。それは完全な經營方法を明示し普及するところの、試験的研究所としての状態からはずつと以前に脱却してゐる。それは史上未曾有の大穀物工場、大牧畜經營に轉化したのである。國營農場の

優越とその實際的役割とは非常に増大したので、我々は今日の牧畜問題解決の重心を國營農場に置くことができるやうになつた。

一九三〇年には次のやうな國營農場ができた。百四十の國營農場と二千萬ヘクターの土地と百二十萬頭の家畜を持つ「スコートボード」(牧畜家)、三百五十の國營農場と百二十萬ヘクターの土地と二十一萬八千頭の家畜を持つ「スヴィノボード」(養豚家)、百十五の國營農場と千三百萬ヘクターの土地と二百七十萬頭の家畜を持つ「アプツェボード」(養羊家)、五十二の國營農場と百三十萬ヘクターの土地と五萬頭の家畜を持つ「マスローツェントル」(バタ中心)、および各共和國の牧畜國營農場(養馬、家禽、酪業國營農場)の廣汎な網。

國營農場と並んで共營農場運動の決定的成功の上に素晴らしい役割を演じてゐるのは、機械Ⅱトラクター配給所および機械Ⅲトラクター隊である。機械Ⅱトラクター配給所は國營または協同組合的企業であつて、多数のトラクター(例へば最初の機械Ⅱトラクター配給所であるオデッサ地方のシエヅチエンコ國營農場の配給所は百臺のトラクターをもつてゐた)、およびトラクターに附屬する土地耕作、播種、並びに收穫取入れのための道具を所有してゐる。

機械Ⅱトラクター配給所には修繕工場がある。

トラクター隊は修繕工場を持つてゐないで、少数のトラクターおよび附屬道具の總體である。機械Ⅲトラクター配給所は多くの村(土地共同體)と契約して農民の耕地を耕す。すべての作業は農業指導者

と機械Ⅱトラクター配給所の技術家との指導の下に農民自身が行ふ。各農家は自分の分割地の大きさに従つて作業を行ふ。機械Ⅲトラクター配給所は農民にトラクター、その他の機械の作業を教へる。機械Ⅱトラクター配給所との契約によつて農民の全作付地は一つの地域に統一され、境界は撤去され、循環農法の性質が確立される。全作業の組織の代償として機械Ⅱトラクター配給所は、農民から糞、穀殻その他を除いて收穫の二五—三〇%を受取る。機械Ⅱトラクター配給所は境界を撤去して利用面積を増大し、耕地の遮断を克服するが、その外に、農民に機械を利用して土地を共同的に耕作することの利益を一目瞭然と示す。

すでにシエヅチエンコ配給所の活動第一年度に三〇—四〇%の收穫性の向上が示された。

機械Ⅱトラクター配給所は普通契約によつて農民が行ふ諸々の農業的方法の實行を定め、その指導には機械Ⅱトラクター配給所の農業指導者が當る。機械Ⅱトラクター配給所の作業は農民の労働を著しく容易にする。機械Ⅱトラクター配給所の利益は農民にとつて極めて明かなので、農民自身は自分の地方に機械Ⅱトラクター配給所を組織することを願ふやうになつた。機械Ⅱトラクター配給所は富農に對する闘争の強力な要因である。彼等富農は、勤勞農民の××××化との武器としての自分の道具を利用する可能性を奪はれてゐる。機械Ⅱトラクター配給所はまた、農民の農場を社會主義的原則に従つて改造するための強力な槓杆である。殊に機械Ⅱトラクター配給所の活動は、生産手段を奪はれ、その結果富農の農奴とならなければならぬ貧農にとつて利益がある。機械Ⅱトラクター配給

所をめぐつて富農との酷烈な階級闘争が展開されてゐることは明白である。富農は機械トラクター配給所によつて組織された共營農場の中に浸入して、貧農および中農の社會主義的經營への移行を邪魔しようとしてゐる。

農業の技術的および社會的改造における機械トラクター配給所の意義は極めて大であるが、それは緊切にトラクターおよび農業用機械を生産する工場の建設の發達を必要としてゐる。勞働者階級の英雄主義のおかげで、我々は機械トラクター配給所を急速なテンポで發達させることができた。一九二八年には一つの機械トラクター配給所があつたにすぎないが、一九二九年には百五十五、一九三〇年には四百七十七、一九三一年には千四百の配給所ができた。

豫約買付

農民經營の社會主義的發達の道への轉向を促進する重要な要因は豫約買付である。豫約買付は協同組合計畫の有機の一部を成してをり、協同組合と對立し得るものでも、それに代り得るものでもない。豫約買付契約は國營工業が協同組合を通じて勤勞農民と締結するものである。農民はこの契約に従つて、定められた期間に收穫の一定部分を契約價格で工業團體に供給する義務を負ふ。工業團體は普通、農民の經營に貨幣で前貸金を與へ、彼等に改良種子や改良機械等々を供給する。

豫約買付は農民經營の生産力を社會主義的原則に従つて高める目的で、農民經營の上に社會主義的

部門が働きかける一つの槓杆である。豫約買付契約中には普通、生産物の品質と多くの農作上の諸方策とが定められてゐる。豫約買付の意義は個人的農民經營を共營化するその役割だけに限られてゐない。豫約契約は共營農場を捉へてそれらの連絡を強め、共營農場に對する國營企業の影響を強める。豫約買付は流通部面における計畫性を強化し、市場の盲目性を克服し、交換から私的商人を驅逐することを助け、農業生産物の組織的蓄積、個人的及び集團的農業の生産活動に對する計畫的働きかけを保證する。豫約買付はまだ協同組合化されない農民經營を協同組合に引き入れ、協同組合を流通過程の協同組合化から生産自體の協同組合化に移すのである。

一九三一年の豫約買付計畫は次の豫定を定めてゐる。

穀物及び油脂栽培物	五千八百萬ヘクタール、そのうち四百四十三萬ヘクタールは向日葵油
棉花	全豫想收穫千九百萬ブード
甜菜	百二十萬ヘクタールの全作付面積
ドラゲンツ亞麻	百十五萬ヘクタール
ウドリアシ亞麻	四十萬
大麻	七十萬

このやうにして豫約買付は共營農場にとつても個人經營にとつても、工業との連絡の基礎的形態の一となつてゐる。

低度の社会主義的形態から高度の社会主義形態への轉化

農民はその生産手段の完全な社会化を一遍にはやれない。農民は流過程の協同組合化から大衆的に始めて、協同組合の利益、たとへば國營農場のやうな社会主義的大農場、機械トトラクター配給所の利益を確信し、プロレタリア國家側の現實的な助けを得て、生産の協同組合化の道に立つのである。そしてこゝでも、事は全生産手段の完全な社会化から始まるのではない。社会化の種々な段階は、農業の社会主義的改造の種々な段階としての共營農場の種々な形態を特徴付けてゐる。共營農場が強化され、その技術的基礎が改良され、共營農場員の個人主義的習慣が克服される度合に従つて、共營農場の低い形態からヨリ高い形態への發展が行はれる。共同耕作組合はアルテリに發展し、アルテリはコンミンに發展する。内部的に完成され、國營企業との關係を強化された共營農場は、漸次社会主義的企業から徹底的な社会主義的企業に轉化する。勿論この過程は、何かの圖式に従つて押付けたり、あわてゝ實現したりすることのできない、複雑な過程であることを念頭におかねばならぬ。共營農場及び國營農場の建設過程、大衆のイニシアティブの創造及び發現過程において、國營農場、共營農場、國營工業企業の間、連絡と協同との多種多様な形態が作り出されるだらう。しかしかういふ種類の協同は、共營農場を國營農場に従屬させるといふ非レーニンの試みと共通する何物をも持つてはならない。「大會は國營農場と共營農場とを一しよくたにし、——と第六回ソヴェート大會の

決定は言つてゐる——お粗末な國營農場と共營農場結合を作り出し、共營農場を國營農場に従屬させようとするあらゆる試みを、ソヴェート權力の深刻な攪亂と考へる。」また農民の生産結合はどうしても單純な結合から始まつて、あらゆる共營農場發展の段階を順々に經過しなければならぬとか、農民は端初的なものを飛びこえて一遍にヨリ高い社会化の段階に立つことはできないとか、さういふ風に考へてもならない。一度ヨリ高い段階の社会化がどこかの地方で達成され、それが共營化の大衆的形態であるならば、まだ社会化されない農民經營の次の共營化は、明かに、端初的なものを飛びこえてこの形態から始めることができる。たゞ大切なことは、このための物質的諸前提があること、共營化の最高形態——コンミン——に生活に即しないで飛躍しないこと、農民の結合が自由意志によつて行はれることである。

農業の社会主義的改造がレーニンの協同組合計畫の軌道の上で到達した成功は、その基礎をわが國の工業化と電化に持ち、且つ農業の社会主義的改造事業に投じられた巨大な資金の結果である。

「すべての社会的建設は——とレーニンは言つた——一定階級の金融的支持がある場合にのみ發生する。』共營農場の基礎的基金を作る上に國家が参加した部分は、第十六回大會でヤコヴレフが報告したやうに、その金額の五分の一を下らないものと見做されてゐる。

復興過程の完成と、急テンポで農村の技術的武装の開始を可能にしてゐる工業的基礎の創造——改造期に達成された——とに基づいて、第十五回大會は農業共營化の任務を基本的任務として提起した。

一九一三年に農業用機械に七千萬ルーブルが支出されたとすれば、一九二七—二八年には一億三千万ルーブルが支出され、一九二八—二九年には一億八千八百萬ルーブル、一九二九—三〇年には三億三千三百萬ルーブルが支出された。そして一九三一年には十億三千萬ルーブルが支出される筈である。農業の最も完全な社會化、都市および農村、共營農場員と労働者との間の差異の最後の清算の道に至るべき、農業の一層の發展の成功は、最大限度のテンポでわが國の工業化が一層進展することに懸つてゐる。

全般的共營化、階級としての富農の撲滅、および農村におけるソヴェート權力の支柱の問題

農業の共營化事業における決定的急轉は、第十五回と第十六回黨大會との間の時期に生じた。勿論この急轉は自然發生的に生じた何か豫想外のことではない。それは黨とソヴェート權力が行つたあらゆるレーニンの政策と、我々が前に述べたあらゆる方策とによつて準備されたのである。この急轉は農民が社會主義的大農場の利益を知り、大衆的に共營農場に加入したといふ點に現れた。共營化が非常に盛に行はれたので、全地方が完全な共營化の地方と化するやうになつた。任意の地方または領域の共營化の根本的完成の尺度は、貧農Ⅱ中農經營の百パーセント全部をしつかと捉へたといふことではなく、農民は經營の作付面積の七五—八〇%を下らない部分を持つ農民經營の六八—七〇%を下ら

ない部分を共營農場に引き入れたことである。』(一九三一年八月二日の全露×××中央委員會の決定から。)

すでに一九三〇年五月一日には基本的な穀物地方では、共營化が農民經營を一九二八年春の二—三%の代りに四〇—五〇%を捉へ、ソヴェート同盟について言へば共營農場の作付面積は一九二九年春の二十萬ヘクタールから一九三〇年の三十萬—三十五萬ヘクタールに増加した。

共營農場に利益があるといふ考へは廣汎な大衆の間に非常に普及したので、農民は大衆的にその古い原始的な生産手段を社會化し、共營農場を作るやうになつた。

共營農場は、農民の道具をたゞ集合してこれを集團的に利用することでさへ個人農場よりも大きい利益を與へる、といふことを示した。

若し貧農Ⅱ中農の農民大衆を社會主義的の道に向つて根本的に昇進させた決定的基本的要素を簡單に數へ挙げると、次のことを指摘しなくてはならない。

一、大工業の急速な發展、これは社會主義的原則に従ふ農業の根本的改造の基礎を作り出し、ソヴェート權力が適時に救済を組織したり、勤勞農民の新機械、新技術(これがないので舊い耕作形態の下では農民の状態には血路がなかつた)に對する要求を充したりする可能性を與へた。

二、レーニンの協同組合計畫の徹底的實現、農業協同組合化の發展、國營農場、機械Ⅱトラクター配給所の發達、社會化された農場の優越を農民に確信させたこと。

三、資本主義的分子、殊に富農に對する攻勢の強化、労働者階級と中農との同盟を強化し中農のプロレタリア×××、富農反對を事實上示した一九二八年および一九二九年における穀物準備遂行の成功。農村の貧農および日傭労働者を組織する活動の展開。

四、共營化の事業は先進的労働者、即ち我國のあらゆる地方に最良の同志から成る部隊を派遣した先進的労働者を味方にしたこと。

五、右翼的偏向と諸々の黨内における反革命的トロツキー主義の粉碎。

共營農場および國營農場の大衆的發展は我國民經濟の諸部門の相互關係を激變させてゐる。全域的な共營化に基づいて黨は富農の制限驅逐政策から撲滅政策に移つた。階級としての富農撲滅は戦時××主義時代における富農退治政策とは非常に異つてゐる。戦時××主義の方法への復歸に關するあらゆる日和見主義的議論は、富農を共營農場に對する闘争に利用しようとする下らぬ武器である。戦時共産主義時代の富農退治は彼が革命前に有つてゐた勢力を奪つた。しかし當時國內では小生産が支配してゐた限り、我々は富農を撲滅することができなかつた。階級としての富農撲滅の特殊性は次の點にある、即ちこの撲滅は資本主義にとつての榮養環境——小生産——が社會主義的軌道に移り、資本主義の根幹が根こそぎにされつゝある時、貧農大衆によつて下から實現されてをり、全域的共營化の基礎の上で行はれてゐることである。

「これに照應して——と同志ヤコヴレフの報告に關する第十六回黨大會の決議は言つてゐる——新

たに今や農村におけるソヴェート××の支柱といふ問題が提出されてゐる。今後ソヴェート同盟の最重要穀物地方においては、農村が二つの基本的部分に分れる。即ち眞實の鞏固なソヴェート××の支柱である共營農場員と、貧農および中農でまだ共營農場に加入しようとは思はない限りさうした貧農中農から成る非共營農場員。しかしかういふ貧農や中農も共營農場の大衆的經驗によつて比較的短期間のうちに共營化の道に進むべき必要を確信するに至ることは疑ひない。』そして實際第十六回大會から第六回ソヴェート大會に至る九ヶ月の間に、共營農場に結合された六百萬の經營に更に三百萬の農民經營が結合され、しかも一九三一年七月二十日に至つて共營農場は千四百萬、即ち貧農||中農經營の五七・一%を結合した。今や支配的な中心的な農業形態は共營農場の農民である。共營農場に加入しない貧農および中農の前には、今や卒直に次の問題が提出された、富農に賛成するか、共營農場に賛成するか、なぜならばこの外の道はあり得ないからである。『労働者と共に共營農場建設を援助し、共營農場運動を支持し、富農に對する決定的闘争の遂行を援助する貧農および中農||個人のみが、労働者階級との同盟者たりうるのだ。』(第六回ソヴェート大會における同志ヤコヴレフの報告より)勿論これは、共營農場への加入が自由意志であることを些かでも變更するものではない。自由意志といふことは、飽く迄共營農場運動の侵すべからざる基本的原則であるだらう。×およびソヴェート××はあらゆる左翼的『偏向』、農民に共營農場加入を強要せんとするあらゆる試みを最も決定的に阻止するだらう。

『貧農Ⅱ中農大衆を集團に結合するために、彼等について——と第十六回黨大會の決定は言つてゐる——暴力や行政上の強制を用ひようとするあらゆる試みは、黨方針の深刻な攪亂であり、權力濫用である。』

勤勞的個人農に社會化された經營の優越を確信させ、彼等を共營農場に引き入れること、こゝに任務がある。個人農（貧農および中農）のあらゆるけしかけは富農に有利で、共營化には不利である。今日の個人農——貧農および中農——は明日の共營農場員であることを考へなければならぬ。

中農經營が大衆的に共營農場に流入すること、關聯して、共營農場員の貧農の部分と共營農場に加入した中農との正しい關係、といふ問題が大きい意義を持つて来る。まだ共營農場運動の現段階では残つてゐるところの共營農場における貧農と中農の財産上の不平等は、共營農場員の僚友的勞働を破壊する目的で富農によつて利用されようとしてゐる。

共營農場において嘗て貧農であり中農であつた者の同盟を強化し、収入の社會化された部分を擴張することによつてまだ共營農場内に残つてゐる彼等の間の不平等の分子を克服することは、 $\times\times$ に決定的な打撃を與へるため、 $\times\times$ としての彼等の $\times\times$ を完成させるために最重要な任務である。

共營農場の指導に中農が参加すること、彼等の經營上の經驗を利用することは共營農場の仕事強化し、改善する。中農の共營農場員は共營農場の同じ權利をもつ成員でなければならぬ。しかしこれは、中農が積極的に参加する場合共營農場運動の指導が勞働者階級や日傭勞働者の貧農に屬しなく

なるといふことを意味するのでは毛頭ない。貧農の活動は是非とも必要である。貧農には中農よりも個人的經營の部分が少ない。だから貧農には小所有者の偏見が少なく、經營の私的部分の方に引きつけられることが少ない。貧農は富農の影響を受けることも少ない。

最も單純な生産的結合、例へば共同耕作組合内では、貧農の組織が絶対に必要である。なぜなら貧農に依據することによつてのみ社會化のヨリ高い段階に移ることが出来るからである。しかしアルテリ内では貧農群を組織する必要はない。アルテリでは基本的生産手段が社會化され、中農Ⅱ共營農場員は貧農と共に富農に對する闘争において既に勞働者階級の鞏固な支柱であることを示した。アルテリにおける貧農との協同動作は、その成員に最も先進的な中農をも含むところの先進的共營農場員の活動と合流する線に沿つて行はれねばならぬ。

農業の工業化

わが國の工業化は工業および農業をも含む統一的な國民經濟的過程である。農業の工業化の基礎は工業と同じやうに動力である。近年我々は農業における機械的動力の比重を増加する點で著しい進歩を遂げた。穀物國營農場では既に作業の完全な機械化が達成された。國營農場のトラクター隊は四十五萬馬力持つてゐる。コンバインの數は一九二九年の四十五臺から一九三〇年の千六百臺に増加した。一九三一年には國營農場は收穫の六〇—六五%を取入れる六千臺のコンバインを持つたらう。一

九三〇年の共營農場における機械的動力の絶對的增加は、その比重の低下を伴つた。これは共營農場内の中農經營の大衆運動が馬匹の社會化に向つて行はれ、舊農具の社會化の基礎の上で、役畜といふ動力の上で、新共營農場を作るといふことに向つて行はれたからである。一九三〇年における共營農場の機械化は二〇%に達し、しかも全域的共營化の地方ではもつと著しく高い比率に達した。一九三一年には共營農場が三〇%も機械化されるだらう。だが農業全體を取つて見ると、一九二七年には機械的動力は一・四七%に當つてゐたが、一九三〇年にはその比重が七・五六%に高められた。五倍の増大である。しかしそれはやはり極めて僅かな比率であつて、農業の動力的基礎の著しく壓倒的な部分は役畜が占めてゐる。一九三〇年には役畜が九二・四四%、トラクターが五%、トラックが〇・八%、牽引車が〇・七三%、据付動力が〇・五九%に當つてゐた。トラクター建造の急速な發達は、次の五ヶ年間にトラクターを農業における基本的動力とする可能性を保證してゐる。第二次五ヶ年計畫は、暫定計畫によると、トラクター製造所の能力を千五百萬—千六百萬馬力までにするやうに目論んでゐる。農業用トラックの数は第二次五ヶ年計畫の終りには二百萬—二百五十萬臺にまで達するだらう。一九三三年から技術的作物の全生産が機械化され始める。牧畜國營農場は一九三二年から、飼料獲得および飼料生産の機械化の土臺の上に建設され、一九三三年からは輸送その他の過程（飼料の運送等々）の機械化の土臺の上に建設され始める(5)。

(5) ソヴェート同盟農業人民委員部參與會員同志ツァルフの報告の材料による、「アラウダ」、一九三一年七月

二十六日。

しかしこれは、農業用動力における馬匹の役割がゼロになるといふことを意味するのではない。一九三三年までは馬および役畜はまだ動力の總能力中で支配的であるだらうし、また第二次全五ヶ年の間もまだ馬匹の比重は著しいだらう。こゝ數年間はトラクターと馬とは農業における基本的動力であるだらう。馬匹の閑却ではなく、トラクターと併用して一層上手に利用することが重要な任務である。農業のトラクター化が馬匹のヨリ上手な利用を促してゐることを指摘することが出来る。馬は主として、作付面積の收穫高の増加と技術的作物の比重の増加とに關聯して増大する運輸活動に従事してゐる。以前には個人的經營はその規模が小さいために、馬を主として耕作労働の時期に使ふだけで一年の大部分は養つてをかなければならなかつたとすれば、共營化による經營の擴大は馬匹利用の能率を著しく高めてゐる。個人的經營では馬匹は三五—四〇%利用されてゐるにすぎないが、穀物地方のコンミンでは一九三〇年に馬匹は八〇%も利用された。

これにも劣らず重要なことは、トラクターの作業率を増加してその利用を改善することである。一九三〇年に機械IIトラクター配給所のトラクターの作業率は平均二、二二九時間であり、穀物トラストの國營農場では二、三〇〇時間であつた。一九三一年には機械IIトラクター配給所および國營農場のトラクター作業率は二、五〇〇時間に達する豫定である。アメリカ合衆國ではトラクターの作業率は僅か四〇〇—六〇〇時間に達してゐるに過ぎない。例外なのはキアンベル會社でこゝではトラクタ

一作業率が二、〇〇〇時間に達してゐるが、ソヴェート同盟におけるトラクターの作業率に劣ること著しい。この點に社會主義的農業の資本主義的農業に對する優越が現れてゐる。現發展段階において農業におけるトラクターの普及と馬匹の利用とを對立させることが正しくないとすれば、それにも劣らず正しくないことは、農業のトラクター化と電化とを對立させることであらう。「若干の同志は——同志スターリンは第十六回黨大會で言つた——トラクターがすでに時代遅れとなり、トラクターから農業の電化に移る時代が來たと考へてゐる。これは勿論馬鹿げたことで空想である。」これは勿論、農業の電化といふ大きい必要な任務を提起してならないといふことを意味しない。トラクター化といふことは現段階において農業を新しい動力の基礎に移すための基本的任務であるが、これは農業電化の現状である實驗室的試験の段階から、内燃動力と電氣動力の結合的適用によつて農業における電氣動力および電氣エネルギーの實際的な普及に移ることは少しも矛盾せず、反對にそれを助長するものである。アメリカ合衆國では殆ど二百種の農業労働に電氣エネルギーが適用されてゐる。これは既に技術的方面から見ても農業への電氣の普及が實際に可能であることを示してゐる。十乃至十五地方の電化、農業生産の種々な過程に電氣力を適用したその諸結果の老練な全面的研究、これはもつと大規模な電氣の使用に直接に移るための必要な條件である。この段階を通過して始めて、我々は農業の全面的電化への廣い道を開くことができるのである。

第二次農業五ヶ年計畫の豫定案は農業電化の遂行のために多くの方法を目論んでゐる。農業は電化

の一般網の中に入れられ、しかもその割合は發電所總出力の一〇乃至一五%を占める筈である。それは酪業、養豚、その他の牧畜、および蔬菜國營農場における飼料獲得以外の機械化されうるすべての過程、國營農場および機械トラクター配給所の修繕工場、養禽國營農場、孵卵所を完全に電化する可能性を與へてゐる。この外に電動力の助けによつて、一千萬乃至一千五百萬ヘクターが耕作されさだらう。(6)

(6) ソヴェート同盟農業人民委員部參與員同志ヴァルフの報告材料による。「プラウダ」一九三一年七月二十六日。

すでに今日牧畜、家禽業の領域、果物蔬菜經營および數種の技術的作物は、電力なしでやつて行くのは困難である。こゝでは電氣が寧ろ首位を占めなければならない。また土地改善作業及び大灌漑施設も電力の適用を要求してゐる。

農業の工業化の中には、その重要な構成部分として、農業の電化と密接に關係してゐる農生産物の半製品および完成品への精製の組織といふことが含まれる。

農業と工業との間の境界の撤廢は、複雑な農工業複合企業における農業労働と工業労働との直接的結合、有機的統一と結びついてゐる。かゝる企業の中までは農業原料の生産、その完成品への製造、生産の廢物の工業的利用は統一的な生産過程となるだらう。大共營農場は既に今日、全く多くの從屬的工業企業や小農業原料精製企業を育ててゐる。農工業複合企業の廣汎な發達は、全國國民經濟の適切

な地方化と地方的計畫化の改良および完成の基礎の上で可能となるだらう。

かかる企業を正しく有効に組織するためには、その下で地方的工業が発達し得るところの地方の自然的地理的諸要素と技術的、動力的基礎とを厳密に顧慮することが必要である。

農工業複合企業の形成上巨大な役割を演ずべきものは、機械Ⅱトラクター配給所である。第二次五ヶ年計畫の豫定案によると、全共營農場は機械Ⅱトラクター配給所の基礎の上に建設されるだらう。機械Ⅱトラクター配給所は、自分が結合する共營農場の統一的な經濟的中心に轉化しなければならぬ。機械Ⅱトラクター配給所はトラクター隊、電動力、あらゆる機械的農業用具、機械的運送をその指導の下に集中する。五ヶ年計畫は機械Ⅱトラクター配給所の中心を國道、自動車道路、全年度間の自動車運送の正常な運送を保證する鐵道運送路と交叉するやうに配慮してゐる。その發達に伴つて機械Ⅱトラクター配給所は、當該地方の農工業中心點とならなければならない、そこでは農業企業ばかりでなく工業企業をも集中されるだらう。かうして機械Ⅱトラクター配給所は都市と農村を近接するための強力な要素となるのである。(7)

(7) ソヴェート同盟農業人民委員部參與會員同志ヴォルフの報告材料による。「プラウダ」、一九三一年七月二十六日。

三、「コンドラタイエフ主義」と、レーニンの協同組合計畫の右翼およびトロツキ主義者による歪曲

コンドラタイエフ主義の本質

農民經營の資本主義的發展傾向はコンドラタイエフ、リトシエンコ、マカロフ、チアヤノフ、チエリツエフ、その他の全群の「博學な」ブルジョアの妨害者にその讚美者と「理論家」とを見出した。これらの「博學なる」××の敵は農村の資本主義的發展とソヴェート同盟における資本主義の復興といふ富農的「理論」を發展したばかりでなく、勤勞農民黨といふ名稱をもつた反革命的地下組織をも作つたのである。この黨は××××者の干渉に援助を得てソヴェート×××××し、資本主義を復興するための反革命的「産業黨」や、メンシエヴィキ的地下組織と結托してゐる。

これらの反革命的「理論家」は社會主義およびプロレタリア××××に對する闘争といふ共通の目的を持つてゐるが、これを二つの群に分けることができる。即ち、農業における大資本主義的經營の擁護者(コンドラタイエフ、リトシエンコ等々)と、口では農業における小經營の利益を擁護し、事實上は農村の資本主義的發達のために闘争しつゝある所謂新人民派といふ小ブルジョアの團體(チアヤノ

フ、チエリンツェフ等々)。

110

農業の資本主義的發展の道を最も徹底的に擁護してゐるものは、コンドラタイエフの一派である。コンドラタイエフ一派は國の工業化には反對しない。けれども農業における資本主義的大企業的發展を可能にし、プロレタリア××の壓迫から小商品生産の資本主義的發展傾向を解放するやうな資本主義的工業化に、彼等は賛成なのである。彼等はソヴェートの經濟をばプロレタリアートの×××よつて歪められた盲目的な資本主義的發展法則に従つてゐるものと見做した。新經濟政策の採用と共に彼等はソヴェート××の失墜と資本主義の復興とを期待した。彼等のあらゆる『理論的』構成は一つの目的をもつてゐる、即ちプロレタリア××の顛覆と資本主義的復興の促進が、それだ。屢々ソヴェート×××××とに忠誠を守る言辭で粉飾し、かくして黨の不安定な日和見主義的分子にからみつきながら、彼等は理論の上でも行動の上でも、我國における資本主義的分子に對するプロレタリアートの闘争の根本的槓桿を弱めようとした。新經濟政策採用後一九二二年に、一集會でコンドラタイエフは言つた、『我々はロシアの資本主義的企業的發展の必然性といふ問題を研究する。』『我々はロシアの資本主義を歓迎しなければならぬ。』コンドラタイエフは新經濟政策の本質をかやうに理解してゐる。農村發展の資本主義的勝利を保證するために、コンドラタイエフは彼が専門家として働いてゐた最高農業機關紙の中で土地國有化の廢止を提唱し、幾度も強要した。あらゆる資本主義的理論家と同様にコンドラタイエフは『自由な經濟活動の原理とこの自由の保證』に賛成である。コンドラタイエフ

は、『自由な經濟活動』の進行に對するプロレタリア××の不干渉を要求し、プロレタリア××が社會主義的意識的計畫的建設を拒否することを要求した。

『自由な經濟活動といふ原則——とコンドラタイエフは言つた——およびこの自由の保證といふ原則に照應して土地立法は……經營者と土地のヨリ鞏固な關係の確立といふ意味で、土地流通の一層大きい自由と融通性といふ意味で改訂されねばならない。』

『經營者と土地との鞏固な關係』、『土地流通の自由』といふ言葉には土地私有の採用、××××××××、および土地賣買の自由の確立といふ要求が含まれてゐる。

土地××××××××は土地の富農の掌中への集中、貧農中農大衆の貧窮化、資本主義の支障なき發展に導くであらうことは全く明かである。

コンドラタイエフ一派はあらゆる市場に對しても同じやうな自由を要求した。この自由は彼等の意見によるとプロレタリア××××行動を規制し統制してゐる計畫的原則によつて制限されてはならぬものである。彼等は右翼と同様に盲目的な市場關係に對するソヴェート權力の干渉に反對した。明かに富農を擁護し、資本主義的復興の一般方針を説きながら、コンドラタイエフは常に貧農の味方顔をして、富農と貧農との發達の利害の一致を『示さう』とした。

一九二五年の『計畫經濟』のなかで彼は書いた、『農村の經濟的に強力な(富農と讀め——編輯者)層の發達を阻止することによつて、我々は農業的發展を妨害するばかりでなく、貧農に眞の援助を與へ

る可能性をも失つてゐる。』

富農を國際資本主義に結び付けるためにコンドラティエフ一派は外國貿易獨占を攻撃した。彼等は黨内部の外國貿易獨占反對者の日和見主義的運動を、他の諸々の方策で資本主義的世界からの獨立を我々に保證してゐるところの、この最重要な確固不動の支配的地位に對する自分達の鬭争のために利用しようとした。如何にも實務的提議を持ち出す風に、妨害者コンドラティエフは言つた、『ロシアの農業が世界市場から分離してゐる限り、我々はその急速な復興が成功することを期待できない。ただ世界市場との接觸のみが、ロシアの農業にとつて景氣の急速な好轉をもたらし得るのである。だからこそ、この接觸の道に横はる障礙物を取り去る必要がある。我々はこの障礙物を現在の外國貿易國有化といふ事情の中に見てゐる……我々は現在の封鎖された状態から……國際貿易の普通の諸條件に移らねばならぬ。』

反革命家コンドラティエフのこの『實務上の』提議の全意義は全く明かである。コンドラティエフの戦友——リトシエンコの言葉のなかでは、この意義が最も恥知らずに暴露されてゐる。彼は言つた、『理論的』には『地主經營を……擁護するために』多くのことを言ふことができるだらう、『だが實際上は——と彼は憐れにも残念がつてゐる——それはまだ……存在してゐないし、國民經濟がその暴力的破壊によつて蒙つた損害はやはりまだ恢復されてゐない。』

反革命的な「新人民主義」

ロシアの發達の運命に關する人民主義派との歴史的論争では、勿論マルクス主義者が正しいことが示された。周知の通り、人民主義派はロシアには資本主義が存在しないだらうこと、農村は非資本主義的道によつて發展するだらうこと、生産力の發達を妨げ、農民を土地に縛り付けてゐた土地共同體公有地とその連帶保證とは社會主義の萌芽であることを證明した。現實はロシアの非資本主義的發達に關する人民主義派のユトーピアを假借なく暴露した。

人民主義派は所有と明日に對する確信とを失つたプロレタリアートの出現を罪惡と考へ、ロシアはこの罪惡から解放されなければならないと考へたのであるが、彼等は資本主義の不可避的發展によつて不可避的に没落に運命づけられた小商品生産者のイデオログであつた。社會的發展の合則性を停止することはできない。ロシアは資本主義國となつた。人民主義派の理論は×××××主義と中世紀的遺物との諸條件の下では、小商品的生産方法に較べてヨリ進歩的な生産方法である資本主義に對して向けられた反動的理論であつた。

この人民主義派の理論の相續者が妨害者チャヤノフ、チェリンツェフ一派を首班とする所謂新人民主義派であつた。農業發展の『獨立性』（社會主義的改造の政策に對する獨立性）を擁護しようとしながら、彼等はわが國における農業の資本主義的發展傾向を擁護した。『新人民主義派』のコンドラティ

エフと異るところは、彼等が農村の富農的發展のイデオログとしてやゝ不徹底なところにある。彼等はまた農業發展の特殊な非資本主義的合則性に關するセンチメンタルな人民主義派的言辭の裏に隠れようとしてゐる。

我々は農民經營が資本主義と同一型であることを知つてゐる。ところがチアヤノフは農民經營が資本主義經濟と「その性質上異なる」ことを證明しようとしてゐる。「農民經營は——と彼は書いてゐる——何よりも先づ家族的經濟であつて、その全構造は經濟を行ひつゝある家族の規模と成員、その消費上の要求とその働き手との相互關係によつて決定されてゐる。」「家族的」とか「消費的」とかいふ農民經營の取扱ひ方は、分化過程、富農の搾取の本質、農村における階級闘争を隠蔽し、抹消するため「妨害者的『理論家』」にとつて必要であつた。新人民主義派の陣營の妨害者は協同組合の意義をも「承認した」、彼等はこれを農村發達の社會主義の道に反對するために利用しようとしたのである。

「或る人は——とチアヤノフは書いてゐる——農民の協同組合を勤勞的農民經營の資本主義的體制に對する若干の適應だと見る傾きを持つてをり、他の人は協同組合を社會主義への道に添ふ國民經濟發展の或る中間的段階だと考へてゐる。我々はどの見解にも同意しない。」そして更に彼は、協同組合を資本主義にも社會主義にも對立する國民經濟發展の或る特殊な組織體と考へようとした。新人民主義派の意見によると、小商品生産者（將來發達すべき）は協同組合の形態において、流通部面で協同組合と結合してゐる、その個人的經濟を強化することができるだらうといふのだ。

その反革命的な面貌を隠す必要から言葉では共營化を認めてゐる新人民主義派は、個人的農民經營の獨立性を保存するために共營農場の形態を利用しようとした。この目的から妨害者チエリソツエフはまだそこでは個人的經營の基礎が廢棄されてゐない單純な種類の生産協同組合を擁護した。新人民主義派はコンドラティエフ一味と同様に共營農場に援助と便宜とを與へることに反對であり、社會主義的軌道への農民經營の移行を可能にしてゐる工業化や大工業の發達の急速なテンポに反對であつた。

彼等はあらゆる「博學な」ブルジョアの資本主義擁護者と同様に、農業における大經營の不利を證明しようとした。チアヤノフ一派の理想は忍耐強い「勤勞的」農民經營、つまり富農的經營である。妨害者マカロフは富農的經營の發達に都合のよい條件を作り出さうとして次のやうに書いた。「個々の土地利用者は技術と經營遂行の集約性の點で一定水準以下で、その經營を遂行してはならない。その經營を該地方のために合理的に進歩的に遂行してゐる土地利用者は、國家權力の側からそれ相當の援助を得る權利を持つてゐる。」かうしてマカロフは「進歩的な」、「合理的な」經營遂行のために多くの手段を持つてゐる富農に國家が援助すべきことを要求した。個人的小經營の擁護、農業における大經營の否定は資本主義擁護の反面である。この資本主義の諸條件の下では大經營はその發達において資本主義的方法によつては解決されない矛盾につき當り、しかも小生産は間斷なく没落しながら新たに資本主義の副産物として生産されるのである。

基本的農民大衆の社會主義的發展道程への轉向、嵐のやうに發展しつゝある共營化は協同組合を社

會主義に對する闘争のために利用しようとした反革命的な新人民主義派を生んだ。これはレーニンの協同組合に關する教への正しいことを再び強調してゐるのである。協同組合は、それがその諸條件の下で發展してゐる政治經濟的秩序から引き離し得るものではない。協同組合は一つの形式であつて、その内容と性質とは國民經濟内で指導的支配的役割を演じてゐる生産諸關係に依存してゐる。

右翼による協同組合計畫の歪曲

現段階のレーニンの協同組合計畫實現のための闘争における主要な日和見主義的危険は、多くの黨にゐる右翼偏向者である。右翼はレーニンの協同組合計畫に對して自分の日和見主義的協同組合計畫を對置してゐる。その『理論的』説明では右翼はコンドラタイエフ一派のブルジョア的妨害的理論にそつくりである。右翼は勤勞農民の社會主義への大道としての共營化を否定する。『それ(共營農場)は——とブハーリンは一九二五年第九十九號の『ブラウダ』に書いた——それによつて農民大衆が社會主義に至る大道になると主張することはできない。』

右翼の意見によると、農民(貧農も中農も富農も)は商品流通の協同組合化を通じて社會主義に平和に達するだらう。我々はすでに前章で、分散した小農民經營を社會主義的原則に従つて改造するための基本的任務が生産の協同組合化であることを一再ならず述べた。流通、信用の協同組合化はレーニンの協同組合計畫の必要な構成部分であるが、基本的中心的任務——生産の協同組合化には從屬するものである。

るものである。

レーニンは『食料税について』といふ論文で書いた、『今後の移行は不可避免的に次の點にある、即ち最も不利な最も遅れた孤立的な小農民經營を次第に結合して、社會的大農業經營を組織すること。』マルクス主義の創始者達も生産の協同組合化の意義を強調してゐる。

『そしてマルクスも私も——とエンゲルスは書いた——常に次のことを疑はなかつた、即ち共產主義的經濟に移る場合に過渡的段階として協同組合を廣汎な規模で利用することが必要であらう。たゞ社會、つまり何よりも先づ國家は生産手段の所有を自分のために確保し、かうして個々の協同組合の私的利益が全體としての全社會の利益に矛盾しないやうに組立てられなければならない。』

右翼は共營組合の道を拒否して個人的農民經營の發達に期待をかけた。我々はすでに見たが、小農民經營はさういふものとしては擴大された基礎の上で發展することができず、資本主義的發展の道も社會主義的發展の道も可能である。右翼が個人的農民經營の發達を擁護することは、客觀的には資本主義的發展の道の擁護を意味する。このことは右翼日和見主義的偏向の根本的罪惡——XXに對する非和解的な階級闘争の否定——によつてもつとはつきりして來る。右翼の意見によると、我々は富農と闘争する必要がない。なぜなら、富農は流通局面の協同組合化を通じて平穩に社會主義へと成長するからである。社會主義への『富農の協同組合的な成長』に關するブハーリンの『理論的』命題は今ではどの勞働者にも、どの共營組合員にも、レーニン主義と我が社會主義的建設の敵として知ら

れてゐる。それはたゞ富農に有利であつて、コンドラティエフがその反革命的理論を作るために必要
なだけである。

レーニンの協同組合計畫の基本的觀念としての協同組合を否定して、右翼はその根本的内容を去勢
してゐる。吾々はすでに述べたやうに、この内容がなくては協同組合は社會主義的建設事業に貢献す
ることができないのである。

右翼は工業化や電化の急速なテンポ、農村にトラクターや農業機械や化學肥料等々を供給して農業
を社會主義的原則によつて再組織することを可能にしてゐる大工業の發達に反對である。右翼はそれ
なしでは農村の社會主義への道としての協同組合といふ道が考へ得られないところの、國營農場や機
械トラクター配給所の急速な發達に反對してゐる。

右翼との假借なき階級闘争の拒否、農村の革命的改造といふ事業におけるプロレタリア×××××
的役割の否認は、マルクス主義レーニン主義の敵で日和見主義的な理論、即ち社會主義的建設にお
ける均衡論および「自己流出」理論と關聯してゐる。この反レーニン主義的理論の見地から見ると、
農村はひとりで「自己流出」に社會主義的農村となる。またあらゆる反革命的復興家と同じやう
にリトシェンコ教授はこの自己流出に望をかけたのである。彼は書いた、「農業關係の今後の發展は中
央部からのあらゆる指導を離れて行はれる。」そして「結局」「強い者」、闘争と「所有への愛着」と
よつて、××が齎らしたあらゆる破壊を征服しうる者」が勝つだらうと。右翼はこゝでも客觀的には

コンドラティエフ主義の反革命的傾向と結合してゐる。

レーニンの協同組合計畫とトロツキー主義

レーニンの協同組合計畫に對するトロツキー主義者の日和見主義的態度は、わが國における社會主
義建設の可能性の否定、勤勞農民を社會主義の道に従つて指導する勞働者階級の能力の否定、勞働者
階級と勤勞農民との同盟の可能性の否定から出てくる。新經濟政策を完全な退却と見、市場の存在を
我が經濟における資本主義的發展法則の支配と見、ソヴェートの商業および市場を資本主義の市場と
同一視して、トロツキー主義者達はかく主張する、商業協同組合はそれが生産過程を社會化しない限
り資本主義を助長するだけだ、それは農村の分化過程を弱めず、むしろ激化すると。

トロツキー主義者達は「商業」協同組合が「生産」協同組合に成長變化する可能性を否定した。ト
ロツキー主義者達は生産の協同組合化を、流通局面の協同組合化に機械的に對立させてゐる。だが實
際はあらゆる種類の協同組合はレーニンの協同組合計畫の有機的構成部分である。プロレタリア××
の諸條件の下では、商業協同組合の性質は資本主義諸國の協同組合の性質と根本的にちがつてゐる。
プロレタリア×××××と政治との有機的影響の下にある協同組合の一般的組織のなかで商業協同
組合は勤勞農民經營を社會主義大生産の軌道に移すための強力な槓杆になる。

トロツキー主義者達は諸段階を飛躍して直接農業における社會主義的大生産に移ることを要求し

た。農民の社會主義への道はすべての小農民に近付き易く分り易いものでなければならず、それは幾百萬の勤勞農民大衆を引き入れて、諸々の段階を通じて漸次彼等を社會主義的大經營形態に導かなければならない、といふレーニンの理想をトロツキー主義者達は否定した。トロツキー主義者達はレーニンが商業を基本的一環として指摘したことの重要性を少しも理解しなかつた。この一環を把握せずしては、社會主義的進出の全連鎖を押し進めることはできないのである。

かやうに、右翼は流通の協同組合化にレーニンの協同組合計畫の一切を見、「自己流出」を期待したとすれば、トロツキー主義者達は諸段階、必要な諸々の諸階梯を飛躍して（トロツキー主義者達は單純な生産的結合を輕視した）、社會主義の道から農村の中心人物——中農を除き去つた。この中農は流通の協同組合化の道に立つて、次第に歩一步一步とその個人主義的習慣を克服して、單純な種類の協同組合化から最高形態の集團的社會主義的經營に移行したのである。

第十五回黨大會は、レーニンの協同組合計畫に對するトロツキー主義者の反對派の態度に、次のやうな特徴を與へた。

「反對派の特質は協同組合を通じて基本的農民大衆を社會主義的建設の河床に引き込む可能性に對する彼等の不信であることを指摘しなければならない。これはレーニンの協同組合計畫の否定でありそしてレーニン主義反對の直接的開始となるだらう。この開始はわが國における社會主義建設の可能性を否定する反對派の一般的清算主義的主張の不可避的結果である。」

ソヴェート同盟における社會主義的建設の勝利の可能性に對するトロツキー主義者のこの不信は、一九二九年の「偉大なる急轉」以後もつとはつきり現れた。丁度當時はレーニンの協同組合計畫が完全な共營化の成功によつて煉然として確證された時で、最後の反革命に發展してしまつたトロツキーはブルジョアジーや社會ファシスト達と共に共營農業を嘲笑し、それを農業における眞の社會主義的大經營として認めることを拒否したのだ。

四、共營農場における勞働組織

農業の工業化といふ基礎の上での農業の共營化は、共營農場員及び農業勞働者がトラクターや諸機械の使用技術を獲得し、大農業生産の技術的基礎の合理的利用を習得することを要求してゐる。

農業における技術を獲得せよといふスローガンは、農業技術、農耕自體の遂行技術、牧畜、家禽飼養等々の正しい科學的遂行の技術を獲得することを含んでゐる。古風な三圃農法はすつと前に姿を消した、そして我々はヨリ完全な集約的な農耕の遂行方法へ、科學的に確立された播種交代へ急速に移らねばならない。我々は新しい土地を開拓すると共に農業集約化の線に添つて前進しなければならぬ、即ち——機械、化學肥料の採用、多くの勞働量の投下によつて——同一の地面から一層多くの收穫性、多くの結果を得るやうに努力しなければならない。

すべてこれらのことは、農業幹部と農業勞働組織の問題を鋭く提起してゐる。

個人的農民その小經營ですべての働き手の主人であり、農業生産の一切の多種多様な労働を行つた。だが彼のこの勤勞的習慣は分業と専門化とに席を譲らなければならない。農民は、一寸考へると變なやうだが、どうして土地を耕し、どうして家畜や家禽等を飼養してよいか分らない、況んやどうして化學的肥料や機械等々を使ふかそんなことは分らない。經營遂行の経験と方法とは永久的先入感と共に相續されて、父から息子へ、祖父から孫へと移つた。たゞ正しい労働の組織の過程、労働専門化の實現過程、生産過程そのものにおいて、優秀な労働者、指導者、組織者の幹部が、共營農場員等自身の間から輩出されるだらう。

労働組合や労働組合員は共營農場員を授けて工場の労働組織方法を學ばせ、移植させなければならぬ。黨が共營農場に派遣した二萬五千人の優秀な労働者はこの仕事の上で大きい役割を演じなければならぬ。國營農場、機械トラクター配給所、農民青年學校、高等學校、技術學校における短期の共營農場教育の組織、共營農場及び國營農場における大衆的政治的啓蒙的活動、國營農場の生産會議、共營農場代表者會議の活動の展開、大衆的通俗的農業科學文献の出版、高等學校及び技術學校への優良な共營農場員の派遣——すべてこれらのことは優良な労働者、若い、中年の、老年の農業生産指導者の幹部を準備するための最重要な楨杆である。農業幹部の準備の領域で第二次五ヶ年計畫の草案は共營農場及び國營農場の労働者から百二十五萬乃至百五十萬の技術家が輩出することを豫定してゐる。約七百萬の共營農場員と國營農場の労働者は必要な熟練を獲得する。百萬を下らない熟練建築

家が農業建築のために用意されるだらう。生産と直接關係してゐる高等學校では十七萬五千乃至二十萬人が教育されるだらう。

労働者階級が廣汎な規模で展開した社會主義的競争と突撃隊運動とは農村をも捉へた。突撃隊と社會主義的競争との運動は益々共營農場員大衆の間に浸潤し、共營農場員の労働者熱心の無数の例を與へてゐる。共營農場には工場から移された社會主義的競争の多種多様の形態——弱い共營農場の社會的援助、共營農場視察、「共營化飛脚」等々——が發展されてゐる。社會主義的競争や労働規律のための闘争の發展は共營農場員の再教育、小生産者の小所有者の習慣の克服のために非常に大きな意義を持つてをり、農業労働の生産性を高める巨大な可能性を含んでゐる。

共營農場における収益の分配

労働の良巧な組織、労働の高いテンポ、共營農場における高い労働生産性のための闘争において重要な要素は収益分配制度である。一九三一年春の播種と前年度の経験とは計畫の完成とあれこれの収益分配制度との間に密接な關係があることをはつきりと示した。分配制度は常に生産方法自體に依存してゐる。共營農場の収益分配は共營農場の社會主義的、根本的に社會的な諸關係に照應しなければならぬ。共營農場では労働による分配といふ社會主義的原則が實現されなければならない。但し共營農場員が持ち込んだ財産に對しては、収益の或る部分(五%)の分配が許されなければならない。

「たくさんよく働いた人は——と第六回ソヴェート大会は言った——たくさん受取る、働かない人は何も受取らない。」

残念ながら實際は、富農の煽動と反革命的行動とに影響されて、屢々共營農場における収益分配は労働集團化の優越を傷け、共營農場における不平等の激化、小所有者的、搾取的傾向の出現、労働生産性上向の刺戟の反動的相殺と麻痺とを招来するやうなことが起つた。かういふ富農的分配制度は不可避免的に共營農場を富農の組織に退化せしめるだらうが、かゝる制度に屬するものは、持分や、生産手段や、以前の収益との比例や、土地等々による収益の分配である。富農のスローガンは、その外面的な『左翼主義』にも拘らず、消費者によつて収益を分配するといふことである。『實際、人数と消費者とによつて「公平」に分配することは——と同志ヤコヴレフは言つてゐる——深刻な不公平である。なぜなら、人数による分配が採用されるころでは労働する人は彼が受くべき収入の一部分を受取らず、共營農場を他人の労働のおかげで生活する手段と考へてゐる破壊者が利益を得るからである。これは事實だ。』かういふ制度があると共營農場内には消費者的傾向が發達し、それは労働原則や社會的蓄積に有害に反映し、擴大再生産の基礎を縮少し、共營農場の崩壊に導くのである。消費者によつて現物形態で出来るだけ多く分配しようとする努力は、共營農場の商品可能性を隠蔽し、商品生産を國家および協同組合貯蔵へ引渡すことを妨害する。

共營農場における請負賃銀

労働によつて収益を分配するに當つて労働生産性を高める重要な原因は請負賃銀である。經驗はすでに請負賃銀のあらゆる優越性を示したし、證明した。例へば、クリムの共營農場が煙草一ヘクターの植付に要した全労働日は延日數百八十日であつたが、請負賃銀に移つてからは四十一六十日で済むやうになつた。共營農場『社會主義への道』では十時間労働日で二十五人が一ヘクターを耕作したが、請負賃銀に移つてからは、この仕事を八乃至九人が完成した。同じ共營農場で運搬者は一日二桶の水を運搬したが、請負賃銀に移つてからは十四桶を運ぶやうになつた。かういふ例は限りなく擧げることができるだらう。だから實際上請負賃銀の過小評價やその採用を拒否することは、日和見主義と考へなければならぬ。これを投げ棄てることは富農にだけ有利だ。

『例外なしに共營農場におけるあらゆる労働は——と中央委員會六月(一九三一年)總會の決議は言つてゐる——請負賃銀に基づいて組織されなければならない。それと共に請負賃銀の形態自體がどの共營農場員にも、共營農場に入つて来る人々にも、最も簡單で分り易いやうに、複雑な計算を抜きにして労働日數がその労働手帳に記入さるべきである、この場合、なされた労働の量ばかりでなくその質も計算される。』

請負賃銀制度に於ては共營農場の請負賃銀と工場の請負労働賃銀とを混同する『左翼的』飛躍の發

生をさけなければならぬ。實際では、共營農場に現金拂請負賃銀を持つ賃銀等級法の採用、即ち事實上の労働賃銀の採用といふことが起つた。これは工場や國營の徹底的な社會主義的企業と異なる協同組合としての共營農場の特殊性を考へない有害な思ひつきである。第十六回黨大會はかういふ傾向を、反レーニンの傾向、「國營農場管理組織の共營農場への『機械的『移植』』として特徴付けた。かういふ制度の下では、全共營農場の状態、その強さ、増大に對する共營農場員の責任感、關心が失はれてしまふ。共營農場本部は共營農場が労働を貨幣で計量することを絶對的に禁止した。同じことを第六回ソヴェート大會も確認した。

労働の評価は労働日によつて行はれねばならない。各種の労働はその労働強度と質とに従つて、労働日の一定量によつて評價される。經濟年度の終りに共營農場の一年の全收益が計算された後一労働日當りの收益額が決定される。各共營農場員は自分が一年のうちに働く労働日の量に對して受取る。かうして共營農場員の收益額は一方では一般的労働に對する自分の参加によつて、他方では全共營農場の収入水準によつて決定される。

かういふ制度は各共營農場員の私的利益と集團の一般的利益とを結び付けてをり、労働生産性の向上と共營農場の強化を保證してをり、そして集團的習慣の浸潤と、小所有者の社會主義的労働者への社會主義的改造を可能にしてゐる。

共營農場における正しい労働組織は、嚴格に練られた生産計畫と労働プログラムなしには考へられ

ない。作付および取入れカムパニアの成功的進行は全體としてそれに對する計畫的準備に、嚴密に作られた作付および取入れ計畫に依存してゐる。

労働力の計畫的分配

労働力の計畫的分配と合理的利用とは巨大な意義を持つてゐる。各國營農場および共營農場の労働計畫では人間、トラクター、馬匹、機械の全労働の間の正しい分配とその最大限度の生産性の獲得とが、豫め考へられなければならない。これは農民生産の繁忙期に、即ち取入れⅡ作付期に特に重要である。

『取入れをうまく行ふためには——と一九三一年の取入れカムパニアの任務について、同志キーロフは言つた——あらゆる人間を分配して、彼等とその部署につけなければならぬ。そして一回だけつけるのではなく、全労働のその後の過程においても急速に動員することができなければならない。ここでは非常に緊張して効果的に労働が行はれ、人々は今日は或る仕事をやり、明日は別な仕事をし、明後日は我々の仕事の第三の環をやる。いづれにせよ、熱慮され、うまく作成された日取り計畫、我々の労働日に對する計畫がなくては、取入れと来るべき作付に對する準備とかいふこの大きい任務は、同志よ、我々には遂行されないのだ。』

計畫の完成は今日共營農場建設の經驗によつて獲得されてゐる労働形態に移ることを要求してゐる。

る。かういふ形態がブリガード（部隊）である。生産隊は労働組織における共營農場建設の基礎である。それにも劣らず重要な意味を持つてゐるのは、投げやりに対する闘争、規律と遂行さるべき労働に対する厳格な責任とのための闘争である。『あらゆる種類の労働に對して——と黨中央委員會六月總會の決議は言つてゐる——トラクター、馬匹、機械への労働者常備員の配屬が採用されなければならぬ。すべての打穀機、一切の附屬機械をもつすべてのトラクターに、常備隊が配屬されなければならない。運搬常備員等々が作り出されなければならない。深耕作物や技術的作物の大きい面積を持つ大きい共營農場では、ブリガード（部隊）は取入れ面積の一部分に配屬されなければならない。これは、取入れの際の損失と取入れの速度の度合に従つて、ブリガード（部隊）の諸労働日における労働の評価が高められたり低められたりするためである。』

共營化の成功、農村における社會主義的部面の絶對的支配は農業内ばかりでなく、農業と工業との間の労働力の計画的分配の可能性を我々に保證してゐるし、また緊切にそれを要求してゐる。

農村分化が共營化と幾萬といふトラクターの農村への供給との基礎の上で根絶された後、農民は農村で人間的に生活する可能性を得、労働力の農村から都市への大衆的流出は停止された。『何が農民を農村から無理矢理に都市に走らせるか？——と一九三一年六月二十三日の經營役員會議の演説で同志スターリンは言つた——飢餓と失業の恐慌、これが農村は彼にとつて繼母であり、何か労働さへ得られれば農村を去つて爪のある悪魔のところへでも行く準備をさせてゐる事情なのである。かういつ

た。或は殆どかういつた事態が、我が國では決して遠い昔のことではなかつた。』

あらゆる戦線における社會主義的進出に立脚した社會主義の素晴らしい成功は事態を激變した。我々は失業者を絶滅した。工業は益々多くの労働の需要を提供してゐる。一九三〇年には季節労働者に對する需要は七百万人に當つてをり、一九三一年には國民經濟はすでに九百萬の季節労働者と百三十萬の新らしい常備労働者を要求してゐる。勤勞農民は貧窮から救はれ、その生活水準を着實に高めてゐる。『今や農村をもちや農民にとつて繼母と呼ぶことができない。そして正に多くの人は農村を繼母と呼ぶことができないので、農民は農村に定住し初めた、そして我國では「農村から都市への農民の逃亡も労働力の自己流出も」大したことなくなつた。』（スターリン）

労働力の問題は計画的解決を要求してゐる。これについて共營農場は巨大な任務を持つてをり、その解決のためには巨大な可能性を持つてゐる。共營農場内部の共營農場員の労働力計畫化とその合理的利用とは、共營農場に無條件に存在する労働豫備軍を工業や建築業が利用する可能性を保證しなければならぬ。全同盟會議には共營農場における労働について次の材料が提供された、即ち一年間に男子の労働は僅か六〇—六五%しか利用されず、『繁忙』期にも僅かに八〇%、しかも婦人労働はたった三五—四五%しか利用されなかつた。

都市への出稼は共營農場によき影響を與へ、労働規律を強化し、共營農場員の収入を高めてゐることを指摘しなければならない。そしてこれに反し、過剰な労働力は生産を亂し、労働規律を低め、共

營農場員の収入を低めてゐる。『優良な労働組織と共營農場における土地耕作の機械化とは——と第六回ソヴェート大會の決定は言つてゐる——他の部門（工業、交通、建築）への出稼労働の強化を伴はなければならぬ。急速なテンポで發展してゐる工業にとつて労働力が途方もなく不足してゐることを考慮して、ソヴェート同盟第六回ソヴェート大會はあらゆる共營農場に對して、工業への出稼労働を邪魔しないばかりか、出稼を奨励すべき、義務を課した。』また共營農場は個人の出稼の組織を援助しなければならぬ。

また重要な意義を持つてゐるのは、農業自體における個々の共營農場と國營農場との間の労働力の計画的分配であり、労働資源の時折の自在な動員であり、種々な農作物生産の特殊性、技術上の、地上の、氣候上の諸條件と關聯しての配分である。

五、農業の領域における當面の任務

農業部面における當面の諸任務について言へば、何よりも先づ、これら諸任務の鎖の基本的な一環であり、その解決の鍵でもある困難な穀物問題は、すでに大體我々によつて解決されたといふことを指摘しなければならぬ。勿論この解決は個人的小經營の土臺の上では不可能であらう。富農のみが我々にパンを保證するといふ右翼日和見主義者に對して、我々は執拗に共營農場及び國營農場の發展のレーニンの方針を遂行し、この基礎の上で我々は全體において穀物問題を解決したのである。富農

の商品的穀物は、すでに途方もない昂進振りで共營農場及び國營農場の商品的穀物によつて地位を奪はれてゐる。一九二六—二七年には六億三千萬プードの商品的穀物のうち富農は一億二千六百萬プード提供してをり、共營農場及び國營農場は三千八百萬プードであつた。一九三〇年三月一日現在では國營農場及び共營農場が四億八千七百萬プードの商品的穀物を提供した。

『國營農場の發達が示してゐる可能性は——と第十六回全露XXX大會の決定は言つてゐる——次の事實によつて特徴付けられてゐる。この事實とは國營農場（新舊の）だけでもすでに本年には約一億プードの商品的穀物を提供してをり、しかも明年には二億五千萬プードを下らない商品的穀物を提供するだらうといふことだ。』

穀物國營農場の作付面積は一年増しに増加してをり、次表から見分るやうに、途方もないテンポで増大するだらう。

穀物トラストの作付面積の増加（單位千ヘクター）(8)

一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
二、五〇〇	一、二五〇	五、〇〇〇	七、二〇〇	九、五〇〇

(8) 數字は第六回ソヴェート大會における同志ヘルチコフの報告から取つた。

一九三一年の春に穀物トラスト、牧畜トラスト、および技術的作物の國營農場は、一九三〇年の三百二十萬ヘクターの代りに八百萬ヘクター以上に播種した。かうして第六回ソヴェート大會の豫定は

超過遂行されたのである。

牧畜および技術的作物の問題

穀物問題の解決は技術的作物および牧畜の一層の発展によつて廣大な可能性を開き、個人的小生産者の小經營の基礎の上では克服されないと、あらゆる殘餘の農業の諸困難を共營および國營大農場に立脚して克服する可能性を保證してゐる。技術的作物地方に穀物生産物の充分な分量を保證することは、これらの作物の地位を強固にするし、その發達を刺戟するだらう。全く同様に穀物生産物及び飼料を當該地方に保證すること、これらの地方における飼料的基礎の發達は、牧畜問題の解決にとつて必要な諸條件なのである。この牧畜問題は高いテンポで工業化と勤勞者の生活水準の向上とを實現するための決定的任務として、穀物問題に次いで提起されたのである。

牧畜問題は穀物問題解決のための闘争で證明されたのと同じ方法によつて解決することができる。この方法は牧畜國營農場及び共營農場の組織のうちに見出される。この場合、肉類問題の解決についての基本的な仕事は、我が最大の國營農場を結合してゐる國營トラストに移されてゐる。我々はすでに牧畜國營農場——「牧畜」、「養豚」、「養羊」等々——の發達を特徴付けてゐる數字を擧げた。「牧畜」によつて作り出された百二十萬頭の家畜を持つ百四十の肉類國營農場は、全社會化部面の家畜數の二倍半の増加を意味してゐる。全社會化部面は全共營農場及び國營農場を合して大有角家畜（食肉

用及び酪業用)五十八萬八千頭を持つてゐた。「牧畜」のその後への發展は次の數字から分かる。

一九三一年……………二百八十萬有角家畜
一九三二年……………五百萬
一九三三年……………七百萬

一九三一年には「牧畜」の家畜數は二百八十萬頭に達し、革命前の地主及び富農の家畜數の二二二%に當るだらう。

これにも劣らぬ急速なテンポが「養豚」、「養羊」、及び酪業ニバタ。國營農場の發達に見られる。飼養技術の獲得、特に重要な任務としての幹部の養成、家畜取扱ひの改善、獸醫の派遣、飼料の合理的利用、家畜の種族の改良——すべてこれらのことは牧畜國營農場及び共營農場の嵐のやうな發達にくまれてゐる巨大な可能性を利用するための必要な諸條件であり、最重要な任務である。牧畜問題の實際的解決のために大きい意味を持つてゐるのは、黨中央委員會と一九三一年八月二日の人民委員會の議の概である、それは「牧畜國營農場と共營農場の商品的農場との領域において社會主義部面を創造し強化するための活動を、農業の領域における近き將來の中心的任務として」提起した。概は分量上の豫定の擴大と並んで幾多の指導的示唆を與へてをり、牧畜問題解決のテンポを促進するための諸方策を擧げてゐる。

牧畜問題の徹底的解決といふことは農業の第二次五ヶ年計畫の中心的任務である。同計畫は一年一

人當りの肉類消費を四〇―四五―五〇キログラム（都會では六〇キログラムまで）、酪業生産物を三〇―三五〇キログラムまでに増加するやうに保證する筈である。この任務を充すために第二次五ヶ年計畫は六五―七〇百萬頭（そのうち三千三百萬頭は牛）までの大有角家畜頭數の増加を豫想してゐる。羊數は一億五千萬頭、豚が七千萬頭、家禽が五億羽までになるだらう。

頭數の増加と並んで家畜の質が決定的に改良されなければならない(9)。

(9) 同志ヴォルフの報告による統計。

農業の領域で異常に重要で且つ緊急な任務は、技術的作物の發達といふことである。資本主義國への依存をなくするための我々の闘争は、強固な農業原料の基礎を作ることとを要求してゐる、これなくしては我々は棉花やその他の種類の農業原料について資本家に依存するだらう。棉花のごとき生産物はその外軍事上異常に重要な意義を持つてゐることを指摘しなければならない(10)。五ヶ年計畫の終りには、我々は農業原料の完全な自給を行ひ、外國からの輸入を停止する筈である。穀物問題を解決した我々は、舊技術的作物地方に穀物を保證することができ、かうして棉花とか亞麻とか大麻とか煙草等々の、重要な技術的作物の急速な發達を刺戟することができるだらう。舊地方の發達と共にまた我々はその發達にとつて有利な諸條件を持つてゐる新しい地方にもこれらの作物を移植しなければならぬ。

(10) 棉花からは幾多の爆發物が製造される、例へば綿火藥。

統制數字によると一九三一年には技術的作物の總生産は六五%も増加しなければならない。社會化部面の増加は二三%に當る。棉花纖維の採集は五七%増加され、その收穫性は三八%から増加されなければならない。棉花地方の灌溉工事には一億三千四百萬ルーブル投下されるだらう。

亞麻作付の面積は一五%増加しなければならない。亞麻の最初の加工のために工業は本年六百臺のタービンを提供しなければならない。亞麻の豫備的加工の組織、國營農場及び機械トラクター配給所の發達は製麻地方における最重要な任務である。

一九三三年にはエヂプト棉花のソヴェート同盟への移植の問題が完全に解決される筈である。米や甜菜の新種も作られなければならない。南方の作物は著しく北方に移植されるだらう。

第二次五ヶ年計畫は、暫定表によると、棉花の作付面積および收穫性の倍化、甜菜作付面積の二倍から二・二五倍の増加を豫想してゐる。その結果織物および砂糖の消費は四倍から五倍まで増加される。油脂作物の面積が倍化される。

ソヴェート同盟における植物界の豊富なこと、多種多様なこと、は、國民經濟に異常に重要な意味を持つ全く新しい技術的作物の栽培の非常に大きな可能性を含んでゐる。例へば護謨樹の研究と移植、それから護謨を取るための實驗室的研事業、この方面で達成された周知の實際的成果は、護謨工業發展のためにすばらしい見透しを開いてゐる。

農業の地理的配置、専門化、および消費地帯の生産地帯への轉化

全域的共營化のおかげで可能となつた農業労働の直接的計畫化は、自然的に地理的、經濟的諸條件の考慮に基づく農業生産の最も正しい配置と諸地方の専門化とを可能にしてゐる。新しい地方における技術的作物の移植、専門化の深化と舊技術的作物地方の發達、一千萬ヘクターといふ新しい土地を開拓した東方への小麥の移動、棉花、茶、葡萄、林檎等々の栽培のために後カフカズ地方を玉蜀黍から解放すること、これは農業の地方化のための最重要な任務である。

今日すでに豫備的作業といふ形態で大體において我が農業地方の専門化が指定されてゐる。穀物生産は主として北カフカズ、ウクライナのステップ、中央黒土地方、シベリア、ウラル、北カザクスタン、ヴォルガ流域地方、極東地方に集中されなければならぬ。食肉用家畜と家禽飼育は主としてカザクスタン、南シベリア、ヴォルガ下流の東南部、南カフカズ、北アジアに集中されるだらう。技術的作物及び集約的牧畜の地帯は、西南ウクライナ、中央黒土地方（甜菜、大麻、玉蜀黍）、ターバン、及び極東の一部（大豆、トウゴマ、向日葵、煙草、等々）とされてゐる、尙ほ近き將來における技術的作物及び集約的牧畜の發達は、ウクライナ及び北カフカズの著しい部分の一般的任務なのである。

亞熱農作物は後カフカズ、クリムの南岸、および中央アジアの専門化の基礎となるであらう。

養豚は主としてウクライナ、中央黒土地方、白ロシア、シベリア、北カフカズ、ヴォルガの中流及

び下流、ウラルに集中されなければならぬ。棉花及び纖維作物は中央アジア、後カフカズ、北カフカズの南部、ウクライナに集中されなければならない。

亞麻は消費地帯に、ウラルおよびシベリアに集中されなければならぬ。

農業生産の合理的配置のための重要な任務は、所謂消費地帯（レニングラード、モスクワ、イワノフ、ニヂェゴロド地方）を生産地帯に轉化することである。「我々の辭書（言葉。編輯者）から——と同志ヤコヴレフは言つてゐる——「消費地方」といふ一般概念を追ひ出し、その代りに「酪業—亞麻地方」といふ概念を、養豚に適はしい多くの地方、および蔬菜栽培に適はしい地方に齎らさればならぬ。」多くの地方に（全露××第十六回大會の報告）消費地帯は多くの飼料草、多くの球根果實、殊に馬鈴薯の發育のために例外的な有利な諸條件を具へてゐる。これは牧畜のために強固な飼料上の基礎を作り出す可能性を與へる。またこれらの諸地方は亞麻の發育にも有利である、しかるに亞麻の作付は一九三〇年に作付面積のたつた二—三%にしか當つてゐなかつた。これらの地方の亞麻作付を作付面積の四分の一までにするには可能であり、且つ必要な任務である。また重要な任務はこれらの地帯における蔬菜栽培の發達であつて、それは大労働者中心地に新鮮な蔬菜生産物を提供し、他の諸地方における農業労働の著大な部分を解放し、蔬菜生産物運送に對する過剰な費用を節約するであらう。

共營農場および國營農場建設の強化と發達の諸任務

農業部面における重要な任務として、共營農場および國營農場建設の一層の強化が必要であることを強調しなければならない。現段階の主要な危険としての右翼日和見主義を克服し、左翼的飛躍と偏向とを克服した我々は、引續き共營化のレーニンの原則の不變性のために闘争しなければならない。共營農場、および現段階における共營農場の基本的形態としてのアルテリへの加入が自由意志によること、現段階における共營農場の基本的形態がアルテリであること、諸地方及び諸州の民族的、文化的及び經濟的特殊性を顧慮すること、これはやはり、共營農場の今後の發達の不變の基礎であり、ソヴェート同盟を農業の完全な共營化の國に轉化するための不變の基礎なのである。

黨中央委員會はその一九三一年八月二日の決定中で根本的には北カフカズ、ヴォルガ下流、ヴォルガ中流、ウクライナ（ステップおよびヴォルガ河左岸）、クリム、ウラル、モルダヴィアにおける共營化の完了を認めると共に、一九三二年におけるその他のソヴェート同盟の穀物地方（中央黒土地方、西部シベリア、カザクスタン、バシキル、東シベリア、極東地方の穀物地方）、中央アジア、カザクスタン及び後カフカズの棉花地方、およびウクライナ、中央黒土地方の甜菜地方における共營化の完成を、重要な任務として認めてゐる。「ソヴェート同盟の殘餘の地方（この中には消費地帯の地方も入る）において——と決定は言つてゐる——中央委員會は一九三二—三三年に大體共營化を完成するといふ見越で共營化のための活動を行ふことを提議する。」

黨中央委員會は共營化を馬鹿げた比率で無暗に行ふことに對して闘争せねばならぬ、と黨機關の注

意を促してゐる。殊に中央委員會は消費地帯の地方および州のこれらの機關に警告してゐる。

わが國工業化の勝利的進行程と五ヶ年計畫の最初の二ヶ年における諸任務の達成は、共營農場に對する物質的援助を著しく増加する可能性を保證してゐる。一九三一年には農業に十二萬臺のトラクター（十馬力のトラクターに換算して）、七千臺のトラックおよび乗用自動車が増し向けられ、千四十萬の機械、トラクター配給所が新たに組織されるだらう。農業は前年の四億ルーブルの代りに七億六千八百萬ルーブルの機械、二千四百萬ツェントネルの肥料、四千萬ルーブルの害虫退治資金、二千一百万ツェントネルの改良種子が供給されるだらう。豫算と長期信用によつて十五億ルーブルも共營農場と機械、トラクター配給所に與へられるだらう。且つ三億五千萬ルーブルは前貸金の形態で、その農耕生産物を豫約販賣する作付者に與へられるだらう。

わが國民經濟發達の急速なテンポ、國營農場および共營農場の嵐のやうな増加は、わが國を世界最大の農業國に轉化したし、資本主義的經濟に對する社會主義的經濟の優越をはつきりと示してゐる。

「共營化、機械トラクター配給所および國營農場の組織の發展といふ土臺の上で——と第十六回黨大會の決議は言つてゐる——黨は大經營の優越がすでに以前から素晴らしい力で示された工業についてばかりでなく、農業の領域においても世界の資本主義國を「追ひ付き追ひ越す」といふスローガンを實現することができる。この農業の發展テンポは従來は極度に小生産的な小及び零細經營の破壊的征服によつて決定されてゐたが、今や共營農場及び國營農場の加速化的發達によつて決定されるだらう。

共營農場及び國營農場は人類史上嘗て見たことのない新しい經營の型であつて、ソヴェート同盟の經濟的建設の經驗によつて初めて開かれたものである。』

多くの指標によると我々は資本主義國を凌駕した。一九三二年に我々は農村に機械を供給する點ではすでにアメリカ合衆國を追ひ越してゐる。トラクターの利用率では我々はその生産可能性の利用の點でアメリカ合衆國を追ひ越した。

しかし多くの指標——收穫性、牛乳搾取率、家畜の量と質、等々——によると、我々は農業の領域における指導的諸國を追ひ付き、追ひ越すためにどえらい仕事をしなければならぬ。

第二次五ヶ年計畫は暫定案によると、作付面積を一九〇—二〇〇百萬ヘクターにすると共に收穫性の著しい増加をもくろんでゐる。機械化、礦物性肥料の使用、及び完成された技術の採用によつて農業生産は倍加されるだらう。この場合、穀物總生産の増加は六〇%に當り、牧畜生産は二倍半に増加し、技術的作物の生産は少く見積つても三倍に増加される。

農業技術の領域で第二次五ヶ年計畫は、個々の種類の植物の發育期間の縮少、その成長を促進するため電氣の廣汎な適用、科學の新たな成果を廣汎に利用した栽培植物の新形態の創造、冬季にも堪える小麥の種類の創造を豫想してゐる。

五ヶ年計畫の第二年目には三圃農法が完全に清算され、消費地帯には豆類の飼料用根莖及び草より成る飼料上の基礎が作り出されねばならない。人工牧場が千五百萬ヘクターの面積に亘つて作り出さ

れるだらう。各共營農場及び國營農場の家屋は強固な建物とならねばならぬ。

あらゆる農業生産は社會主義的原理に従つて建設されるだらう。

全作付面積のうち約一億五千乃至一億五千五百萬ヘクターは共營農場が、四千乃至五千ヘクターは國營農場が利用するだらう。

農業發達の社會主義的道の優越、あらゆる戦線に社會主義的進出をやる我がメレニンの指導、労働者階級及び共營農場員の熱心は、工業ばかりでなく農業においても、『追ひ付き、追ひ越せ』のスターガンを現實に移す保證なのである。

第五章 労働および文化政策

三三

一、社会主義的労働および規律のための争闘

資本主義下の奴隷的労働とソヴェート同盟における自由な労働

ソヴェート同盟は自由な労働が行はれる世界唯一の國である。殘餘のすべての國において、労働者の労働は非自由意志的労働、××労働である。

資本主義に於ける労働者の状態は、公然たる奴隷とたゞ次の點で異なる、即ち「現代の労働者は自由なやうに見える。なぜさうかと言へば、彼は一度に終生を賣るのではなくて、一部分づゝ、即ち一日とか一週とか一年とかで賣るからであり、また一人の所有者が彼を他に賣り渡すのでなく、彼自身が餘儀なく自らを賣るからである、といふのは彼は一人の人間の××ではなく、全所有者階級×××だからである。」

エンゲルスは一八四四年にイギリスにおける労働者階級の状態をかやうに批評した。

資本主義的現實の無数の事實は、今日でもあらゆる資本主義國に於ける労働者の状態が奴隷的なことを確認してゐる。だがフランスだのイギリスだのアメリカ合衆國だのベルギーだのオランダだの

の植民地々方にはあらゆる種類の資本主義的奴隷と並んで、多くの場合更に個々の人間および全家族の賣買に至るまでの眞正の奴隷所有が保存されてゐる。

資本主義的諸條件の下での労働者の「労働の自由」といふあらゆる見せかけは、單に次の點にある。即ち個々の労働者は、或る程度まで自分の搾取場所を自ら選擇するといふことだ。だが社會的見地から見れば、「労働者階級は死せる労働要具と同様に資本の附屬物である。」(マルクス)

労働生産性の増加は資本主義社會における労働者階級の状態を改善しない。あべこべだ、生産力がべらぼうに増大するにも拘らず、労働者階級の搾取と貧窮化は激化され、失業者は殖え、何千といふ人間を自殺と犯罪に導いてゐる。「ウィーン警察局公報」の統計によると、ウィーン市だけでも一九二九年に三千六十五人が自殺した。しかも公報は自殺の原因が殆どきまつて「苦しい貧困状態、失業、及び宿無し」であつたことを指摘してゐる。

現代の資本主義的生産は十年乃至十五年で労働者を使ひへらす、それは「人間、生きた労働の浪費者であり、肉體や血液ばかりでなく、神經や頭腦の浪費者(マルクス)である。しかも資本主義的傳送帶の帶は、益々殺人的テンポをとつてゐる。マルクスによつて暴露された労働者階級の絶對的貧窮化の法則は、假借なく作用してゐる。労働者の生存はますます不安となつてゐる。

「奴隷労働に基づくこの恥すべき文明は——とマルクスは言つてゐる——その犠牲の悲鳴をけしかけと讒謗の咆哮で打ち消してゐる。」

現在石油黨から社会ファシスト黨の指導者に至るまで全資本主義世界は、あらゆる資本主義諸國及び植民地諸國の労働者階級に解放された労働の大きい力を示してゐるソヴェート同盟に對しても、ますます多くのけしかけと譏諷とをやつてゐる。

ソヴェート同盟の労働者階級はあらゆる基本的、決定的生産手段の主人公となつた。資本家のための強制労働の代りに彼は自分のために生産を組織し、社会主義經濟のため、あらゆる労働者のために意識的計画的に組織してゐる。生産されたあらゆる生産物は、生産發達の必要な（不可避的に緊張された）テンポを保證し、労働者の物質的且つ文化的水準を高めるやうに彼等によつて分配される。

社会主義的に組織された労働は労働者を解放してゐる。しかしプロレタリアートは長期間に亘つて「資本主義のほころ」即ち労働を重苦しい義務、個人的な仕事、たゞ賃銀のための仕事とのみ考へる「習慣」を排除するために闘争しなければならぬ。これらの習慣や傳統は資本主義社会における労働の奴隸的性質によつてプロレタリアートに押しつけられたのであるが、それらは過渡期經濟において支配的地位が強化され、發達し、國民經濟の下に新しい技術的基礎が導入され、社会主義的社會諸關係が小商品的組織を捉へる程度に従つて消滅する。舊い習慣の代りに、資本主義の下では全く考へられない労働に對する社会主義的態度、即ち社会主義的競争と突撃活動とが芽生えてゐる。

「競争において最も注目すべきことは、それが労働に對する人々の見解を根本的に變へてゐることである。なぜならば、競争は労働を人間が以前に考へてゐたやうな恥すべき重苦しい重荷から名譽ある

仕事に、光榮ある仕事に、勇氣と英雄主義の仕事に變化してゐるからである。資本主義諸國には、かやうなことはないし、ある筈がない。そこでは、彼等資本家の許では、社会的喝采を博する最も願はしい仕事とは金利をもつことであり、利子で生活することであり、輕蔑すべき職業と考へられてゐる労働から解放されることである。我々の許では、ソヴェート同盟では、反對に、社會の喝采を博する最も願はしい仕事は、労働の英雄となり得ることであり、幾百萬の勤勞者の中で名譽の榮光に取りまかれる突撃隊活動の英雄となり得ることである。（「スターリン」）

労働に對する新たな態度を獲得するための闘争の最重要な任務の一つ、そしてまたその成功の指標の一つは、労働生産性の向上である。

×及びレーニンはこの任務を一切の社会主義建設における中心的任務として強調した。

「労働生産性は——とレーニンはすでに一九一九年に「偉大なる發端」といふ論文で書いた——結局新しい社會秩序の勝利のために最も重要な最も主要なものである……資本主義は農奴制度には知られなかつた労働生産性を創造した。資本主義は、しかも社会主義が新たな遙かに高い労働生産性を作り出すといふことによつて、決定的に征服されるし、また決定的に征服されるだらう。」

だからこそ、同志スターリンは一九二九年を總決算するに當つて、労働生産性の領域における決定的急轉を、黨政策の社会主義建設の戦線における決定的成功として指摘したのである。

「この成果の意義は——と同志スターリンは言つた——本當に汲み盡せない、なぜならばたゞ幾百萬

の大衆の労働昂揚と労働熱意のみが、この労働生産性の飛躍的増大を保證することができるからである。これなしには、社会主義の資本主義に對する決定的勝利といふことは考へられない。』

しかし過渡期には社会主義的工場の外に、或る期間資本主義的企業と農村における富農的經營が存在する。こゝではX、ソヴェート、及び労働組合の組織の任務は、搾取そのものを減滅すると共にその結果をも減滅することである。これらの機關はソヴェートの労働立法と團體契約との厳格な遂行を監視しなければならぬ。私的企業で働いてゐる労働者の數は著しくないとはいへ、労働組合は私的企業の労働者の階級闘争を積極的に指導しつゝ、これらの労働者の諸利益を現實に擁護することからその注意を弱めてはならぬ。(1)

(1) 全同盟X第十六回大會決議「改造期における労働組合の諸任務について」速記録七三九頁。一九三〇年出版。

戦時X主義時代および復興期の社会主義的労働諸形態

新らしい社会主義的労働形態が現れる可能性は十月Xと共に生れた。しかしこれらの労働諸形態が大衆的となるまでには、十年以上にも亘る社会主義のための階級闘争の時期が必要だつた。

「戦時X主義」の時代は共產主義的土曜日を生んだ。この共產主義的労働の最初の萌芽を、レーニンは「偉大なる發端」、「後方部隊の英雄主義」と呼んだ。

「明らかにそれはまだほんの端緒である——とウラヂミル・イリイチは書いた——しかしこの端緒は異常に大きい重要性を持つてゐる、この端緒はブルジョアジーのXよりもつと困難で、重要で、根本的で、決定的である。なぜなら、これは所有の頑強性、放縱性、小ブルジョア的利己主義に對する勝利であり、呪はれた資本主義が労働や農民に遺産として残したこれらの諸習慣に對する勝利であるからである。この勝利が確保されないならば、……Xは敗北するであらう。」(レーニン、「偉大なる發端」)

新經濟政策時代への移行と共に大衆が生産の改善、その組織に創造的に参加する新らしい諸形態が生じた。

大衆を經濟建設に引き入れる最も効果的な諸形態は生産會議であつた。これは一九二二—二四年から初めて普及し、第十四回X大會の決定後、特に廣汎にその活動を展開した。第十四回X大會の決定は生産會議を、「廣汎な大衆をソヴェート經濟の實際的建設事業に引き入れる最善の形態」して認めたのである。

一九二四年から一九二五年二月までに、生産會議は九つの最重要な労働組合において、六千五百五十人の様々な「労働」提供の管理を委ねた、そのうち失敗したのは僅か七%であつた。これは今日のテシポに較べると甚だ少い(2)。しかし考慮しなければならないことは、「復興期」にはこの運動に参加した人は僅かに労働者階級の最も先進的な部分だけであつたといふことだ。今日我々が見てゐるやう

な大衆的参加はまだなかつた。社会主義部面そのものが充分に發達してゐなかつたことも一つの原因である。

(2) 今日労働提供は幾十萬を以つて數へられる。たとへばモスクワでは「電氣工場」が十日間二千人の労働提供を與へた。「ダイナモ」工場は約千人。レニングラードの「電力工場」は四千人の労働者に對して四千の労働提供を持つてをり、六十萬ルーブルの節約を得てゐる。一九三〇年の突撃四半期に「スチール」工場は一萬九千の労働提供が與へられ、同一期に護謨聯合は九千百與へられた。

生産會議は、労働者階級や生産に引き込まれてゐる小ブルジョア層の廣汎な大衆の間に、労働に對する社会主義的態度を育成し發達するところの唯一の形態ではなかつた。同じやうな役割を勤めたのは第十五回X會議の決定によつて作り出され、生産會議によつて選舉される臨時統制委員會であつた。これは生産會議の實際的機關であつて、或る問題を研究してこれを生産會議のために準備するために作り出されたのである。

新段階における社会主義的労働とその組織形態

五ヶ年計畫のテンポを促進するための闘争において、新しい社会主義的労働形態——社会主義的競争と突撃隊活動——は大衆運動に轉化されてゐる。

一九二七年四月二十九日の全同盟XX會議は、工業化及び共營化の發達テンポを一層促進する方針を決定的に取り上げて、ソヴェート同盟の労働者に向つて競争の組織を叫んだ。

『社会主義建設の諸困難を克服し、都市及び農村における資本主義的分子に對する攻撃を一層發展するため、五ヶ年計畫を完成するために、工場、職場、鑛山、鐵道、國營農場、共營農場、ソヴェート學校、學校及び病院の競争を組織せよ。』

生産費を低下するため、労働生産性を高めるため、労働規律を強めるため、作付面積を擴大するため、農民を共營農場や國營農場に引き入れるため、競争を組織せよ。』

Xの呼びかけに答へて、労働者階級の社会主義建設への参加の幾十の形態を作り出した社会主義的競争と突撃隊活動とが強力に發展した。

一九三一年一月一日には全労働者階級の六三%が競争に加はつてゐる。そして競争者の九一%は突撃隊員である。労働に對する社会主義的態度はもつと高い程度で高まつてゐる。

發展した社会主義的競争の基礎の上に發生しつゝある突撃隊の若干の形態を考慮しよう。單純な突撃隊は、主として生産過程において多かれ少なかれ相互に直接關係してゐる労働者から組織される。普通、突撃隊は次のやうにして組織される。自分を突撃隊と言明するには社会主義的競争に關する契約を取り結ばなくてはならない。部隊は契約によつて、労働規律につき、労働生産性につき、廢物や生産費を低下することについて、極めて明確な義務を負ふ。

突撃隊は同志的な生産相互扶助を作り出す、それは資格を高め、各参加者の労働に對する社会的統制を確立する。(3)

(3) 自分の義務を果さない悪い怠惰者や暴飲者には、文化的教育的方法をとる外に、部隊から除名處分をし、その結果普通その労働者を生産から放逐する。

かういふ堅く結集した集團が、職場における×及び労働組合の活動の組織的基礎をなしてゐる。

突撃隊の労働の経験は、あらゆる生産過程、工場の技術的改造の方向およびテンポに對して、彼等が素晴らしい影響を與へてゐることを證明してゐる。突撃隊は仕事臺、職場、及び全工場の専門化を可能にし、合理的諸方策の實行を促進し、あらゆる方面における仕事の配置の改善をもたらしてゐる。大きい意義を持つてゐるのは貫通突撃隊である。貫通突撃隊はロストフ農業用機械製造所に發生したのだが、非常に普及した。それは當該種類の生産の全生産過程を「貫通して」捉へ、生産の計畫性を強め、職場の澁滞を排し、計畫破壊の眞犯人を摘發し、部隊における自分の仕事の範圍内の労働者の利益を全工場の労働者の利益にまで擴大する。貫通突撃隊の基礎には突撃隊がなければならぬ。各突撃隊は主要突撃隊の一環を成してをり、それから全部隊は貫通突撃隊の會議または局に分れる。貫通突撃隊は企業の内組織(計畫化、計算の確立、等々)を改善するばかりでなく、工場の協同組合、工場内の職場および工場間の協同組合を作り出し、工場の「弱點」を取り去り、工場の最も強力な集合體の生産可能性を完全に利用することを促進してゐる(例へば鑄造職場は當該鑄造所の機械職場ばかりでなく、他工場の職場へも鑄物を供給してゐる、等々)。

計畫的原理の強化は個々の部隊が經營採算に移ることを可能にした。かういふ經營採算隊を組織し

た工場の経験は最も有効な結果をもたらした。突撃隊に於ける經營採算はそれに經濟的獨立を與へ、労働力や原料の厳格な節約制度の實行に貢獻し、潜在的生産資源の動員に力を盡し、生産上の自己批判がなほ一層發達するためにその刺戟を與へ、金融上の規律を高めてゐる。

經營採算突撃隊は工業においても農業においても、社會主義的労働組織の基本的形態である。

突撃隊と労働に對する見解の根本的變化との結合は、「社會的促進者」といふ競争の形態を作り出した。「これは一般的昂揚を遂げるために進んだ者が遅れた者を助ける同志的形態である。(スターリン)『社會的促進者』の組織は突撃隊と職場との相互關係に止まらず、個々の工場をも捉へる。一層進んだ工場は遅れた工場を『促進する』ことができる。社會主義建設といふ國民經濟上の計畫を遂行するための闘争において全同盟のプロレタリアートの利益の一致は、この同志的援助の形態のうちに見出される。

競争の個人的形態から集團的形態への移行は、個人的競争に較べて競争をヨリ高い段階に高める。けれども個人的競争を廢棄しないばかりか、それを發達し、深化することを要求する。個人的競争は具體的な突撃隊の義務に、自己契約に、五ヶ年計畫の終りまで企業に責任を持つこと、等々に現れる。突撃隊はその發達につれて、生産の管理、計畫化、組織への参加の多數の最も多種多様な大衆的形態を作り出した。即ち計畫的作業團、合理化隊、等々。

計畫化に大衆的に参加する最高形態は對抗工業、財政計畫である。第一章で我々は我が經濟における

計畫的原理の強化發達のためのその意義を明らかにした。こゝでは、競争が對抗計畫の形態においてその發展の最高階梯に、即ち社會主義的進出の武器としての計畫自體のための競争に高められてゐることを指摘しなければならない。

對抗工業財政計畫の巨大な意味は次の點にある、即ちそれは工場計畫の直接的作製、その遂行の統制、および監視に大衆をひき入れて、組織者と遂行者との労働の間の對立を除去することができる。これによつて「對抗」は、一般に頭腦労働と筋肉労働との間の對立を廢棄する任務を解決することができるのである。對抗工業財政計畫は現在最もはつきりした社會主義的労働組織の表現である。

新労働形態のために闘争せる労働組合

新労働諸形態及び社會主義的規律のための闘争、労働に對する社會主義的態度のための闘争は、階級闘争の烙印を帯びてゐる。プロレタリアートは社會主義的工業とは縁のない労働に對する破壊的な態度を艾除してゐる。建設のポリシエヴィキ的テンポのための闘争と關聯した社會主義的労働規律はポリシエヴィキ的進出の本質を特徴付ける基本的モメントの一つであり、労働組合の仕事を完全に改造することを要求してゐる。

第十六回×大會は次のことを要求した、「労働組合は生産に、社會主義的經濟建設への積極的参加に、労働者階級の後れた層の内部の小ブルジョアの無定見の克服に轉向することを續け、これを完了

し、この全活動を労働者への供給の改善、労働保護、國家や經濟機關や労働組合における官僚主義との闘争のための活動の強化と密接に結び付けること。

×及び労働組合の最重要な任務は社會主義的競争と衝擊隊との運動を最高の階梯に高め、この運動をば労働者大衆を階級的に教育する學校に實際上轉化することである……」(4)

(4) 中央委員會の報告に關する全同盟××第十六回大會の決議。速記録、七一五頁。

突撃隊は労働組合のあらゆる生産的活動の基礎となつてゐる。それはまた生産會議の骨組を成してゐて、労働者を生産管理に引き込む端初的細胞である。

新しい段階における生産會議の主要任務は社會主義的競争を指導し、發展し、それを最高の階梯に導くことである。

生産的任務の解決に具體的に参加するため、労働者の組織や政治的教育を一層よく親しく取扱ふために、全同盟労働組合中央委員會第五回總會は幾多の労働組合の擴大を計つた。

擴大された労働組合は該種類の生産のあらゆる特殊性を考慮してその技術、經濟、財政を綿密に研究することができる。この基礎の上に工業財政計畫のための闘争を指導することができる。

擴大された労働組合は生産的原則(一企業は一労働組合の)一層の深化に基づいて作り出された。生産上の諸問題の解決に労働者をたくさん引き入れるため、そしてまた指導的工業部門の労働者をヨリよく訓練するため、労働組合のなかに生産部門が組織された。諸職場及び諸工場には職業別生産

會議が作られてゐる。かういふ會議は經驗の急速な交換、労働者のイニシアティブのヨリよき利用、生産上の諸缺陷の上手な摘發を保證するに相違ない。

以前の労働組合の日和見主義的指導部は新經濟政策の枠内ではあらゆる戦線に進出する可能性を否定したが、これは運動のサボタージュであることが分かつた。社會主義的競争は労働組合の組織を越えて行つた。舊い指導部の外に、これに反對して社會主義的競争の本部が作り出された、なぜなら、突撃隊運動は労働組合の組織に代るものでなかつたからである。労働組合は破壊者や浮浪者や小ブルジョア分子に對する闘争において突撃隊員を支持しなかつた。

右翼日和見主義との闘争で労働組合が生産に目を轉ずる必要を強調したXは、ソヴェート經濟における労働組合の役割のレーニンの理解から出發した。レーニンは幾回となく労働組合はX主義の學校となるべきことを指摘した。これは労働組合が社會主義的競争を指導し、プロレタリア的階級的規律を涵養しながら、工業財政計畫を遂行し、テンポを促進するためにその全活動生産をその周圍に集中すべきことを意味する。Xは、労働組合の生産的機能と保護的機能とは互ひに對立するものではない、といふことから出發した。プロレタリアXの下における労働組合の特殊性は次の點にある。即ち、労働組合はトロツキ主義や右翼の意見に反して、工業の管理にも参加すれば、同時に労働および労働賃銀の領域における黨政策の經濟機關による變形と、官僚主義的歪曲とから該労働者集團の利益をも擁護するのである。

三六

この問題で右翼はレーニン主義から決定的に分離した。當時トムスキーは書いた、「労働組合は全注意を労働者の經濟的利益の擁護に集中する必要がある、といふ事實自體が、工業管理への労働組合の参加と鋭く矛盾してゐる」(「トムスキー」『新たな途に上つた労働組合』)

團體契約の意義

實際上この見地は、労働組合が經濟團體と取結んだ團體契約の日和見主義的トレードユニオン的解釋を生んだ。労働組合は團體契約を經濟團體の一方的義務として考へた。

團體契約による双方向的義務といふ觀念は、すでに第十六回X大會によつて作り出された、けれども舊式な労働組合の指導部はこれを意識的に實行しなかつた。後者は、同志トムスキー自身の告白によると、「當時の大多數の労働組合運動の上級機關をX中央委員會に對置するに至つた。X一般に對置した、——と附加しなければならぬ。これによつて團體契約の政治的意義は失はれ、そして團體契約は純粹な「商賣上」の文書に轉化してしまつた。

團體契約は労働者階級の指導的部分即ち突撃隊員の利益を表現し、先づ第一に労働組合員、特に大きい生産的舞臺を持つ労働組合員の特權を保證しながら、社會主義的進出の武器でなければならぬ。團體契約は工業財政計畫の一部である。團體契約によつて定められた労働保護の諸問題、労働者の文化的生活的條件の改善の諸問題は、工業財政計畫遂行の構成部分として考察せねばならぬ。他方、

該工場の労働者の物質的狀態の著しい改善は、そのあらゆる量的及び質的指標における工業財政計畫の遂行に依存してゐる。

工業財政計畫の指標と團體契約の指標との關係をもつと密接にする必要から、労働組合中央委員會が聯合およびトラストと取結んだ一般的契約が、地方の労働組合組織が企業と取結ぶ契約に移つて行つた。

「契約を取結ぶ場合に——と第十六回大會の決議は強調してゐる——労働組合は經濟機關側の官僚主義の分子を決定的に排除し、労働組合機關側の狹隘なトレードユニオンの傾向を排除しなければならぬ。」

これらのこと、關聯して團體契約カムパニアは政治的性質を帯び、眞剣に準備され、前年の團體契約の義務の遂行が大衆自身によつて點檢され、各々の労働者にまで及ぶやうにしなければならぬ。

新段階における社會保險の諸任務

労働組合と並んで社會主義的労働規律のための闘争で大きい地位を占めてゐるのは、社會保險の諸機關である。

社會保險の諸機關は全體としての労働機關と同様に、その以前の日和見主義的指導部の下では生活の要求から非常に後れてゐた。労働機關が伴りの失業者を扶養し、浮浪者や労働規律攪亂者に補助金

を與へるために幾百萬ルーブルを浪費してゐたのに、他方では工業は労働不足で多大の困難を訴へてゐた、といふ第十六回大會でスターリンが示したことを思ひ出せば充分である。

今では社會保險の諸機關は改善された。社會保險は著しく社會主義建設に積極的に参加してをり、そして労働者階級の生活問題を改造する重要な槓杆となつてゐる。

第六回全同盟労働會議は、社會保險のあらゆる問題に對する階級的政治的方針をはつきりと決定してゐる。同會議は次のことを要求してゐる。

- イ、社會保險諸問題に對する階級的態度と被保險者の賢明な世話の保證。
- ロ、個人的貨幣的補助から生活方法の世話に、補助金の社會化と現物化に移ること。
- ハ、怠惰者、浮浪者、および労働規律攪亂者との闘争を組織すること。
- ニ、社會主義的競争と突撃隊活動の發達を促進すること。

一九三一年には國營保險の基金が一九三〇年の十六億ルーブルに對して二十一億三千八百萬ルーブルと定められた。工業における労働者生活改善基金の總額は、一九三〇年の一億二千五百萬ルーブルに對して二億八千五百萬ルーブルと定められた。これらの金額は、×や政府が社會保險の問題に對して巨大な注意を拂つてゐることを物語つてゐる。保險機關網を企業に接近させ、労働者の待遇をよくするために、一九三一年夏に社會保險機關の改造が行はれた。社會保險全同盟支金庫、地方共和國保險金庫が作られ、大中企業の許に支拂所が組織された。

ソヴェート同盟中央執行委員および人民委員会が採用した新社会保険法は、労働生産性の向上を促進し、社会主義的競争と突撃隊活動とを奨励し、怠惰との競争を強化する等々の方向を目指した社会保険機関の改造を具體化し、強化してゐる。最大の特典を與られてゐるのは、工業企業、建築、交通、国营農場、機械トラクター配給所の労働者、先づ第一に労働組合員および突撃隊員である。

二、幹部養成のための闘争

失業者撲滅の全世界的意義

一九三〇年までXの政策で大きい地位を占めてゐたのは失業、その原因、及びその撲滅方法の問題であつた。

ソヴェート同盟における失業者は獨特な性質をもつてゐた。その根源は資本主義体制から遺産として残されて來た所謂農村の過剰人口である。農村の途方もない規模の過剰人口は、非常に著しい農奴制度の残存物の諸條件の下に、資本主義的農民分化によつてツアアのロシアに生み出されたのである。地主および富農の搾取者によつて没落させられた勤勞農民の巨大な大衆は、「分割地を持つプロレタリアート」に轉化した。

「資本主義的生産が農業を捉へる時、或はそれが農業を捉へる度合に従つて、農業労働人口に對する

需要はそこで機能する資本の蓄積と較べて絶對的に減少する。はちき出された労働人口はそこでは農業外の工業に見るやうに多大なる吸引によつて補充されないのである。だから農業人口の一部は絶えず都市プロレタリアートの列中に移る準備をしてをり、この轉化に有利な状態をねらつてゐる。……だからこの相對的過剰人口の源泉は止め度なく流れ出る(5)。

(5) マルクス『資本論』第一卷、六三〇頁、一九三〇年、国立出版所。

この繼承された農村の過剰人口こそ、工業プロレタリアートの年々の増加にも拘らず、一九三〇年まで失業者増加の源泉であつた。次の表は職業紹介所の統計による失業者の變動を示してゐる。

一九二一年	一九二二年	一九二三年四月	一九二三年九月一日	一九二三年十二月一日
失業者数……八四八、〇〇〇	一、三五三	一、七四一、〇〇〇	三六五、〇〇〇	失業者なし

失業者撲滅の道は全國民經濟の改造、社会主義工業の發達と農民經營の共營化の線に添ふて横はつてゐた。

若し右翼日和見主義の「蝸牛的アンボ」計畫を採用してゐたとすれば、我々は今日でも數十萬の失業者を持つてゐたらう、なぜなら、ソヴェート同盟における農村過剰人口の基礎——小商品的農民經營——はまだ壓倒的であらうからである。

ソヴェート同盟における失業者の撲滅は、資本主義諸國における未曾有の恐慌と失業者の増加とを背景にして、全世界的意義をもつてゐる。

失業者撲滅は××一般方針の偉大な勝利である。それは労働者階級の數的増大を伴ひながら労働者の物質的文化的水準を著しく高め、我が經濟の全社會主義部面の強化をもたらした。

次の表は一九二九—三一年間におけるソヴェート同盟の労働者數の増加の様相を示してゐる（單位千人）。

労働部門	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	前年に對する比率	
				一九三〇年	一九三一年
一、工業……………	三、七六一	四、五一一	五、一五九	一一九・九	一一四・四
そのうち大工業	三、三三三	四、一一〇	四、七九八	一一二・六	一一六・七
二、建築……………	九二三	一、四三二	二、〇一〇	一五五・一	一四〇・〇
三、交通關係……………	一、四二二	一、六四一	一、八七〇	一一五・四	一一四・〇
労働者及び被労働者總數……………	一二、三九四	一四、二六九	一六、三〇〇	一一五・一	一二四・七
そのうち					
非農業部門……………	一〇、四〇五	一二、一一一	一三、七一三	一一六・四	一二三・二
農業部門……………	一、九八九	二、一五八	二、五八七	一〇八・五	一一九・七
そのうち國營農場……………	三九九	六九四	一、二八九	一七三・九	一八五・九

失業者清算は社會主義時代への我が國の進入と符合する巨大な原則的意義を持つてゐる。

労働の領域におけるあらゆる基本的問題は今では面目を一新してゐる。最も重要なのは労働力の計畫化と幹部養成の任務である。『幹部の問題は工業の技術的改造といふ事情の下には社會主義建設の決

定的問題である』(スターリン)。

労働者階級出身の幹部の養成

幹部とはあらゆる領域、あらゆる建設部門におけるあらゆる種類の資格をもつ勤勞者である。即ち製鐵工、機關手、共營農場のトラクター運轉手の幹部、國營農場の組織者の幹部等々。現在では幹部を必要としてゐないやうな部門は、國民經濟のどの部門にもない。我が國ではあらゆる労働資源が涸渇してしまつた、などと言ひ得るのは右翼日和見主義者だけである。我々は巨大な労働資源を持つてゐる。農業への技術の甚しい浸入と關聯して解放された働き手だけを取つて見てもさうである。たゞその利用を組織することが必要なのだ。労働力の計畫化といふことが、社會主義の時期に踏み出した國にとつては社會的の必要となつてゐる。

労働力の計畫化は諸々の方策から成つてゐる。そのうちで主要なものは次の通りである。一、計畫的幹部養成。二、企業における労働力の正しい利用。三、諸企業間の過剩と工場内部の過剩の除去。四、労働力の計畫的分配。五、社會主義的競争と突撃隊活動との發達。

第十五回黨大會はプロレタリア幹部の養成を最重要な任務として提起した。

一九二八年の全同盟××中央委員會七月總會は同志モロトフの報告に從つて『新専門家養成の改善』に關する特別決議を採用し、そのなかで多くの指導的示唆を與へた。しかし労働人民委員會や勞

働組合内の以前の日和見主義的指導部が邪魔したために、××指令は遂行されなかつた。反革命的妨害者はこれを廣汎に利用した。「産業黨」やメンシエヴィキの裁判事件は、妨害者共が我が高等學校や科學的施設の中で如何なる「幹部」を養成しようとしたか、なぜ我が科學的施設で労働者階級および××の層の増加がかくも僅少であつたか、を示した。

右翼は専門家のプロレタリア幹部が急速に養成されなければならないといふ必要に奔走として迫られてゐることを理解しなかつた。このことは建設のテンポを緩めよといふ右翼の一般の方針と、國內における階級闘争の尖鋭化を彼等が否定したこと、關聯してゐた。多くの大妨害者が暴露された後でさへ同志ブーリンは、「工業管理および技術研究本部改造に關する」最高國民經濟會議總會に提出するテーゼのなかで、どこでも幹部養成のための階級闘争に觸れなかつた。同志ルイコフは全同盟×××中央委員會四月總會で言つた、幹部問題は「階級に觸れないで……解決することができる。それは農村と階級的分化とに對する態度の問題ではない。」

右翼は幹部問題が大きい政治的問題であり、自己の幹部を作るための階級闘争の問題であつて、單に労働力の不足を補ふといふ經濟的任務でないことをどうしても理解できなかつた。

幹部問題の政治的意義は第十六回××大會が絶對的に明かにした。同志ブーリンの報告に關する決議のなかで××確言した。

「労働者階級の人々のうちから幹部を養成するといふ任務をめぐつて全黨及び労働者階級が一層力を

動員する時にのみ……國の社會主義的工業化のポリシエヴィキ的テンポの一層の遂行を保證することが出来る。」

第十六回大會の指令は、一九三一年六月二十三日の經營役員會議における演説で同志ブーリンによつて發展された。同志ブーリンは自己の労働者的生産技術的インテリゲンチヤを急速に作り出すといふ任務を提起した。「如何なる支配階級も——同志ブーリンは言つてゐる——自分自身のインテリゲンチヤなしではやつて行けなかつた。」自分自身のインテリゲンチヤのみが結局労働者階級の政治を飲み込むことができ、「その生産における利害を支配階級の利害として擁護する」ことができるのだ。「労働者階級の人々から」幹部を養成するといふ第十六回大會の決定と、自己の生産技術的インテリゲンチヤの創造の必要といふブーリンの指摘とは、社會主義建設の多種多様な必要のために労働力の養成に従つてゐるあらゆる機關の活動に原則的基礎を與へてゐる。

幹部養成の諸形態

優秀な労働力を養成するために我々は労働力の計畫的再生産に決定的に移つた。給費や住宅地やその資格を獲得し向上するためのあらゆる條件を受けてゐる工場内徒弟教育學校、高等工業學校、等々の参加者數が逐年増加してゐる。教育費は労働者の賃銀から支拂はれた。幹部の養成は我が建設の最も社會化された部分の一つである。

有資格労働者養成の基本的形態は工場内徒弟教育学校である。一九三一年だけの間にも工場内徒弟教育学校には八十万人の参加者が吸集された、つまり一九三〇年よりも七〇%も多い。そのうち、

工業のために養成されるもの	四〇〇,〇〇〇人
交通	一四〇,〇〇〇人
建築	一六〇,〇〇〇人
農業	一〇〇,〇〇〇人
合計	八〇〇,〇〇〇人

工業内部で下級な職業から上級な職業に移るためには六十萬の有資格労働者が養成されねばならぬ。労働の新形態、殊に突撃隊IIコレクティブは労働者の技術的文化的水準の向上を著しく促進し、この移動を完全に現実的なものとするといふことを指摘しなければならぬ。

この外に多数(約二十萬人)の労働者が多くの経済的聯合體で養成されてゐる。中央労働研究所の諸方法によつて、五十五萬(一九三〇年の二十萬の代りに)の労働者が養成される筈である。

全同盟労働機關會議は上述の労働力養成が、一層分化された労働過程に基づく最高の(社會主義的)労働形態と非常に貴重な關係をもつてゐることを認めた。

労働組合及びX×青年同盟によつて組織された高等學校準備教育の急速な發達は、素晴らしい意義を持つてゐる。それは労働者大學豫科と共に一九三一年に十六萬の人間を養成してゐる。

生産そのものゝなかゝら専門家養成の新形態が成長してゐる。これは工場技術教育、學習結合、工場、高等工業學校、最後に、現在では、企業II學校。

我が經濟の中年及び老年の指導者團の養成ではすでに著しい成功を勝ち得た。

高等専門學校及び技術學校の收容表(單位千)

教育施設の型	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
高等専門學校	四六	六一	一一〇・三	一三一・四
技術學校	九五	一五一・九	三〇三・二	二四一・四

一九三一年末における高等専門學校入學者の社會的構成は左表に掲げられた數字が示してゐる。

	高等専門學校全入學者のうち	農民の%	その他の%
工業	六三・七	一三・三	二三・〇
經濟	五〇・二	二〇・七	二九・一
農業	三七・六	四一・九	二〇・五
教育	三五・二	三二・三	三二・六
醫學	四五・七	一九・四	三四・九
合計	五一・四	二二・二	二六・四

この表から分ることは高等専門學校全入學者の半数以上は労働者であり、勤勞農民を加へれば四分の三を占めるといふことである。

しかしソヴェート体制はなほ多くの特殊な、それのみ特有の指導的幹部養成形態を持つてゐる。即ち、労働者拔擢と一九三一年に發生した社會主義的二重職業である。

労働者拔擢と社會主義的二重職業とは、ソヴェート同盟と資本主義諸國における國家構造の深刻な差異を示してゐる。

仕事臺の労働者、社會主義的競争の發案者、突撃隊の指導者を責任ある地位に拔擢することは、「労働者階級の人々のうちから」新しい指導的幹部、新しい「労働者階級のインテリゲンチヤの核」(スターリン)を作り出してをり、彼等の階級的労働者の統制に服する諸施設の活動に直接影響を及ぼしてゐる。社會主義的二重職業は、労働者拔擢よりも更に大きい程度に、生産的労働者が國家的指導的經濟的機能を遂行する可能性を強めてゐる。

社會主義的二重職業者は或るソヴェート施設で働き、しかも職場または工場を棄てない。彼はその施設の活動を生産的活動に結び付けてゐる。これは、施設の活動に影響を與へる可能性を、工場的社會性に依據する拔擢者よりも多く彼に與へる。その外、彼は工場に残つてゐるので、工場幹部を減少させない。

婦人労働、民族的幹部

幹部の養成に當つて生産及びソヴェート活動の多種多様な部門に婦人を引き入れることが、巨大な

役割を演じてゐる。勤勞婦人は労働者と同様に社會主義の積極的建設者でなければならぬ。中央統計局の統計によると、一九三〇年には大工業だけでもすでに八十八萬一千人の婦人が働いてゐた、つまり大工業の労働者總數の二八・四%である。しかし勿論これは不充分である。一九三一年の統制數字は八十萬の新らしい婦人労働者を生産に引き入れる見込である。婦人を生産に引き入れること、彼女等を教育しその資格を高めることは、労働組合、労働諸機關、及び經濟諸團體の荷ふべき眞剣な經濟的政治的任務である。

この任務の解決は、一、巨大な労働資源を與へると共に、幹部の重要な源泉であり、二、社會主義建設における婦人の役割を男子と等しくすると共に、社會主義的生活の前提條件であり、三、労働者家族の福利を増進し、四、文化革命の諸任務の解決にとつて、全労働者階級の政治的意識と組織性を増す點で、最も眞剣な意義を持つてをり、五、國の防禦能力を高めるのである。

民族的諸地方における幹部の養成は重要な政治的經濟的意義を持つてゐる。

同志スターリンは第十六回黨大會の政治報告中で、社會主義建設のあらゆる方面にとつて民族問題が重要性をもつてゐることを繰返し強調した。

民族的不平等の要素の排除、民族的文化の發達、民族的諸共和國及び諸地方における社會主義建設の強化は、そこに強大な社會主義工業が發達し、基本的民族から優秀な幹部を作り出すことと密接に關聯してゐる。すでに一九二九年末に地方的民族から成る工業労働者は表の如くであつた。

北カフカズ(オセチ人、チエチエン人、アルメニア人)	一七・八%
カバルジン人、イングシ人、チエルケス人)	一二%
カレリヤ共和国	四三%
チユバシ共和国	六二%
沿ヴォルガ・ドイツ人自治社会主義ソヴェート共和国	七六%
タゲスタン・社会主義サヴェート共和国	七四%
コーム地方	七四%

一九三〇年にはもつともつと増加した。

これらの数字は、我々が民族的工業幹部の發達を計る上で素晴らしい成功をかち得たことを示してゐる。だが同じこれらの数字からは、我々がまだまだこの任務の解決を完成してゐなかつたことがわかる。

新建設の地理的配置(カザクスタン、中央アジア、等々)は民族的諸地方における幹部養成のテンポを著しく高めることを要求してゐる。

舊専門家と外國労働者の経験の利用

自己のプロレタリア的幹部を作り出すと共に舊専門家の経験を利用しなければならない。最も優秀な舊技術的インテリゲンチヤの多くのグループが反革命的妨害者の無数の行動に加はつたために、勞

働者階級は専門家や多くのツァー時代のブルジョアジーの成れの果や自分自身の利益を守る人を、最も用心深く取扱はざるを得なくなつた。『かういふ事態に際しては——と同志スターリンは言つてゐる——ソヴェート権力は舊い技術的インテリゲンチヤに對してたゞ一つの政策をとり得るのみであることは、明かである、即ち、積極的妨害者を削減し、中立者を分離し、忠誠な者を引き入れる政策がこれである。二年後にはさうなるだらう』(6)。しかし今や環境が變つてしまつた。變つた環境——その基礎の上にソヴェート権力と黨の成功があるのだが——は舊技術的インテリゲンチヤの間に新らしい氣分を作り出し、ソヴェート権力の方への決定的な轉向を作り出した。正直な専門家には、労働の正常な條件を作つてやり、彼等を労働者の社會性の影響と統制の下に置かねばならぬ。

(6) スターリン『新環境——經濟建設の新任務』一九三一年六月二十三日、經營役員會議の演説、一九三一年、二二頁。

同志スターリンは一九三一年夏に技術的インテリゲンチヤのソヴェート権力への轉向期には黨及びソヴェート権力の彼等に對する態度を變更しなければならぬことを強調した。『新たな變化した諸條件の下では、舊政策を持続することは正しくなく、非辯證法的であらう……舊派の技術家的技術力に對する態度を變へること、彼等に對してヨリ多くの注意と配慮を與へること、彼等をヨリ大膽に労働に引き入れること——これが今日の任務である』(7)。

(7) 同書、二四頁

専門家を引き入れることは現在の瞬間では、ソヴェート権力の最初の時期とは全く違つた諸条件下で行はれてゐる。『最大……企業を建設するための獨立的な仕事の經驗はプロレタリアートの黨もプロレタリアートの前衛も持つてゐない』(8)。とレーニンは書いたが、この時から見ると環境は著しく變化した。かういふ經驗は今ではすでに持つてゐる。偉大な社會主義的建設は新しい若い力を作り出し、多くの専門家を補充し、そして舊技術家の比重は著しく減少した。その外に、舊技術を獲得する必要と並んで、我々は今日新しい社會主義的技術を作り出す任務を持つてゐる。舊技術家は多くの新しい、ソヴェート同盟で初めて組織された生産では、必ずしも權威者ではあり得ない。これと關聯して、外國人技術家と外國人労働者を我が工場に利用することが大きい意義を持つてゐる。なぜなら、彼等の經驗は先進的資本主義的技術の經驗だからである。労働組合諸機關の任務は外國人労働者及び技術家の周圍にそれ相當の環境を作り出し、彼等を社會主義的建設の諸任務によつて捉へることである。これはまた國際的精神によつて労働階級を教育するために巨大な政治的意義を持つてゐる。

(8) レーニン、『レーニン全集』第二十二卷、五二五頁。

幹部の計畫化および流動性との闘争

労働力の計畫的養成はその計畫的利用と直接關係してゐる。
労働力分配上の計畫的原理の強化は、あらゆる計畫化體制を、より高い段階に高めてゐる。計畫化は

労働資源と社會主義經濟のあらゆる領域における労働支出との直接的な社會的計算に基づいて立てられる。すべての労働者及び共營農場員が、労働力の計畫的支出は社會的に必要だといふことを知るやうにしなければならない。

一九三〇年十月二十日の黨中央委員會の決定は左の如く指摘してゐる。

『國民經濟の重要な部門に優秀な労働力を供給するために、全同盟労働人民委員部および同盟共和國の労働人民委員部に對して、労働組合の同意と經濟諸機關の要求に従つて左程重要でない國民經濟部門からより重要な部門(鑛山、製鐵、交通、及び主要な大建築)へ優秀な労働力を引き上げ、移轉する權能を與へること。』

それと同時に、特に新しい工業地方では、労働者の文化的生活的要求を保證する多くの方策が採用され、住宅建築が進められ(たとへばチェリアピン、マグニトゴルスク工場、ニヂェゴロド自動車工場における住宅建築強要に關する黨の決定)、一地方から他地方に移る労働者に多くの特權が與へられてゐる。

社會主義的大農業の組織、機械化、及び共營農場における正しい労働組織は多數の労働力を解放してゐる。それは工業や建築に計畫的に利用されなければならぬ。

國家計畫委員會の調査資料によると、五〇%以下の労働力豫備軍を使つてゐる共營農場の比率は下表の如くであつた。

ヴォルガ下流では……………二〇・九％
 北カフカズでは……………二二・四％
 中央黒土地方では……………三一・一％
 ウクライナ……………三一・六％

労働人民委員部の諸機關は共營農場自身の助けをかりて、特に労働組合の同意を得て労働力の徴集をやつてゐる。

それと共に労働諸機關及び農業人民委員部の諸機關は、工業及び季節的生産の労働力を提供すべき契約上の義務を遂行した共營農場に多くの特権を與へなければならぬ。(一九三一年には四十萬の季節労働者が要求されてゐる)。これらの共營農場には先づ第一に農業用機械と工業商品とが供給される。上に述べた經濟諸機關の共營農場に對する契約の實際を規制するため、且それが一層發達するために重要な意義を持つてゐるのは、一九三一年六月三十日のソヴェート同盟中央執行委員會と人民委員會議の出稼に關する決定である。

これと共に一九三一年の國民經濟計畫は、建築及び農業生産の新技术に依據して多くの季節的労働を年中行ふ労働に轉化する任務を提起し、建築及び農業生産に絶えず供給すべき多くの幹部を作るといふ決定的方針を取つてゐる。一九三一年の統制數字によると、最も繁忙な季節における建築労働者の比率は年平均比率を僅か五分の一しか超えてゐない。共營農場では恒常労働者の比重が一九三一年には五三％に當つてゐる。

労働力の計畫化は同時にその利用を充分考慮すべきことを要求してゐる。

一九三〇年と一九三一年の上半期は、諸企業ではまだ引き續き労働力の正しい利用が行はれず、生産昂進の場合の計畫とは反對に労働力の餘剰があり、企業自體の内部に過剰があることを示した。例へば、有色金属産金礦では労働者總數に對する餘剰分は一〇％に當り、北部化學では一五％、「ボガートイル」工場では九百人の餘剰労働者を持つてゐた、等々。

企業内部の「責任のがれ」を止めなければならぬ。各仕事臺、各組、各班はその「主人」を持たなければならぬ。統一制度の原則はもつと深く職場内に浸入しなくてはならぬ。これによつて過剰な労働力を見付け、規律を強めることができる。

多くの企業における經營役員及び労働組合機關の工業財政計畫遂行上の挫折は、労働力の不足によつて説明されようとした。しかしこれは屢々、具體的に指導することを知らなかつたといふことを物語つてゐた。こゝでも「客觀的」原因として、絶えず實踐上の右翼偏向、またはそれに隠れた妨害者共が暴露された。

正しい労働力の利用は流動性に對する闘争と關聯してゐる。右翼は流動性の社會的根元が階級闘争の尖鋭化から成長してゐることを認識しなかつた。労働人民委員部の諸機關に對する日和見主義者の影響の結果、小ブルジョアと「失業で」萎縮した者とから成る偽りな、赤の他人の分子を保護するやうになり、そして流動性を激しくした。

労働組合及び労働諸機關の仕事の不充分なことは流動性を激しくしたが、それは先づ第一に、住宅上及び生活上の諸條件の改善の不足、種々な國民經濟部門における同一仕事の正しくない賃銀率となつて現れた。後者は同じ品質の労働力の報酬に多くの差をもたらした。

××指令に基づく労働人民委員部諸機關の改造は、企業における労働力の状態を著しく健全にした。破壊者や浮浪者に對して向けられた多くの立法的諸方策（救済の停止、労働組合から除名）が採用され、また直接企業に働いてゐる労働者に多くの特權（住宅、休養所、高等専門學校への入學優先權、外國派遣、等々）を與へることによつて。

巨大な意義を持つてゐるのは労働力分配と流動性に對する闘争とに關する一九三〇年の×中央委員會九月會議と九月二日の中央委員會の決定、及び十一月十五日の人民委員會會議の決定であつて、それは××××労働規律の擾亂者に對する闘争に大衆を動員した。

三、労働および生活條件改善の領域における

××政策

七時間労働日と五日週間

十月××は生産自體における労働條件を激變した。立法的方面では八時間労働は、危険労働のため

に六時間労働は、各週四十二時間、休養、休暇、企業の負擔で社會保險、等々が實施された。これらの基本的規定から出發してソヴェート労働法が制定された。この時代にはまだ多くの企業が資本家連の手にあつたことを忘れてはならぬ。労働立法は労働諸機關の外に、労働組合の諸組織によつて支持された。労働立法の方面におけるソヴェート法の違反者は、刑法によつて處罰されたし、今でも處罰されてゐる。

しかし最初の諸年の立法はほんに初歩であつた。國民經濟の社會主義的發達に基づいて、その後の労働方面における黨の諸方策は、ますます其影響をあらゆる労働條件に押し及ぼすことになつた。

これらすべての方策のうち最も重要なのは七時間労働日の採用である。これは世界的意義を持つ事實である。これはすべての資本主義國に對するソヴェート經濟の根本的相違と議論の餘地ない優越性を明示してゐる。

七時間労働日の經濟的、政治的、及び文化的意義は素晴らしいものである。七時間労働日は、

- 一、労働者階級の肉體力を保存し、その結果疾病率と死亡率とを低め、労働者の生存持續性を長くし、不幸な場合を減少する。
- 二、文化的政治的發達および學習の時間を多くする。
- 三、直接労働者が多くの國家的機能を行つる可能性を増加する、これは國家諸機關の改善を非常に著しく促進し、同時に労働者の政治的意識を高める。

四、我が發達のテンポが古今未曾有である原因の一つである、なぜならばそれは機械利用の能率を増し、技術的労働への移行を可能にし、労働の集約性を高めるからである。

五、賃銀を高め、失業者を撲滅する重要な要因である。

十月××の十年目にソヴェート同盟中央執行委員会の決議は『来るべき年度のうちには賃銀を低下しないで八時間労働日から七時間労働日に移ることができると言つたが、この時トロツキー主義的反対派はこの決定に反対し、デマゴグで××喰つてかゝつた。この年にはすでに、工業及び交通の基本的部門では七時間労働日への移行が實現されたのだ。

(一九三一年)十一月總會の決定は統制數字に關して次の指令を與へてゐる。

『一九三一年の末までに全鐵道労働者と、最高國民經濟會議によつて計畫化された工業に従事してゐる労働者の九二%と、供給人民委員部によつて計畫化された工業の労働者の五二%が、七時間労働日に移ること。』

五日週労働制と無休制とは労働者の休養、彼の文化的要求をヨリ良く満足する可能性、そしてまた均等な休養のおかげで労働生産性を高める可能性を更に一層増加してゐる。

一九三一年に繊維工業を除いて最高國民經濟會議によつて計畫化された工業の全労働者と、供給人民委員部によつて計畫化された工業の労働者の九八%とが五日週労働制(無休制)に移つてゐる。五日週制の特に偉大な意義は全生活を變化させたところにある。五日週制とそれに關聯する無休制とは

生活における眞の革命を齎らし宗教への拜跪、日曜毎の飲酒と戦つてゐると言つても過言ではなからう。

労働保護

労働條件改善のために大きい意義を持つてゐるのは、労働保護の諸方策である。この中に危険防止、技術、住宅の通風、衛生、適當な特別服等々が遣入る。マルクスの謂ゆる『労働者の生存條件に對する』節約によつて資本主義の時代に建てられた古い工場では、これらの諸方策は殊に重要である。マルクスは資本主義的工場を次のやうに特徴付けてゐる。

『この節約は狭い不健康な場所を労働者で充満させる、資本主義的言葉でこれを建物の節約と呼んでゐる。節約は更に危険な機械を同じ場所に堆積し、しかも危険豫防の應急策などは取りつけるなど要求する。生産過程に應急策がないことは、その性質上健康に有害である。……我々はまだ生産過程を人間化し、それを労働者にとつて愉快なもの、またはたゞ耐え得るものにさへするための、あらゆる設備が缺けてゐることを語らない、——資本主義的見地からすると、それは全く無目的な無意味な浪費であるだらう。一般に資本主義的生産はそのあらゆる節約にも拘らず、疑もなく人間材料の取扱の點で浪費的である。』

舊企業の技術自體が、それを作り出した組織の極印をくつきりと帯びてゐる。黨の政策はこれらの

諸條件を決定的に變化することにある。

かくて工業における労働保護のために、一九三一年の間に一九三〇年の一億ルーブルに對して一億三千五百萬ルーブルが當てられた。このうち主要な金額は重工業に入つて行つた。労働者の生活條件の改善には一九三〇年の一億九千六百五十萬ルーブルの代りに四億七百五十萬ルーブルが當てられた。すでに社會主義に特有な技術的基礎を形成する新しい工場の型を作り上げるには、労働諸機關、健康保護諸機關、啓蒙諸機關、および労働組合諸機關が直接これに参加しなければならぬ。新しい工場はその型から言つて、舊秩序から我が國に遺されてゐる工場とは截然と區別される。新しい工場には労働にとつて最大限度に都合のよい諸條件が作り出されてゐる。新建設物には初めから労働の新社會主義的形態に相應する機械の配置、充分な通風、採光、労働中の休憩を快適に利用すること、等々が豫定されてゐる。

『労働組合は——と第十六回黨大會の決議は指摘してゐる——資本建設および新建設、生産の合理化が行はれる場合には、労働條件の保護と改善、技術的危険防止の諸要求が遵守されるやう努めねばならぬ。』

労働條件及び保護を改善するための諸方策を實行する上に大きい意義を持つてゐるのは、労働者積極部隊から成る社會的監視の設置である。社會的監視と労働監視自身の仕事の改善とは、これらの諸方策の實行を日々統制することができ、労働諸機關を労働者大衆に近付けることができるに相違ない。

住宅建築

労働條件改善の領域における××政策は、直接生産の領域をふくむばかりでなく、労働者の生活の生存諸條件をもふくむ。

あらゆる生活問題のうちで特に××大きい注意を拂つたし、また拂ひつゝあるのは、住宅問題である。

ブルジョア組織の諸條件の下では都會經濟、そして何よりも先づ住宅は動勞大衆を搾取する補充武器として役立つてゐる。最も單純な飾り付けも、設備もない「安っぽい」労働者長屋は、資本主義的家主の手中では甚だ儲かる資本主義的企業である。資本主義的都市のブルジョア商人的、家主的市廳は、労働者が住む住宅の協同經濟の改善などには少くも手を觸れず、主として動勞者から取り集めた都市收入の莫大な部分をブルジョアの住宅の施設に支出してゐる。だが、そればかりではない。資本家は労働者の住宅を階級闘争の××に轉化する、彼等はストライキをやる労働者の家族を街頭に投げ出す。階級闘争のこの領域にも、資本主義の著しい矛盾は次のやうな點にあらはれてゐる、即ち、大資本主義都市には多くの階段のある空屋と並んで、労働者の家族も入らないやうな夜の宿と、全く住むに堪へない地下室と穴蔵とがある。

すでに十月××以前にレーニンおよび××、工業プロレタリアートの住宅諸條件を決定的に變化す

る必要を強調した理由はこゝにあるのだ。

×××と共にプロレタリアートは都會のあらゆる大家屋を貧民家屋委員會の所屬に移した。都市經濟はプロレタリア×××諸條件の下で労働者大衆の補助的搾取手段から、労働者の物質的、文化的生活的必要を充す組織に轉化した。幾百千のプロレタリアの家族は、地下室や家根裏からブルジョアの邸宅に移された。モスクワだけでも古い設備の整つた邸宅に移住させられた労働者、及び勤勞者の數は五十萬以上に達してゐる。しかし勿論それはあらゆる任務を解決したのではない。××時代の滅茶な破壊は、そして殊に何度も手から手へ移つた南部全體、ドンパス、バクールのやうなプロレタリア中心地では、住宅問題を著しく尖鋭化した。戦後最初の諸年には我々はたゞ破壊された、または破壊されつゝある建物を復興したに過ぎない。その上復興期最初の諸年には賃銀も低かつたので、家屋の維持に充分な程度の家賃を決定することができなかつた。空住宅の事實上の消耗は一九二八年に初めて止んだ。都市經濟は一九三一年に大體において初めて復興期に終りを告げたといへ、それはこの時期にすでに多くの重要な成功をかち得、労働者住宅の設備と労働者階級の基本的幹部の住宅諸條件とを著しく改善した。

最近五ヶ年間はたゞ新しい住宅を建築するために、ソヴェート同盟は三十五億ルーブルを支出した、そのうち一九三一年に割當てられてゐるのは十一億五千六百萬ルーブルである。二千九百萬平方メートルの建坪が建築され、しかもそのうち一九三一年だけに一千萬平方メートル、つまり全建坪の三分の一

上が割當てられてゐる。新しい家に住む労働者家族の數は百萬を凌駕してゐる。多くの都市は根本的に改造される（バクー、グロズヌイ、スターリングラード、ノーヴォシビルスク、ニヂニノヴゴロド、等々）。

労働者地方には水道、電網が敷かれ、公園が設けられ、街路の點燈が増加され、労働者クラブ、劇場、飲食店、浴場、等々が設立された。モスクワだけでも遊歩場及び企業内の遊歩場の數は、一九三一年の二十七から一九三一年の四百七十五に増加した。これらの諸成果は、ソヴェート同盟の都市人口殊に小兒死亡率の減少といふことに最もはつきりと現れた。だから例へばモスクワでは、一九一〇—一四年に千人のうち二十五人死亡したが、一九三〇年は十三人であつた、また一九一〇—一四年に千人の幼兒が一歳になるまでに二十七人死亡したが、一九三〇年には僅か十二人であつた。

しかしそれでもやはり都市經濟は社會主義建設の最も遅れた部分であつた。新建築は五ヶ年計畫と共に始つたが、工業中心地におけるプロレタリアートの増加と歩調を合せるまでにはまだ遙かに至つてゐなかつた。

全同盟×××中央委員會六月總會は指摘した、『××及び労働者階級が國の工業化及び共營化のための闘争に於て達成した成功は、都市經濟の決定的改善のために必要なあらゆる諸條件を作り出した——これは幾百萬の労働者大衆の生活を新たな社會主義的原理に従つて改造する重要な基礎である。』すでに六月總會以前に、我々は一九三一年に新都市建設に關する多くの決定を持つてゐる。新工場

計畫中には、その工場をめぐる労働者の建築計畫が重要な部分を占めてゐる。住宅の型の選擇、室の配置、家屋及び邸宅の造作は、眞剣な重要な文化生活的問題になつてゐる。建築は生活の社會化を促進しなければならぬ。新しい家屋には子供部屋、子供保護室、休憩室、讀書室が取り付けられなければならない。社會的料理場、社會的洗濯場、等々、が組織されねばならぬ。我々は「社會の組織性を促進するやうな」生活の形態を打ち建てなければならない。

「工業建設のテンポと計畫とに照應する」都市經濟發達テンポの促進は、現實的な基礎を、すでに作り出された、工業と全同盟××中央委員會六月總會の決定によつて建設さるべき協同的形態の特別工場の中に持つてゐる。

電車生産、水道用鐵管生産、中央暖房所の開設、暖房、等々は擴張される。

「五ヶ年計畫のため、社會主義的企業の發達のため、勤勞者の物質的・生活的條件の改善のため、文化的昂揚と彼等の健康保護のため、實質賃銀の確實な増加のための闘争における」都市經濟の最大の意義は、中央委員會六月總會を動かして、これらすべての仕事を指導するためにソヴェート共和國內の協同經濟を掌る獨立な人民委員部を作らした。

×の一般の方針の遂行に基づいて「現在の都會を文化的、技術的、經濟的に發展したプロレタリア中心地に變化し、數千の新らしい社會主義的都市を建設する」といふ任務が提起された。(全同盟××中央委員會六月總會)。

ソヴェート同盟における労働賃銀

すべて我々が述べた労働政策の領域における×及び政府の諸方策は、労働者階級の福祉のために非常に大きな影響を與へてゐる。ソヴェート同盟における労働者階級の福祉は資本主義諸國とは違つて、労働者の手に支拂はれる賃銀によつてのみ決定されない。我が國では、労働者はその賃銀を以つて生産物の幾何の量を得ることができるか、といふことばかりから出發して、實質賃銀を決定することはできない。

我が國における賃銀の意義は、資本主義の下における賃銀とは全く異なつてゐる。

資本主義の下における労働者の労働は、我々が見た通り、強制的である。『法律上、また事實上——とエンゲルスは「イギリスにおける労働者階級の狀態」と言ふ本の中で書いた——労働者は所有者階級たるブルジョアジーの奴隷である、彼は奴隷であるから、商品として他のあらゆる商品がさうであるやうに、騰貴したり下落したりする價格で賣られる。』

賃銀は資本主義の下では労働者の奴隷的地位を反映してゐる、丁度資本主義的「収入」——利潤——が資本家の「主人としての」、肥つた特權的地位を反映してゐること、全く同じである。

ソヴェート同盟では事態が全く違ふ。

ソヴェート同盟では賃銀は労働力の價格ではない、といふのは、我國では労働力は商品ではないか

らだ。労働者階級は生産の主人として、自分の政府を通じて社会主義建設のあらゆる任務および必要を考慮して賃銀総額、即ち自分の個人的消費基金の総額を決定する。だからソヴェート同盟における賃銀は資本主義的賃銀と違つて、その金額と變動の上に労働者階級の支配的地位とその社会主義建設事業における『主人たる』役割とが反映してゐる。我が國において意識的に計畫化される賃銀額は市場の景氣變動だとか労働力に對する『需要』だとかにこれつばかしも依存してゐない。

新しい生産諸關係は賃銀の様々の形態の意義をも根本的に變化した。例へば、請負賃銀は資本主義の下では搾取強化の方法であるが、我が國では社会主義的労働形態——突撃隊||コレクティヴ——を作る基礎となつてゐる。共營農場の請負労働への移行は労働組織を著しく改善し、その生産性を著しく高める點で素晴らしい役割を果たした。しかし請負賃銀への移行はまだ終つたのではない。或る所では我々は後退運動をさへ行つた。金屬工業及び電気工業では、一九二六年に請負賃銀は全労働者の六六・五%を捉へたが、一九二七年には六五・八%、一九二八年には六四・五%、しかるに一九三〇年には六一・三%であつた。

同志モロトフは指摘、我々は『生産における或る種類の優秀な労働者及び技術の意義と役割とを正當に評價する代りに、それを粗雑な平均化に轉ずる少なからざる場合』を持つてゐる。我々はなほ次のやうな場合を持つてゐる、例へばモストリコタジでは包装者は優秀な機械工よりも多く取得し、『クライスノエ・ソルモウヴェ』では技師が平均的熟練労働者よりも少しも取得しなかつた、等々。

一九三一年六月全同盟労働組合中央會議と最高經濟會議の決定に従つて初められた賃銀表の修正は、この不當を除去しなければならぬ。新しい賃銀制度は請負賃銀の最高度の採用、資格を得るための經濟的刺戟を作ること、及び『平等化』の小ブルジョア的傾向の決定的排撃、に關する××指令の實現を促進しなければならない。

果進的プレミアム付請負賃銀制度の採用は、この方面で大きい意義を持たねばならぬだらう。この制度の本質は、生産高が標準以上に増加するに従つて、『賃銀』計算が一定の比率で増加するといふ點である。

賃銀制度はポリシエヴィキ的テンポによつて確立されねばならない。

労働力の再生産は我が國では國家自らが行ふ。國家は社会主義社會の労働者を養成する、即ち政治的には發達した、技術上の智識ある、肉體的に健康な、立派な社会主義の×××、建設者を養成する。國家はこのためにどんな巨額の金を支出してゐるか、は我々がすでに見たところである。だからその手に與へられる賃銀の個人的部分によつてのみ、労働者階級の狀態の事實上の改善を判断することは正しくないだらう。労働力再生産のための支出、社會保險、住宅建築、等々の支出——これらはすべて労働者階級の福祉の水準を著しく高め、労働者の眞の『實質』賃銀を決定するのである。

我々は次のことを知つてゐる、即ち一九三一年には社會保險基金が五億ルーブル、労働者生活改善基金が一億六千萬ルーブル増加され、工業及び運輸における労働保護に一億五千五百八十萬ルーブル

ル、大衆的幹部の養成のために五億五千九百萬ルーブル（労働組合の資金を含まず）、住宅建築に十一億五千萬ルーブル増加されてゐる。これらすべてのことは、労働者階級の生活水準の向上にちかに向けられてゐるのだ。

すでに一九三一年には、労働者生活改善基金への利潤の控除および社会保険の意義だけから考へた労働者の實質賃銀は、戦前の水準に對して一六七％に當つてゐる。××政策は労働賃銀の社會化部分の益々大なる増加をもたらしめてゐる。労働者の基本的な消費的の必要は、ますます組織的に充たされつつある。

それと共に我が國では賃銀の個人的部分も着實に増加してゐる。

一九三一年の賃銀總基金は一千二百五十萬ルーブルから一千五百三十萬ルーブルに、つまり二二・四％増加してゐる、しかも労働者及び使用人の數は一千四百三十萬人から一千六百三十萬人に、つまり一四％しか増加してゐない。

一工業労働者（成人及び見習）の平均賃銀は六％増加し、最高經濟會議によつて計畫化された工業では六・七％、鐵道交通では八％である。五ヶ年計畫遂行にとつて四年目に決定的意義を持つてゐる部門では、一九三一年に賃銀が著しく高く高められてゐる。鑛山業では一六・八％、金屬工業では一・六％、鐵鑛業では一五％である。特に注意を拂はれてゐるのは、東部諸地方の重工業における賃銀の増加である。ヴォストクウーゴリでは賃銀が一九・七％、ヴォストクスタールでは一七・二％増加してゐる。

加してゐる。

労働者階級の福祉の向上の高いテンポは、たゞ労働生産性の増加に基づいてのみ起り得る。

××常に労働者階級の物質的文化的状態が着實に改善されるやうな方策を取つたし、また取つてゐる。復興期に労働生産性が高められたのは、生産の技術的改造の結果といふよりは寧ろ労働者が益々良く集約的に働いた結果であつた。賃銀は労働生産性の増加よりも急速に高められた。それは正しかつた、なぜなら、労働者階級の當時の低い生活水準をどうしても高めなければならなかつたからである。しかし改造期、殊にその新しい現段階には、あらゆる生産に新しい技術的基礎が作り出されてゐるが、これらの時期には労働生産性はこの基礎の上で賃銀よりも著しく急速に増加しなければならぬ。

たゞこの條件の下においてのみ、生産費の引下げと物價低下といふ任務を成功的に解決することができ、それはまたそれで實質賃銀と勤勞者の一般的生活水準とを上昇する唯一の途なのである。

階級×の賃銀政策論

賃銀引上げに對する××一般の方針は、ブルジョア經濟學者の妨害者側からの向ふ見ずな反對に出遇つた。彼等は實際上、また「理論」上、労働者階級の福祉改善の事業を妨害しようとする。

妨害者コンドラティエフは賃銀の増加が工業商品の價格を高めると主張して、「名目」賃銀の増加の

停止を強要した。『名目』賃銀などと言はれてゐるのは、たゞソヴェート國家では労働者の生活水準を引下げる必要といふやうなことを、ぢかに話すことができないからであるのは明白だ。だが事實上、彼は生活水準の低下を眼中に置いてゐたのである。

他のメンシエヴィキ的妨害者バザロフは、すでに我々が見た通り、次のやうに主張して賃銀の領域における政策を變更させようと努めた、即ち、資本主義の下におけるよりも著しく大きい賃銀の増大は、ソヴェート同盟では擴張再生産に這入る分前を減少してゐる。

妨害者ワインシュタインは『個人的支拂の部分の増加』には反対しないが、賃銀の社會化部分の増加に戦を宣し、労働力再生産のためのあらゆる支出を労働者の肩に轉嫁しようと努めた。

國際メンシエヴィズムの變り種——トロツキー主義も一再ならず賃銀の領域における××政策に反對を唱へた。第十五回黨大會の時期にトロツキー主義者達は××に對する闘争によつて遅れた労働者層の間に支持を見出さうと考へて、即時三〇—四〇%の賃銀引上げのデマゴグ的要求を掲げて街頭に現れた。工業は當時そんな賃銀引上げをやり得ないことをよく知つてゐたので、トロツキー主義者達は工業品の輸出価格を引き上げよ、農民に對する租税上の壓迫を強めよと要求した。彼等は賃銀政策においても、労働農民との協働といふ途から××引き離して、プロレタリア國家による農民の搾取といふ途に押しやらうと努めた。この反××的プログラムは、若しそれが實現された際には、労働者階級と労働農民との間の分裂、社會主義建設のテンポの停止、従つてまた賃銀の低下、といふ結果になつ

たであらう。

四、社會主義建設と文化のための闘争

幹部の問題、生産に婦人を引き入れること、農業の大社會主義的生産といふ軌道への移行、民族的諸共和國の經濟的文化的發達の任務、最後に國防といふ任務は、すでに第十五回大會において、社會主義建設の重要な任務として文化革命の問題を提出した。

文化革命の必然性、政治的、技術的、及び初歩的（一般的）智識の必要は、××古くから知つてゐた。レーニンは××の最高潮期に、ソヴェート權力の最も困難であつた時期に、幾度となく文化のための闘争の必要を指し、文化の獲得をブルジョアジーに對するプロレタリアートの一般的階級闘争の不可欠な部分と考へてゐた。社會主義建設に移つた後にも、なほレーニンはこの任務を非常に強調し、それと共に次のことを指した。即ち、我々にとつて文化革命は純粹に文化的性質の困難でもあり、また物質的性質の困難でもある、『なぜなら、文化的であるためには物質的生産手段の一定の發達が必要であり、一定の物質的基礎が必要であるから』と。(9)

(9) レーニン『協同組合について』第十八卷第二部、一三五頁。

だからまた、同志スターリンは第十六回大會でレーニンの言葉を引用して言つた——『我々は重工業を救ひ、復興する』ために、『あらゆる點で節約しなければならず、學校でさへも節約しなければ

ならぬ。』

第十五回大會に至つて絶えず遂行されてゐた文化革命のための××闘争は、工業化が成功したおかげで鞏固な物質的基礎を獲得した。

社會主義の時期に踏入つて、我々は文化戦線への澎湃たる進出に移つた。

我が國では文化建設のプログラムは、何よりも先づ大衆的文化的方策のプログラムとして現れ、先づ第一に普通初等義務教育の組織として現れてゐる。

『今日主要なことは——と同志スターリンは第十六回大會で言つた——義務的な初等教育に移ることである。私は「主要なこと」と言ふ、なぜなら、かういふ移り行きは文化革命のための決定的進出を意味するだらうからである……我々は今や、ソヴェート同盟の壓倒的多数の諸地方に普通初等教育を組織するに必要なすべてのものを持つてゐる。』

一九三一年は、この點で決定的、急轉的年度である。

次表はソヴェート同盟における智識發達のテンポを示してゐる。

指標(單位千)	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
一、普通教育の勤勞學校入學者	一一、八九七	一三、三七四	一九、三二二
總數………	一一、八九七	一三、三七四	一九、三二二
そのうち			
都市………	三、一八三	三、三七三	四、五三七

農村地方………

八、七一四 一〇、〇〇二 一四、七八五

二、文盲退治を行つた人數

六、六九〇 一九、六二〇 二五、〇六〇

そのうち 五、五〇四 一二、六五〇 一三、一九二

文盲者 僅かに読み書きができる者 一、一八六 六、九七〇 一一、八六八

一九一三年には読み書きのできる人口は僅か二三%にしか當つてをらず、多くの民族的諸地方では一%にまで低下してゐた。すでに一九三〇年にはソヴェート同盟の読み書きのできる人口は總人口数の六三%までに増加し、しかも我々は一九三一年には完全に読み書きのできる人口を持つ多くの大中心地を持つてゐる(レーニンград、モスクワ)。

民族的共和國の文化を高める點で我々はもつと大きい成功を博してゐる。少数民族の資本主義諸國では物質的にも文化的にも徹底的な貧困化が行はれてゐるといふのに、ソヴェート同盟は眞の社會主義的國際文化に向つて進んで行く。普通教育を實現し、地方的民族主義、殊に大民族の排外主義に對する闘争において民族文化を發達することによつて、ソヴェート權力はツァーリズムの最後の遺物——文盲、後進性、宗教上生活上の頑迷性——を絶滅しつゝある。

すでに一九二九—三〇年の普通教育カンパニアの初めに、ソヴェート聯邦の遅れた民族的諸地方に

おける人口の智識は著しく高められた。例へば、読み書きのできる人口の百分率はコミ民族では六三、モルダヴィアでは三人、イングシでは四〇、オセチでは七二、タタールでは五〇、マリイでは五三、カルイムでは一九に當つてゐた。しかし成功を勝ち得たにもかゝらず、後進的民族はその智識の點ではソヴェート同盟人民の平均智識よりもまだ遅れてゐる。民族的諸地方の人々の文化水準を高めること、殊に普通教育は、第十六回大會によつて『來るべき時期における×の緊要な政治的任務』として提起されてゐる。

文化革命の發達のテンポにとつて巨大な意義を持たねばならないのは、あらゆる可能な補充的種類の教育、即ち通信教授、工場における種々の問題の相談所、そしてまたソヴェート出版物の増加である。ソヴェートの出版物は素晴らしい増加を示してゐる。ソヴェート同盟のすべての日刊新聞の發行部数は一九三一年に二二・八%も増加し、二千七百萬部に達した。教科書の増加は一九三〇年には一九二九年に對して五二・一%、しかし一九三一には一九三〇年に對して六二・一%である。活動寫眞館は一九三一年には一萬七千八百館、つまり一九三〇年に對して一五五・六%に達し、ラジオ聴取者は一九三一年に五百十三萬人と註せられ、それは一九三〇年の二六一・五%に當つてゐる。

我が文化發達のテンポと水準とは、勿論文化促進の特殊な方策によつてのみ決定されるのではない。我が國文化の水準は何よりも先づ我が國の社會組織、人口の勤勞者層の政治的經濟的狀態によつて決定されるのである。

我が國家組織は、勤勞大衆が國のあらゆる政治的經濟的生活に積極的に參加することに對して、極めて大きい可能性を開いてゐる。

しかし『良いソヴェート法を利用する』(レーニン)ため、この可能性を現實に轉化するためには、先づ第一に智識が必要である。即ち一般的智識。及び技術的智識。社會主義建設は文化革命の基本的内容を決定する。社會主義的文化は勞働文化である。その中では勞働が中心的地位を占めてゐる。しかも社會主義的勞働そのもの(我が國ではそのための闘争が廣汎に展開された)は唯一の文化的勞働、即ち、自由なそして資本主義社會の痕跡から解放されつゝある勞働である。

我々は勞働規律のための闘争、勞働文化のための闘争を重要な任務としないで、文化革命を口にすることはできない。我々は社會主義的方法によつて經濟建設の任務を解決することによつて、同時に文化革命の諸任務をも解決するのである。

社會主義的勞働組織は廣汎な勤勞大衆の意識的な創造的參加を要求してをり、従つてまた、彼等が社會的生産の全過程を理解することを要求してゐる。それは工藝的教育の任務を第一位に置いてゐる。學校教育と工場における生産的勞働との結合、技術の獲得、勞働者突撃隊員の義務的技術教育は、文化革命の基本的任務、即ち頭腦勞働と筋肉勞働との間の對立の廢棄を實現するための決定的モメントである。

文化革命の諸任務は、あらゆる戦線への社會主義的進出の計畫の、引き離すことのできない構成部

分である。

プロレタリア××は盲目性を克服しつゝ、國民經濟の發展過程を意識的過程に轉化してゐる。すでにそのことだけでも、自分の労働に對する各労働者の社會的意識的態度を要求してゐる。階級意識、××および政府の政策の社會的の必要、例へば資本主義的分子に對する決定的攻撃の必要が大衆に理解されること、工業化および共營化のテンポを促進する不可避性は、社會主義建設のテンポを促進する巨大な源泉である。「思想を大衆によつてそれが把握される時、物質的力となる」——とマルクスは言つた、そして我々は毎日にそれを確信してゐる。

社會主義的文化の創造は、何回もレーニンがそれを強調したやうに、「あらゆる人類の發達によつて作り出された」文化の正確な知識を要求し、その批判的洞察と改造とを要求する。かういふ改造なしでは、科學的知識の一片も確立することはできない、果して然らば、プロレタリア文化とは「人類が舊資本主義社會の抑壓の下で作上げた知識の貯蔵の合則的發展」(レーニン)なのである。この改造の道具としてプロレタリアートに與へられたのは、マルクス主義——レーニン主義とその唯物辯證法の方法である。ソヴェート國家では、藝術や科學を自分の支配の維持發展といふ狹隘な利害のために利用する封建的および資本主義社會の支配階級が、それらに加へた桎梏から、科學は初めて解放されてゐる。すでに社會主義への過渡期において、科學は未曾有の高さに高められてゐる。なぜなら、社會主義建設の過程そのものが科學的だからである。

所有者的、民族主義的、宗教的偏見で貫かれた、幾百萬の勤勞者の抑壓と無智と奴隸的労働とに基づくブルジョア文化の代りに、我々は自由な労働の文化を建設してゐる。國際主義で貫かれ、觀念論的、宗教的遺物から純化された、私的所有の狭地平線を引き破つた文化だ。

文化戦線は社會主義建設の他のすべての部門と同じく、尖锐化された階級闘争の一部門であることは明白である。富農は農村で普通教育、文盲退治、等々に公然たる反對煽動をやつてをり、文化的事業の物質的基礎を掘り崩し、校舎、農民の家——讀書室、クラブに放火しようとしてゐる。都會では富農の代理人——メンシエヴィキ、妨害者——が活動してゐる。そしていづれも、××、坊主、牧師、鵠舌な馬鹿者等々によつて援助されてゐる。階級×は公然として有害な妨害者の仕事をやるばかりでなく、ソヴェートの科學的教育的施設にも浸入して來て、その掌中にイデオロギイ的影響を握らうと努めてゐる。我々はすでに計畫化、農業、等々の領域における經濟學者——妨害者の多くの理論を分析した。妨害者共は類似の「理論」を科學的知識のその他の領域でも作つた。燃料資源の利用といふ問題を審議する際に、害虫共は地方的燃料は熱量が少いから利益がない(儲けがない)といふ理論を作り出した。ソヴェート同盟の労働力の配置を妨害者共は個々の企業に有利な工業の配置といふブルジョアの原則に従はせようとした、しかるに社會主義建設は諸企業を組合せたり、國民經濟の利害に従ふ統一的な複合企業としての地方から出發する可能性を要求してゐるし、與へてもゐる。妨害者共は最も特殊な、統制の困難な知識の領域のなかを這ひ廻つて、これを社會主義建設を妨害するために利用し

ようとした。例へば、魚族學の學者ナザロフスキーは、漁業五ヶ年計畫が魚類の自然的繁殖の法則に矛盾することを證明し、その研究によると事實上漁獲計畫は實現不可能であるといふやうな『科學的』研究を行つた。妨害者運動の最も危険な形態は、理論經濟學の領域に起つた。メンシエヴィキは妨害者ルービン、フィン・エノタエフスキー等々は長年の間、無事にマルクスの×××理論をその解説だとか深化だとかいふ見せかけの下で歪曲してゐた。彼等は科學的マルクス主義的勢力の著しい注意を帝國主義とソヴェート經濟の現實的問題の研究から、現實と階級闘争とから、抽象的概念に關する文義的論争の領域に外らして、スコラ哲學に導き、實際から離れた理論に導いた。

哲學の領域でもまた長い間レーニンの哲學的教へは無視されてゐた。そしてマルクス主義哲學は形式主義、抽象とスコラ哲學、そして×××任務や現實からの完全な分離といふ途を辿つてゐた。

同志スターリンはすでに一九二九年に全同盟農學者マルクス主義者會議で理論的戰線における不首尾、ソヴェート權力の實際的成功と理論的思想の發達との間のギャップを示した。『理論的活動が——同志スターリンは言つた——單に實際的活動に追いつけなければならず、これを追ひ越し、社會主義の勝利のための闘争においてわが實際家を武装させることが必要である。』同志スターリンは同じところで指摘した、『マルクス主義的レーニン主義的理論に基づくブルジョア理論家との假借なき闘争なしには、階級×に對する勝利を獲得することができない。』

階級×の掌中にある強力な道具、即ち、科學、文化に對し、ソヴェート權力のあらゆる發動に對

し、あらゆる進歩一般に對して向けられるところの武器は宗教である。

多くの宗教的組織體（ヘドローヴ教徒、イミヤスラフ教徒、ウクライナの獨立教會）は反革命的妨害活動と密接に結び付いてゐた。これらの組織の首位には法衣を着たメンシエヴィキ、ツァー軍隊の最高幹部であつた、黒百人組的『ロシア國民同盟』員、富農等々が立つてゐた。例へば、イミヤスラフ教徒プログラムはかういふ誓約を要求してゐる、即ち、ソヴェート權力と戦ふこと、赤衛軍に勤務せざること、如何なる必要あるともソヴェート權力に仕へざること、協同組合に加入せざること、ソヴェートの學校で自分自ら學ばず、子供を教育しないこと、ソヴェートの藥局に救ひを乞はざること、農民の家へ讀書室に赴かざること、ソヴェート出版物を讀まざること、税金を納付せざること、だが神の到來を待ち、神を援けること。

すべての宗教の坊主は共營農場やトラクター採用や富農撲滅に頑強な闘争をやつてをり、個々の部分的失敗を言ひふらし、民族的差別を煽り立て、反ユダヤ主義を流布してゐる。企業における怠惰、共營農場における仕事の放棄、飲酒は宗教的祭りと密接に關係してゐる。

例へば一九二九—一九三〇年の十一月—一月の日曜日十一日間に『赤色プロフィンテルン』工場は、怠惰のために千五百日以上労働日、つまり二千二百四十三個の鋤を失つた。

モスクワ州ザゴル地方の四地方では三百五十の經營が『ニコラ祭』のために一萬三千七百ルーブルを失つた、この金額があれば九個のトラクターを持つ一つの機械工場にトラクター配給所を組織するこ

とができたであらう。
 勤勞人口の遅れた層を宗教的愚昧から解放することは、社會主義文化のための闘争の第一の任務である。

すでに一九〇九年にレーニンは「労働者黨の宗教に對する態度」といふ論文の中で書いた、「何故に宗教は都市プロレタリアートの遅れた層、半プロレタリアートの廣汎な層、そしてまた農民大衆の間で支持されてゐるか？ 國民の無知によつて——とブルジョア進歩主義急進派とブルジョア唯物論者とは答へる。マルクス主義者は言ふ、遠ふ、……現在の資本主義國ではその根柢は主として——社會的なものである。労働大衆の社會的抑壓、資本の盲目的力の前では彼等が完全に救はるべからざるものやうに見えること、この資本は普通の労働者には戦争だとか地震だとか言つた種類の多くのことかから發生するあらゆる諸事件よりも千倍も大きい最も恐るべき難苦、最も野蠻な苦痛の日々の、いや刻刻の原因となつてゐること、——ここにこそ宗教の最も深い現代的根柢があるのだ。」

ソヴェート同盟における完全な共營化と計畫性の強化は今日、宗教に決定的打撃を與へてゐる。計畫的原理は小生産者を、盲目力の支配から、偶然性の分子から、無救援の状態から益々解放しつゝある。計畫性の實現は廣汎な大衆に、生活が労働者自身によつて作られる計畫に従つて動いてゐることを教へてゐる。

計畫的原理の實現は、あらゆる社會諸關係における最も深刻な×××關聯してをり、個人や前衛は

かりでなく廣汎な労働者大衆、幾百萬の農民の間に、確固たる唯物論的世界觀を作り上げつゝある。

しかしソヴェート秩序は宗教的偏見を最も急速に廢棄するためのあらゆる前提條件を與へるには與へるが、こゝでも、社會主義のためのあらゆる闘争におけると同様に、自己流出などいふことを考へてはならない。宗教的愚昧に對する闘争は頑強な文化的啓蒙的活動を要求する。大衆の文化的水準の昂揚、一般的智識及び工藝的教育の増大に基づいてのみ、反宗教活動は輝やかしい成果を與へ得るのであつて、その主要な方法はプロパガンダとあらゆる宗教の×××本質を確信させ、暴露することにある。

文化戦線における階級闘争は、文化活動の諸問題における種々の日和見主義的黨派との假借なき闘争、文化建設のあらゆる部門における階級的な強靱な方針の徹底的遂行を要求する。だから、労働組合第六回大會における同志トムスキーの聲明に反映した全同盟労働組合中央會議の舊指導部の決定は日和見主義的であつたことは明かだ。「諸君はすべて労働者に傾向と方向とを與へる——と同志トムスキーは言つた——それは労働者を倦怠させ、彼に何か無方針を望ませる。」文化諸問題における「方向」の拒否は、大衆の政治的教育における階級的方針の拒否であることは明かである。

人口の文化的政治的水準を高める活動は、國防力を高めることにとつて巨大な意義を持つてゐる。社會主義的工業は×××に新技術を供給した。これらの技術を獲得しなければならぬ。ガス・マスタの取扱方を知らなければならぬ、化學的毒ガスの性質を知らなければならぬ。自動車やタン

クの操縦を知らなければならぬ。××××の間で政治的活動を遂行しなければならず、國際的階級聯帯は何時も、殊に××には忘れてはならない。かうして人口の政治的技術的智識の増加、その文化的成長は同時に××××××能力を強める條件なのである。

第六章 商業政策

一、國營商業および協同組合商業

ソヴェート經濟における商業の意義

『戦時××主義』の新經濟政策への移行は、國營工業と農業との間に直接の生産物交換制度を設置するといふ試みの一時的失敗の後、『プロレタリアートの經濟を農民の經濟に結び付ける』一つの形態——小商品生産の性質に適合し、同時に農民經濟に對するプロレタリアートの影響の傳達者であるやうな形態——を作ることとを要求した。

經濟關係のかういふ形態は商業である。他のどんな方法を以つても數百萬の小農民を大國營工業に經濟的に結び付けることはできなかつたらう。當時、大國營工業は帝國主義戰爭×××の結果、滅茶々に破壊されてゐたのである。

黨は商業を許し、従つてまた資本主義の經營を許し（これは『小生産と交換の自然成長的産物として或程度まで不可避的』(レーニン)である)つゝ、同時に『商業を捉へ、それに方向を與へ、それを一定の枠内に置く』(1)べき任務を提起した。商業はプロレタリア×××監督されて初めて社會主義

建設の楨杆となることが出来る。「十月革命の第四年目に當つて」といふ論文のなかで、レーニンは新經濟政策の諸條件の下で「プロレタリア國家は注意深い、熱心な、賢明な「經營主」、正しい經驗に富んだ商人となるべきこと」を指摘したが、それと共に商業の一面面、即ちプロレタリアートが商業を通じて小農民經營の發展傾向に影響を及ぼすことができるやうな、商業の一面面をも強調した。

(一) レーニン「金の意義について」、全集第二十七卷、八三頁。

「卸賣業は——とレーニンは書いた——幾百萬の小農民を利害關係に捲き込み、彼等を關係させ、一層の段階、即ち生産自體における種々な關係および結合の形態に彼等を導くことによつて、彼等を經濟的に結合する。」

レーニンと×とは何回も次のことを指摘した。即ち、××主義と商業との間には矛盾が存在するにも拘らず、×の正しい新經濟政策の下では、それと不可離の關係にある商業も「社會主義經濟の基礎を築く可能性を」完全に保證するのである。

商業の意義のかういふ評價を理解するためには、當初からソヴェート商業を資本主義的商業から區別するそのあらゆる特殊性を知らねばならない。資本主義の下では、「商業の厚顔な自由」(マルクス)が存在してをり、すべてのものが賣買され、「人間の人格的價値」もそれにもれない。資本主義的流通部面は生産部面によつて條件付けられてゐるが、それは資本主義生産のあらゆる特殊性によつて特徴づけられてゐる。即ち搾取、無政府状態、一方の極の貧窮、他方の極の富。それはあらゆる生産

手段、資本、土地、及び勞働力(資本主義の下ではこれも亦商品である)の流通を含んでゐる。

ソヴェートの流通部面の特徴的な特殊性は、元來それが著しく制限されてゐる點にある。わが國では勞働力は商品でない。土地は賣買の部面から引き揚げられた。あらゆる基本的な生産手段(大工業、運輸、發電所、等々)、それからまた大住宅建築も市場的流通のなかに入らない。工業生産の大部分は初めから計畫的に社會主義的工業の内部で分配された。ソヴェート權力は株券の流通を決して復活させなかつたし、さらにまた個人的銀行資本の自由な活動も復活させなかつた。それにも劣らずわが流通部面の重要な區別は、外國貿易の國家獨占によつて外國商品の國內市場への自由な流入の可能性が鎖されたことである。

あらゆる大工業企業、鐵道、自動車工業、車及び水上運輸、通信手段(電信、電話、ラヂオ)、土地所有および小賣商業大企業(商品倉庫、エレヴェーター、倉庫)の××とプロレタリア的國有化、外國貿易の獨占は、どんな資本主義國でも起り得ないやうな、商業およびあらゆる流通部面に對する影響の活動の基礎を作り出した。

勿論次のは忘れてはならない、即ちプロレタリア××は經濟的可能性と並んで多くの政治的行政的可能性を持つてをり、それは盲目的な市場關係を制限して、これを計畫的活動に從屬することを助けるのである。

これらすべてのことは究極において、ソヴェートの諸條件の下における商業の意義を變化してゐる

しかし単にソヴェート同盟における商業のこれらの特殊性ばかりを見て、その資本主義的、盲目的傾向に注意せず、またはこれを過小評價するならばそれは途方もない誤りであらう。

一九二一年十月、レーニンはモスクワ縣會議で言つた。

「商品交換からは何ら得るところがなかつた。私的市場は我々よりも勢力を振つてゐた。そして商品交換の代りに普通の賣買、即ち商業が現はれた。これに適合するやう努力せよ、さもなければ盲目的な賣買、貨幣流通が我々を溺らすだらう。」(2)そして更に、

「この新經濟政策へのあらゆる一步は多くの危険を意味してゐる……(3)。「資本主義の復活、ブルジョアジの發展、商業領域からのブルジョアの關係の發達等々——これはまた現在の我々の經濟建設に特有な、以前の任務よりも遙かに困難な任務の解決に現在我々が徐々に近づくと共に生ずる、危険である。この點については、些かの誤解もあつてならぬ。」(4)。

(2) レーニン全集、第二十七卷、六八頁(傍點は我々のもの)。

(3) 同書、七〇頁。

(4) レーニン全集、第二十七卷、七一頁(傍點は我々のもの)。

だから×も亦、支配的地位の力を借りて市場を促へ、その盲目的力を制限し、それを國民經濟に對する、そして先づ第一に小商品生産に對する、プロレタリア的影響の傳導機關と化することに、その全力を傾注したのである。

このソヴェート商業の二重性を右翼偏向者達は少しも理解することができなかつた。彼等はソヴェート經濟の矛盾を反映するソヴェート市場の特殊性を理解しなかつた。

彼等には新經濟政策が商業自由の一面的な發達として見えた。そしてブルジョアジー及び富農の「自由な」經濟活動に對する國家側のあらゆる制限、盲目的な市場關係に對する國家のあらゆる干渉も、彼等には新經濟政策の原則からの離脱として考へられた。右翼は商業の資本主義的傾向を過小評價しそして市場の「正常化」、つまり盲目的な市場關係に對する國家の干渉を要求した。これによつて彼等は、國內の資本主義的關係の解放に對する敵對階級勢力の努力を支持したのだ。

流通部面は生産部面に條件付けられるものではあるが、それはまたそれで、生産部面に反作用を及ぼす。例へば、小生産に基づいて發生した市場は小商品生産を解體して、それを資本主義的生産に變形した。

市場が生産様式に影響してこれを變化するといふことはプロレタリア××の下でも、全國民經濟の計畫化の下でも起る。だから市場に對する積極的影響、經濟的方策とあらゆる種類の行政的制限との正しい結合は、常に新經濟政策と商業とをプロレタリアートの掌中にある武器として特徴付けたのである。

「新經濟政策は——と同志スターリンは全同盟×××における右翼偏向についての演説のなかで言つてゐる——決して商業の完全な自由、市場における價格の自由な運動を意味するのではない。新經

濟政策は國家の統制的役割と市場におけるその役割が保證されてゐる場合に、一定の限界内における、一定の枠内における商業の自由である。この點にこそ新經濟政策の第二の側面があるのだ。しかも新經濟政策のこの一面はその他の半面に優るとも劣らぬ重要性を持つてゐる(5)。

(5) スターリン「レーニン主義の諸問題」五五九頁、第七版。

商業の諸問題における右翼の誤謬は次の點にある、即ち、彼等は新經濟政策の兩側面を見ないで、たゞその盲目的なる一面だけを見てゐるに過ぎない。しかも彼等はこの側面の危険性を過小評價してゐるのだ。

市場支配のために戦へる國營商業と協同組合

新經濟政策の初めに當つて、レーニンは「現在及び社會主義の完全な勝利の後における金の意義」といふ論文のなかで次のやうなスローガンを掲げた「商業——これこそ歴史的な諸事件の連鎖における、わが一九二二—一九二三年の社會主義建設の過渡的諸形態における「一環」である、我々プロレタリア×××、我々指導的×××は「全力を以つてこれを捉へなければならぬ。」若し我々が今日この一環をしつかりと「捉へる」ならば、我々は近い將來に全連鎖をがつしりと支配するだらう(6)。

(6) レーニン全集、第二十七卷、八二頁。

復興期においては商業は全く斷乎として捉へねばならなかつた「一環」であつた、その理由は、商業

が國民經濟において指導的役割を勤めてゐたからではない——さういふ役割は常に國營社會主義工業が果してゐたのである。實にその理由は、商業の線に添ふて、労働者階級の勤勞農民との結合といふ線に添つて、私的な投機的な商業資本のプロレタリアートに對する辛辣な階級闘争、勤勞農民獲得のための闘争、農民經營の發達の方向のための闘争、小農民經營の商品資本主義的傾向の中にその主要な生産上の基礎を求める資本主義に對する社會主義的闘争が、展開されたからである。

一九二六年に至つて復興過程は大體において終りを告げ、國家は硬貨を管理し、生産の領域における經濟上の支配的地位を著しく強化した。そしてこれと關聯して、商業に仲介部面の構造に著しい變化をひき起した。一九二三—二四年には個人商人が卸賣業に二一・八%、小賣業に五八・六%従事してゐたとすれば(7)、一九二五—二六年にはすでにこの割合が卸賣業で七・一%に、小賣業で四三・八%にまで低下した(8)。

(7) 一九二六—二七年の統制數字。

(8) 一九二八—二九年の統制數字。

國營及び協同組合の商業の地位が著しく鞏固となつた。個人資本は商業の領域における主要な地位を喪失し、そして「誰が誰を」の問題は工業における生産部門にも、また個人資本がまだ大きい役割を演じてゐた農業における小生産部門にも、直接生じて來たのである。

貧農に中農を社會主義的に改造する目的で彼等に對するプロレタリアートの影響を一層發達させる

任務、そして資本主義的分子を制限し驅逐する任務は、社會主義的工業の發達の強化を要求した。復興期の終りに是非とも捉へなければならなかつた『環』は、直接生産、とりもなほさず國の工業化の基礎である重工業であつた。

しかしこの『環』から『環』への移り行きは少しも商業の意義を減殺しなかつた。反對に復興期における商業の意義は國民經濟の昂揚と共に農業の商品性が増大し、一般的商品取引が著しく擴大されるにつれて、高まつたのである。

他の『環』への移り行きはたゞ、商業の領域で國家はなほ主要な地位を占めてゐること、市場は非常に大きな程度で國家に監督されてゐることを示すに過ぎなかつた。そして商業の意義は減少しなかつたのである。

商品流通の増加(單位百萬金ルーブル)

年	卸賣	小賣	合計
一九二二—二四年	四、七二四	五、〇二七	九、七五一
一九二四—二五年	六、七〇七	七、九〇六	一四、六一三
一九二五—二六年	一一、三二二	一二、二八四	二三、六〇六
一九二六—二七年	一五、二一三	一三、五六二	二八、七七五
一九二七—二八年	一八、五九八	一四、八四二	三三、四四〇
一九二八—二九年	—	—	四三、八六五

商品流通は著しく擴大された基礎の上で、巨大な受渡機關といふ自分の役割を果さねばならなかつた。

た。この機關は、社會主義工業が自己を維持し、單純商品生産者を改造することを授けるものであつた。上記の役割の遂行は個人商業の驅逐と共に増大した。

どんなテンポで個人商業が驅逐されたかは、次の表が示してゐる。

商業—仲介流通における個人商業の割合(%)

年	全部面で		そのうち	
	卸賣	小賣	卸賣	小賣
一九二二—二四年	四一	二一・八	—	五八・六
一九二四—二五年	二七	九・四	—	四二・七
一九二五—二六年	二四・五	七・三	—	四二・九
一九二六—二七年	一八・九	四・六	—	三七・四
一九二七—二八年	一一・三	一・九	—	二七・四
一九二八—二九年	六・六	一・〇	—	一八・六
一九二九—三〇年	三・三	〇・五	—	一〇・七
一九三一—	—	—	—	二・四

一九二六—二七年までは個人商業の比重の減少は著しくはないが、その取引は絶對的に増加した。かくして一九二二—二四年には個人商業の小賣取引は二十九億四千六百萬金ルーブルに、つまり全小賣取引高の五八・六%に當つてゐた。しかるに一九二五—二三年にはその比重は著しく低下したが、なほ五十一億五千五百萬ルーブルに當つてゐた。

一九二六—二七年から初めて個人商業の比重の低下は、價格で表したその取引高の着實な絶對的減少を伴つた。また前掲の表は價額で表した比重を示してゐることを強調しなければならない。現物形態で計算すると（即ち個人商人が實現する生産物の分量によると）個人商人の比重はもつと少ない。

國營商業の意義と組織

市場獲得鬭争で巨大な意義を持つてゐたのは國營商業である。國營商業は經濟上の支配的地位の一つであつて、それは同盟的規模で獨立の人民委員部として組織された。國內商業人民委員部は一九二三年に創設された物價統制委員會から發生した當時、國內市場の組織といふことを根本的任務としてゐた。當時すでに存在してゐた外國貿易人民委員部は、國內市場の組織において甚だ重要な役割を勤めた外國貿易の獨占を實際に遂行する目的を持つてゐた。この二つの人民委員部は、一九二五年に一つの國內商業及び外國貿易人民委員部に結合された(9)。外國貿易活動の任務が増大し、その範圍が廣くなつたために、また資本主義諸國との貿易方法と國內市場の組織や計畫化とは非常な相違があることに鑑みて、一九三〇年には國內商業及び外國貿易人民委員部といふ一つの委員部を外國貿易委員部と供給人民委員部に分ける必要が生じた（一九三〇年十一月二十二日のソヴェート同盟中央執行委員會の決定）。

(9) 外國貿易の領域におけるXの政策については後章を参照。

この分割の準備としてすでに商業人民委員部の改造が前以つて行はれてゐた。工業から個人商人を驅逐し、市場を支配するためには、すでに一九三〇年の初めに食料品工業のすべての部門を商業人民委員部に引渡すことが必要となつた。食料品工業生産の指導は供給人民委員部とその地方の諸機關、即ち地方供給支所の重大な任務の一つであつた。供給人民委員部の諸機關は食料品工業の生産物を諸地方に正しく分配する責任を持つてゐるばかりでなく、自ら工業を經營して、調達および供給事業の全状態（數量、品質、生産期間、等々）について責任を持つてゐる。

ソヴェート同盟の工業地方に食料品と個人的消費物を供給する組織として、供給人民委員部は協同組合網を利用してゐる。この外供給人民委員部は主として都市に自分の小賣網を持つてゐる（國營百貨店、食料品トラスト賣店、煙草トラスト賣店、國營牛乳賣店、等々）。國營小賣店と協同組合小賣店の相互關係は一九三一年に次のやうに決定された、即ち協同組合網は全取引高に對して七〇%、國營網は三〇%。

調達の組織においては供給人民委員部は、農業及び工業協同組合體系の業務を一般的に指導してゐる。

協同組合商業の意義

國營商業は社會化された商業の一形態であつて、もう一つの形態は協同組合である。新經濟政策の

最初の諸年にはまだ協同組合は比較的微弱であつたが、國營商業は卸賣業を行つてゐたばかりでなく小賣業の著しい部分をやつてゐた。

しかしすでに一九二四年の全同盟×××第十三回大會は、國營商業と協同組合商業との仕事上の區別を與へた。小賣は原則とし、協同組合の仕事とならなければならず、國營商業は協同組合が鞏固となるに従つて卸賣と卸小賣商業との範圍に益々集中されねばならなかつた。

かういふ機能の區分は、多くの理由から必要である。

協同組合は消費者の近くにて、消費者の嗜好と要求とを早くからよく知ることが出来る。消費者——協同組合員——は自分の協同組合組織の仕事に直接監督し、協同組合の事務員をして自分の要求を顧慮せしめ、帳場の事務員の小商人的習慣や消費者に對する不注意な態度と闘争することが出来る。プロレタリアートの一般的指導の下で働く協同組合は、プロレタリア××組織における一つの「傳達帶」である。協同組合は幾百萬の小生産者を社會主義建設の過程に引き上げ、彼等を個人資本に對する闘争のために組織してゐる。

わが制度の特殊性のおかげで協同組合は流通において全く例外的な意義を獲得してをり、生産自體においては一層高い形態の結合に移る準備をしてゐる。

商業部面における協同組合は國民の資金を集中しつゝ、國家豫算が工業化から資金を引き上げる必要を無くしてゐる。

これは勿論國家が協同組合を支持することを排除しない。復興期には國家資金が協同組合の基金中で大きい役割を演じてゐた。例へば農業消費組合では、一九二六年一月一日に組合自身の資金一ループルに對して國家資金が二ループル三十カベークも與へられてゐた。

×は協同組合を指導しつゝ個人商人及び富農と戦はなければならぬ、彼等は自分の私有的、資本主義的目的のために協同組合を利用しようとしてゐる。この危険は殊に新經濟政策の初めに大きかつた。當時協同組合化された人口の比率は、殊に農村においては低かつたし（一九二五年四月一日には農業協同組合に僅か四百五十萬、つまり農民經營の二〇%しか參加してゐるつた）、協同組合はまだ比較的微弱であつた。

協同組合における農業労働者、貧農部分を強めるために、一九二四年に農村協同組合化特別基金が作り出された。しかし一九二八年までは、農業協同組合の基本的部分（九〇%以上）が中農及び貧農經營であつたにも拘らず、すべての農業協同組合組織における富裕な經營及び富農經營の比重は、農村におけるこれらの經營の比重よりもやはり高かつた。それは次の表から分かる。

生産手段の額による類別	農業協同組合 における比重	經營總數に對す る諸群の比重
一、生産手段なきもの	〇・七	三・一
二、百ループル以下の生産手段	五・四	一〇・八
三、一〇一乃至二〇〇ループルの生産手段	九・四	一一・四
四、二〇一乃至四〇〇	二二・五	二六・五

五、四〇一乃至八〇〇、	三・五・四	三〇・九
六、八〇一乃至一、六〇〇、	二〇・〇	一三・四
七、一、六〇〇ルーブル以上	四・六	二・〇
合計	一〇〇	一〇〇

富農は協同組合内では選任される役目に就くことが禁じられてゐたにも拘らず、協同組合の指導にもぐり込み、そのなかで指導的役割を演じようとした。

その外、富農や中農の最も富裕な集團は個々の協同組合が地方的（當時の縣）組織と組織的關係が不十分なことを利用して、協同組合の名目の下に資本主義的聯合を作り出し、協同組合的形態を單に租税上またはその他の特權を得る目的のために利用しようとしたのである。

協同組合を通じて富農が社會主義に成長するといふブハーリンの理論は、客觀的にはソヴェートの諸條件の下で搾取經濟の要求に協同組合を適合せようとする富農の意向を理論的に公式化したものだ。

一九三〇年になつて勤勞大衆を消費組合に引き入れるといふ方針はすでに重要な成功を収めた。そして今や根本的任務は、都市及び農村の全勤勞成年人口の一般的協同組合化といふことである。五年計畫の三年目は、この任務の實現といふ點で決定的である。

年度末における消費組合と協同組合化された人口

一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
				統計數字

都市協同組合（單位千人）……六、二六七	八、九八四	一二、七〇五	一八、九〇〇	二二、四〇〇
全成年人口に對する比率……三二・六	四四・四	五九・一	八二・二	九二
農業協同組合（單位千人）……一一、一六一	一四、八〇四	二二、八三四	三九、二〇〇	五二、四〇〇
全成年人口に對する比率……一六・三	二二・二	三三・〇	五二・九	六九・二

協同組合に課された巨大な任務を果すためには、一九三一年中に五億ルーブルの拂込金を動員しなければならず、同時に加入者數を増加しなければならぬ。

その結果、全協同組合組織の拂込資本は一九三〇年の九億二百萬ルーブルから一九三一年の十四億二百萬ルーブルに増加する。

市場の支配と組織とにおける國營商業及び協同組合の成功は、盲目的な市場關係に對する執拗な闘争によつて得られたのである。この成功はソヴェート經濟における商業といふ一環の役割と意義との、理論的理解を、しつかりと實踐に移したおかげで得られたのである。

二、市場の規制

過渡的經濟の計畫は、盲目的要素に對する辛酸な闘争においてその支配を確立する。市場には盲目的諸關係が特につきり現れてゐる。

わが經濟で盲目的關係を荷つてゐる者は小商品經濟、先づ第一に農民經營、富農、及び都市の資本

主義的要素である。

盲目性を支配し、小商品生産者を協同組合に結合し、資本主義的要素と假借なく闘争したプロレタリアートは、それによつてわが経済における盲目的要素を弱め、資本主義的要素の發生の可能性とその「榮養」帶とを狭めた。だから市場の規制と市場における自由な「價格の戯れ」の制限とは、わが経済の資本主義的要素とその妨害者—經濟學者達の理論家に手酷い攻撃を加へたのである。彼等理論家は重要な妨害的任務の一つとして、市場的盲目性の放任といふことを掲げた、これは資本主義的要素の經濟的意義と力の増大といふ結果を來した。

農業人民委員部や中央消費組合聯盟にゐる妨害者共は市場の計畫化を破壊しようとした。

プロレタリア裁判所によつて裁かれた「飢餓組織者」の供述に照して見ると、市場計畫化の際の無數の「頑迷者流」の失敗、即ちその農村に需要もないのにそこへ商品を送つたこと、計畫化の停滯調達地方へ商品貯藏の轉送における澁滞等々が、全く新たな説明を得てくる。

プロレタリアートは市場支配のための闘争をあらゆる方面で、即ち農業商品の調達、工業商品市場の計畫化、および物價の規制の方面で行はねばならなかつた。

農業商品市場の規制

新經濟政策の全期間に亘つてプロレタリアートおよび貧中農大衆の利益になるやうな農業商品市場

の組織は、市場の盲目性に對する國家及び協同組合諸機關の執拗な闘争を要求した。農業市場を計畫的に組織するための闘争は、農業における社會主義部門が最近まで弱かつたことによつて複雑になつた。穀物商品の著しい部分は富農が提供してゐた。貧中農經營は、農産物の主要な生産者であつたが、まだ直接的計畫化の槓杆によつて捉へられてはゐなかつた。

このことは×の前に多くの任務を課した。調達機關にしる、供給機關にしる、協同組合的、商業的機關を改善し、ヨリ融通のきくものとすることが必要であつた。そしてまた調達地方に個人的並びに生産的意義をもつ工業商品を、適當な時期に充分に送ることが必要であつた。その特殊な作物（棉花、亞麻、等々）の發達を助長しなければならぬ地方にとつては、穀物の正常な供給といふことは大きい意義を持つてゐた。

大調達者として現れた國家は調達價格政策によつて市場を規制し、あれこれの作物の生産の一層の發達を規制した。市場の資本主義的盲目性との闘争で大きい意味を持つてゐたのは、一九二六年以來採用された個人的貨物と國家や協同組合の貨物とで異なる鐵道運賃、貨物取扱の順位規定、倉庫、製粉所等々の個人商人との賃借契約の廢止である。租稅政策、國家及び協同組合諸團體の資金融通は富農との闘争に向けられてをり、國家的及び協同組合的調達者のヨリ有利な條件となつた。農産物市場を規制するためのこれらの諸方策は、農村の富農的上層の苦い反抗につき當つた。富農はわが調達政策のあらゆる失敗を利用して、農産物の國家的調達を破壊しようとした。特にこのことが示されたのは

一九二八年で、この年に我々は穀物調達上著しい困難をなめねばならなかつた。

富農は自分が穀物を手放さないことは、ソヴェート権力及び社会主義建設の経済的・政治的強化を願ふことであるのをはつきり知つてゐた。富農の手にある過剰な穀物は貧農を経済的に農奴化する手段であり、中農に政治的影響を及ぼす手段であつた。富農は農村の協同組合に工業商品がある時でさへ穀物を手放さなかつた。

×は貧農の支持を受けて、富農及び悪意の怠慢者に對して非常手段を實行しながら、一九二八年の調達を行つた。

×は、穀物調達上の諸困難が偶然でないこと、それは農業が極端に遅れてをり、工業發展の急速なテンポに較べて農業の發展が極めて遅いことに原因することをはつきり理解した。一九二八年の中央委員會七月總會は大穀物工場（國營農場の）の發展について具體的方策を熟議し、大社會化農業の發展のため、富農に對して一層組織的な攻撃を加へるために、多くの諸方策を示した。それと共に、技術的作物と穀作物との價格の間の不均衡を取り去るための新たな調達カムパニアが開始されるに至つて、穀物價格がやゝ騰貴した。×は穀物價格を騰貴することによつて、貧農及び中農の穀物販賣に刺戟を與へようと考へた。富農は部分的不作と關聯してもつと多く騰貴することを見越して、穀物を賣出さなかつた。

一九二九年の全同盟××中央委員會四月總會で、同志スターリンは一九二八—二九年度の調達事

業に總決算を與へ、階級闘争が尖鋭化した状態の下で自己流出などを信ずるのは許すべからざるものであることを特に論述した。穀物調達が成功するために重要なものは、その組織である。だが穀物調達組織とは貧農中農大衆を富農に對して動員することを意味し、ソヴェート権力の諸方策が彼等に支持されることを意味する。

一九二八—二九年度に調達上で敗北を喫した富農は、翌一九二九—三〇年には既に直接生産の領域で争はうとし、作付面積を縮小し、農村の遅れた層、先づ第一に富裕な中農に働きかけようとした。×はこれに答へるに、大社會化農場に基づいて作付面積を擴張するために一層闘争することを以つてした。調達においては、一九二九年の秋にこの政策の結果が示され初めた。國營農場及び共營農場は二百萬噸以上の穀物、つまり商品的穀物の一二%を供給し、しかも最も重要なことなのだが、穀物が急速に出廻つて、供給上の過不足なしに前年度の貯蔵（穀物）の消費から新收穫に移ることができた。數億の穀物貯蔵基金が創設された。穀物、そしてまた技術的作物の調達組織において大きい意義を持つてゐたのは、豫約買付の發達である。（豫約買付の意義については『農業政策』の章を参照）。

一九三〇年の穀物調達は既にその計畫的組織の著しい強化といふ標語の下に行はれてゐる。一九三〇年の穀物調達の行程と成功的な遂行とは、農村の社會主義的改造（國營農場、共營農場）といふ政策の成果を最も明瞭に示すものである。穀物調達の著しい増大計畫は既に十二月一日までに八四・八%も遂行され、しかも共營農場においては九二・四%も遂行された。共營農場及び國營農場は三月一

日に四億八千七百萬ブードを提供した（しかるに一九二六—二七年は僅かに三千八百萬ブードに過ぎなかつた）。三月一日に全部で十三億ブード調達された。

右翼側はこの年にも富農の意義を過小評價した。穀物が共營農場にあるならばそれを急いで調達する必要はない、といふ日和見主義的見解と、自己流出に對する萬一の期待とが、市場を支配したにも拘らず穀物調達、殊に技術的作物の調達計畫が、多くの地方で遂行されなかつた原因であつた。

既に前の調達カムパニアに適用された組織的方法是、村落にまで及ぶ計畫であつた。共營農場に對しては、生産總額から出發して穀物提供の一定標準が確定された。その作付の豫約買付をやらない個人經營に對しては、農業社會性に對する自己義務の實際が適用された。工業商品の供給に差別が付けられた。穀物及びその他の生産物の優良な提供者には、特別プレミアム基金が創設された。富農及び一部の富裕な中農にとつては、農業委員會の強制の下に遂行さるべき明確な豫定が定められた。

穀物調達は作付面積擴大のための闘争や共營化と關聯してをり、眞剣な社會的政治的カムパニアの一つとなつた。組織の方面は甚だ明瞭になつた。穀物調達は一つの獨占的調達者——穀物農業協同組合の手に移つた。この協同組合は全同盟穀物聯合（全同盟穀物本部）に穀物を提供した。

その他の作物については、當該部門の農業協同組合が調達を行つた。即ち棉花、牧畜、甜菜、園藝、蔬菜園、亞麻皮部門がそれで、これらはそれぞれその全同盟的中心を持つてゐる。

一九三一年に穀物調達及び農業原料調達の性質の變化の上に決定的意義を持つてゐるのは、農業に

おける社會主義部門の絶對的優越と豫約買付の著しい増加である(10)。工業商品生産の増加、階級的供給制度、そして最後に、農業税に關する新規定(2)は、カンパニアの成功的行程にとつてあらゆる前提條件を作り出してゐる。

(10) 『農業政策』の章参照。

(11) 『財政政策』の章参照。

調達カムパニアは收穫物の貯蔵および一層の決定的共營化と直接結びつかねばならない。

自己流出に頼つてはならない。一九三一年六月十八日の全同盟穀物會議は、x及びソヴェート諸機關の決定的動員が必要であることを指摘してゐる。穀物調達を行ふ場合に工業原料と生活資料原料とを問はずあらゆる農業原料品が計畫に従つて適當な時期に出廻るやうにしなければならぬ。右翼日和見主義に對する闘争、富農や穀物の惡意ある不提供に對する寛容との闘争は、穀物調達カムパニアの成功の不可缺の構成部分であり、條件である。

機械、トラクター配給所の農民の土地耕作、彼等に精選された種子を供給すること、國營農場耕地の甚しい増大、共營化の成功、及び作物の大量豫約買付の素晴らしい増加、しかも増大する工業商品準備および階級的供給制度——は農業調達カムパニアの成功的遂行のためにあらゆる前提條件を與へてゐる。ソヴェート同盟供給人民委員部の統計によると、一九三一年の穀物調達七月計畫はソヴェート同盟で一一四・四%遂行された。これは年計畫の三・%四に當つてゐる。

工業商品市場の規制

農業商品市場の規制は工業商品市場の規制と最も密接に關聯してゐる。工業から私的資本が完全に驅逐され、家内手工業生産の歴史的部分が工業協同組合組織に結合されたので、工業商品の規制は農産品市場の組織の強力な道具である。

この任務の外に、工業商品市場の規制は先づ第一に決定的經濟地方、大工業中心地、新建設、及びその他の社會主義建設の突撃部門に工業商品を保證するために、都市と農村との間、都市間、地方間の正しい工業商品の分配といふ任務を解決する。

これは計畫的な地方別商品移出を實現することによつて達成される。

一九二五年以來工業商品量の分配は、最高國民經濟會議及び商業人民委員部の工業聯合が消費組合（消費組合中央同盟）と取結ぶ一般的契約の形態で行はれてゐる。

一般的契約は現在工業商品市場の規制の基本的形態である。それは契約中に獨立的團體として含まれてゐる大協同組合單位の構成を決定する。それは分配される生産物の總量と品質と仕分け、引渡期日、運送條件、價格、支拂方法、つまり工業商品の計畫的分配のあらゆる重要なモメントを確定するのである。一般的契約は工業商品的資源を最も有効に利用することを可能にし、偶然的な地方的な運輸を清算することを可能にしてゐる。工業消費組合の豫想注文制度は一般的契約に確實で健全な基礎

を作りつゝある。

工業商品の分配は社會主義建設の利害に從屬してをり、その根本には階級的供給の原則がある。階級原則は生産手段の供給においては、消費資料の供給におけるよりも著しく早くから適用せられてゐた。生産に向けられる商品とその分配とは、最高國民經濟會議によつて規制されたが、現在は最高國民經濟會議と農業人民委員部の當該部門の聯合を通じて、工業は最高國民經濟會議により、農業は農業人民委員部によつて規制されてゐる。

農業用の生産手段については改造期以前はいくらか違つてゐた。

農業生産の個人的遂行を満足させる原始的生産手段の分配を嚴格な集中的計畫化に從屬させることは、農民經營が二千五百萬も存在する場合、不可能であつた。だから原始的な農業用具は、復興期には大體において自由に販賣された。貧農及び中農の利害の保證は、彼等に信用や種々の特權を與へ、分割拂ひを許すことによつて達成された。

改造期から初めて、工業が生産する農業用機械の分量は年々増加した。最初トラクター及び大機械的生産手段を富農に賣ることは非常に制限されてゐたが、後には全く禁止された。

現在では農業用生産手段の分配は共營化、農業の工業化、及び農業地方の専門化といふ一般的計畫の利害に從屬させられてゐる。

一般的契約に基づく個人的消費の商品の分配における階級的生産的の原則は、カード制度によつて補

足されてゐる。一般的契約は商品量とたゞ協同組合にのみ傳達する。商品缺乏といふ事情の下では階級的生産の原則によつて作られたカード制度は、先づ第一に労働者及びその他の労働者に廣汎な消費資料を供給し得るやうになつてゐる。

階級闘争の尖鋭化してゐる状態の下では、カード制度は労働者に××××しようとする資本主義的要素に對する攻撃の強力な武器である。カード制度は一層發達して封鎖的配給所制度、豫想注文制度となつてゐる。(封鎖的配給所については後の第三節を参照)。

物價政策

農業及び工業商品市場の組織の考察から、我が經濟における物價と物價政策との意義は既に一部分明らかになつた。

物價政策をめぐつて、恰も社會主義建設の一つの結節點をめぐつて行はれると同じやうに、資本主義的要素に對するプロレタリアートの階級闘争が集中されてゐる。

社會化部面及び個人的部面における物價の構成を別々に考察しよう。

社會化部面、そして先づ第一に國營工業における商品の小賣價格は、原價と蓄積の必要額との計算に基づいて構成されてゐる。この蓄積額はプロレタリアートがあれこれの人民層——該商品の消費者——に對して取るその政策から出發して、個々の商品について意識的に決定される。價格の構成には

また民族的地方に對する態度も表現されてゐる。例へば、我々は遠い民族的諸地方で生産地におけると同様な(正札)價格で賣つたり、或は該民族的地方で價格引下げを確定したりする場合、民族的諸地方の經濟的水準を高めようとするプロレタリア××の一般的任務から出發してゐる。

社會化部面内部の卸賣價格は異つた性質を持つてゐる。社會化部面の卸賣價格の一般的水準は、一方では、原價によつて、他方では、社會主義部面自體の内部における蓄積の分配といふ政策によつて決定される。

従つて國民經濟の色々な部面の市場關係が存在するので、價格は國民收入再分配の重要な手段の一つである。しかも國民收入の再分配は、階級闘争と社會主義建設との基本的諸問題の一つである。一九二七年の×中央委員會二月總會の決議は言つてゐる。

「物價問題とソヴェート國家のあらゆる基本的な經濟的、従つて、また政治的諸問題とが絡み付いてゐる。農民と労働者階級との正しい相互關係の確立の諸問題、農業と工業との相互聯關的、相互制的發達の保證の諸問題、國民收入分配の諸問題、及びこれと關聯してソヴェート同盟の工業化並びに労働者階級の經濟的政治的強化の諸問題、實質賃銀の保證の諸問題、チエルポーネツツ(ソヴェートの金貨)の強化の諸問題、最後に、我が經濟の社會主義的分子の計畫的強化と國民經濟の個人的資本主義的分子の一層の制限——これらすべてのことが價格問題に依存してゐる。」

國民收入の再分配は兇暴な階級闘争のうちに行はれた。個人商人が部分的にでも計畫的價格を妨害

することに成功したところでは、彼は自分を強化するためにこの同じ手段、即ち価格を利用してゐる。だからこそ、物價政策上一定の首尾一貫した方針を確立することは、黨の一般方針の最重要な問題なのである。さういふ方針は物價引下げ、そして何よりも先づ工業商品の價格引下げである。

レーニン主義から離脱した右翼は、トロツキー主義者と同様に、自分の物價引上げ政策を黨に對立させた。

トロツキー主義者達が工業商品の上に確定しようとして提議した價格は、勤勞農民との同盟を破壊する價格であつた。この方針はトロツキー主義者達の一般の方針に合致してゐた——その一般の方針とは、農民から××××が取つたものよりも多く取るといふことである。それと共に、それは個人商人に屈服する方針であつた、なぜなら、トロツキー主義者達はまた個人的市場の高い價格といふことで卸賣價格の引上げ、従つてまた不可避的に小賣價格の引上げ自分達の（他の多くの『論證』のなかで）といふ要求を基礎付けたからである。トロツキー主義者達はプロレタリアートの市場を組織化したり、協同組合の事業を改良したり、それをプロレタリアートの明瞭な階級の方針の實際的傳達者としてたりする能力を否定した。

またこれらの諸問題における右翼の誤謬も、すつかり、過渡期における階級的相互關係を把握しないといふことから生じたのである。

右翼は社會主義建設の發展とこれに關聯した資本主義的分子に對する攻撃とが、不可避的に階級闘

争の尖鋭化を招來するといふことを理解しなかつた。穀物調達に諸困難こそこの尖鋭化を示すものであつて、これは階級的相互關係の新たな段階の一表現であつた。富農の反抗（これは調達方法の變更と非常手段の適用とに不可避的に結びついてゐた）を撃破する代りに、右翼は一九二八年の春穀物價格の引上げを提議した。貧農や中農が既に穀物を手放した春に價格を高めることは、富農や中農の富裕な群を強めることを意味したであらう。次いで右翼は外國からの穀物輸入を提議したが、この穀物輸入は工業化のテンポを萎縮させ、共營化を阻止し、プロレタリアートの地位を弱めたであらう。

物價引下げ政策は工業における社會主義的蓄積の否定とか、農民の蓄積を工業化の必要に利用することの否定とかを意味するものではない。むしろそれは、プロレタリアートと農民との相互關係のレーニンの理解から出發して、この利用の限界を確定するものである。

社會主義的部面そのものにおいては計畫的な堅實な物價引下げ政策は、生産の社會主義的合理化に關する勢力的諸方を要求してをり、工業内部の計畫化の改善と厳格な節約制度のための闘争を喚び起してゐる。その外、物價引下げ政策は實質賃銀と共に勤勞者の福祉の一般的水準を高めてゐる。

一九二八年には黨は既に、その物價引下げ政策で決定的な成功を収めた。

一九二三—二四年から一九二八—二九年までの物價變動

一九二三	一九二四	一九二五	一九二六	一九二八
一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二九
工業商品の小賣指數……………二五四	二二八	二二八	二二三	二〇五

しかし弊を高くして強調しなければならぬことは、物價の引下げは通常原價低下の基礎の上でのみ起り得るといふことである。この基礎の上でのみ物價引下げは社會主義的蓄積を減少せず、國の社會主義的工業化のテンポの低下を招かないのである。一九二五—二六年から一九二九—三〇年に至る最近五ヶ年間に、工業の原價低下は最高國民經濟會議によると一六・五%と見られてをり、そのうち一七%は重工業で、一五・五%は輕工業であつた。

原價の低下と並んで物價引下げの重要な源泉は、卸賣物價と小賣物價との間の開きを減少することである。この卸賣物價と小賣物價との開きは色々な要素から生ずる、即ち、積込み積下し作業を含む運送費、租税公課、本來の商業上の組織費及び技術的費用、最後に、商業組織の利潤。

特に卸賣と小賣の『缺狀價格差』は、『商品饑饉』が現はれ始めた一九二五年以來大きくなり出した。薄弱な規律と協同組合の一般的任務の認識不足とは、協同組合が市場の景氣を利用し、利潤を高めるといふ結果を生じた(12)。卸賣物價と小賣物價との開きは、商業機關が大きい利潤を得てゐた結果であつたばかりでなく、商品販賣網自身が高い費用を要した結果でもあつた。

(12) 協同組合の利潤を規制する目的で全同盟×××中央委員會二月總會は、商業人民委員部に次のやうに提議した、即ち『利潤率の限界を確立すること……この限界利潤を協同組合及び國營商業の中間的及び最上の環にとつては最低限度にまで低下すること。』

一九二七年二月に全同盟×××中央委員總會の決議は、『物價の高い水準を維持したり、または物價

引上げの政策を取つてたりしてではなく、商業費や倉敷料の削減を行ひ、機關の合理的組織や仕事の經濟的遂行によつて社會主義的蓄積』を行ふべき必要を強調してゐる。

この方法によつて商業機關は一定の成功を収めてゐる。即ち、一九二五—二六年に商品價格の三四・一%を占めてゐた流通費は一九二八—二九年には二五・八%に低下し、そして一九三〇年には二二・二五%に低下した。國家計畫委員會は、來年中には流通費を一層決定的に低減することができると豫想してゐる。國民經濟のあらゆる部門における計畫性の増大、商品販賣網の著しい費用低減となつて現はれるに違ひない。

新段階における物價

社會主義進入期に至ると共に、×は市場の盲目性ととの闘争において物價變動を支配し、それを國民經濟計畫化の重要な槓杆とした。小賣の商業⇨仲介販賣における非社會化部面の比重は、一九三〇年に僅か五・五%で、消費組合の小賣商業販賣は百二十億ルーブルに達し、全販賣の七五%に當つてゐた。一九三一年には小賣販賣は百六十億ルーブルに達し、全小賣販賣に對する個人商人の割合は僅か二・五%を占めるに過ぎない。

一九三〇年以來二重價格が施行された。二重價格が可能だといふこと自體が、物價は計畫の力強い手段として役立つこと、それは計畫的に確立される物價であることを物語つてゐる。

商業価格は比較的多くの収入を得てゐる人々から、工業化の追加資金を得ることを保証しなければならない。

二重物價の施行は物價引下げに對する黨の一般方針と決して矛盾するものではない。それと全く同様に、物價引下げに對する一般方針は、あれこれの商品の價格を一時的計畫的に高める可能性を排除するものではない。物價政策は國民經濟の一般的状态から、國民經濟的計畫の遂行から離脱することができない。物價の計畫的引下げは原價の計畫的引下げ、生産遂行計畫の量的及び質的任務の實行、唯一の貨幣手段の動員に關する統一的な財政計畫の要求の充足、等々と最も密接に關聯してゐる。計畫のこれらの要求を充さない時は、物價を一時高め、それを社會主義的蓄積の補助的槓杆として利用する必要に迫られるかも知れないのである。

一九三一年の夏、工業が生産量及び原價低下に關する四半期計畫を實行せず、貨幣手段の動員の點で著しく遅れてゐたことと關聯して、我々は多くの消費資料に對してさういふ計畫的な物價引上げをやつた。この價格引上げは我が國で巨大な發達を遂げてゐる社會化された消費部分（食堂、食料組合、等々、この點の詳細は次節で。）には觸れなかつた。他方において、この物價引上げは幹部養成、休養の家、療養所に對する資金支出の増加、生産への婦人の吸入、つまり労働者家族の總収入を増加する多くの諸方策を伴つたのである。

我々は既に『労働政策』の章で、かういふことを見た、即ち、現在労働者階級の物質的生活水準の

上昇は、消費の社會化部分を増大しようとする諸方策によつて絶えず益々達成されつゝある。だから労働者の物質的生活水準を決定するのに、たゞ個人の賃銀によつて得られる商品量を以つてすることはできない。價格は労働者階級の物質的水準の計畫化といふ一般的體系の一要素に過ぎない。

多くの商品に對する一時的價格引上げは、勿論物價引下げといふ黨の一般方針を變更するものではない。原價及び商業費用の低下に基づく物價引下げは、やはり黨の最重要な任務である。

三、ソヴェート商業の現時の任務

ソヴェート同盟の社會主義期への進入は商業を廢止しない。國民經濟における社會主義部面の絶對的支配にも拘らず、我が國にはまだ幾百萬の個人的農民經營が残存し、まだ資本主義的分子も残存してゐる。その外に共營農場員の間にはまだ經濟の個人的部分が残存してゐて、彼はその生産物を販賣によつて實現してゐる。かやうに新經濟政策の最後の段階でもソヴェート商業が必要なのは、何よりも先づ私的及び私的資本主義的分子が存在するからである。

社會化部面と非社會部面との間に商品交換が存在する結果、社會主義部面自身の内でも諸關係が商品形態を取るやうになつてゐる、その社會化部門のためには、ソヴェート商業とそれと關聯した經營採算およびルーブルの統制が、労働の全體制を計算し、統制し、改善する方法である。だから商業の意味を過小評價したり、新經濟政策はまだ消滅せず、我々は新經濟政策の最後の段階にあり、個

人商人を駆逐して我々自身は今や商業を發展しなければならぬのだ、といふことを理解しないのは、明らかに日和見主義である。ソヴェート商業といふ一環を飛躍して直接的分配方法に赴くことは、社會主義的生産物交換に導かないばかりか、反對に、さういふ移行をさまたげるものである。我が協同組合の機關中にはソヴェート制度と社會主義的分配に甚だ有害な官僚主義がまだ有力であつて、その排撃はたゞ眞剣なソヴェート商業の發展過程においてのみ行はれ得るのである。

ソヴェート商業は經營採算の原則の上に築かれてゐる。經營採算は商業においても工業におけると同様に、商業といふ環の活動上の大きな獨立性の下で一定の計画的任務が實現されることと關聯してゐる。

協同組合と國營商業で突撃隊が僅かしか發展してゐない原因、官僚主義の原因、そして消費者の要求に不充分にしか應じられない原因等々は、妨害者共の有害な活動と右翼日和見主義的寛容との外に、經營採算の原則を忘却したといふ協同組合の大きい誤謬であつた。ソヴェート商業の環は個人商人の撲滅が「あらゆる商業の撲滅を意味する。」といふ誤つた考に捉へられてゐた。協同組合の「左翼的」誤謬は、驚くべきことには右翼日和見主義の全く意想的な出現と結び付いてゐた。だから文化的ソヴェート商業の發展の任務に對する左翼の態度との闘争は、同時に商品販賣網組織に對する右翼日和見主義との闘争なのである。ソヴェート商業の段階を「飛躍」して直接的分配と生産物交換とに行くことが「左翼」日和見主義の表現であるとすれば、黨の内部で主要な危険を成してゐる右翼日和見

主義にとつて特徴的なことは、現代ソヴェート商業の本質と性質とを完全に理解しない點にある。

新經濟政策の最後の段階は、ソヴェート商業に新しい責任ある任務を課してゐる。

何よりも先づソヴェート商業は生産に注意を轉じなければならぬ。その意味は、ソヴェート商業は突撃隊や國民經濟の指導的部門に適切に供給することによつて、社會主義建設の決定的部分を保證し、工業財政計畫の遂行を保證しなければならぬといふことである。社會主義的生産に留意するといふことは、同時に突撃隊に突撃的供給を保證し、それによつて労働組織の社會主義的形態の發展を促進することを意味する。差等的供給は労働の生産力を高め、大衆が積極的に社會主義建設一般に参加することを促がすための、重要な補助的槓杆とならねばならない。

ソヴェート商業は、集團的消費者に多くの特權を與へ、自分の活動を農業の社會主義部面に仕へるといふ角度から再組織して、農業共營化の一層の發展を積極的に促進しなければならぬ。かくて我々は、社會主義建設の基本的必要に注意を向けた計画的なソヴェート商業が、右翼日和見主義者達の頼らうとしたかの「純粹な」、「正常な」、「自由な」商業と、何ら共通な點をもつてゐないことを知つてゐる。ソヴェート商業は右翼日和見主義的實踐に對して、即ち自己流出に望みをかけ、調達や供給において階級的原则を忘れることに對し、素町人的「ネツプマン的精神」に對して、間斷なく執拗に闘争することによつてのみ、彼等に課された現在の任務を遂行することができるのである。

ソヴェート商業は都市と農村との間に個人資本の介在を許さず、兩者の間に一層完全な社會主義的

結合形態が發展することを保證しなければならない。社會主義的生産物交換が現在既に都市と農村、殊に農村の共營農場的部分との諸關係のうち存在してゐることは、斷然強調する必要がある。我々はソヴェート商業制度を發展し改善することによつて、また社會主義的生産物交換へも移るのである。

實質貨銀のために戦へる消費組合の任務と供給の組織

一九三〇年夏、労働者大衆、殊にモスクワのクラスナヤ・プレスニ場によつて、封鎖的労働者配給所及び協同組合を作るといふ考が提唱された。

多くの企業における失敗や國民經濟の多くの部門（植林、漁業）の工業財政計畫遂行に伴ふ著しい諸困難、そしてまた労働力の流動性の増大は、消費組合の活動が全く不十分であるといふことがその原因の一つであつた。一九三〇年九月三日の全同盟×××中央委員會の檄は次のことを確認した、即ち、協同組合は「労働成員を生産に固着させるといふ任務に順應してその活動の必要な改造を行ひ、労働者の供給を事實上改善するためにその生産上の可能性を動員し、すべての協同組合諸機關の活動に對する労働者および婦人労働者側の大衆的統制を發展せしめ得なければならぬ」と。

この同じ檄において、生産的労働者の利益を最もよく保證する封鎖的配給所及び工場食堂網を發達させる必要が指摘されてゐる。

一九三一年の消費組合統制數字は、封鎖的配給所網を都市では一九三一年一月一日の五千八十から

に對して九千五百までに増加することを確定してゐる。

封鎖的配給所は生産的労働者、そして特に國民經濟の指導的部門の労働者の階級的供給の正しい形態である。封鎖的配給所は突撃隊員に突撃的供給を保證し、協同組合から「ネツプマン的精神」の分子と官僚主義と無責任とを根絶することに貢献し、該労働者團體の消費的必要の計算を組織し、商業における責任逃れを阻止する。配給所組織はその活動に對し労働者が日々統制する可能性を與へ、協同組合網の活動における労働者組織の活動強化に關する第十六回××大會の決定を實生活に移すことを助ける。

このことは、第十六回××大會がこの領域における労働組合の活動を不充分と認めたので益々重要である。

「大會は労働組合が從來労働者供給の諸問題、物價引下げのための闘争や協同組合の活動の改善に全く不十分な注意しか拂はなかつたと考へる。」(13)。

(13) 全同盟×××第十六回大會。速記録、七三九頁。

封鎖的配給所の組織は、協同組合の活動に對する労働者の統制の改善に労働組合諸機關が積極的に參加することを大いに容易にする。封鎖的配給所の活動を改善することは、一九三〇年全同盟×××中央委員會十一月總會協同組合の重要な任務の一として掲げてゐる。

封鎖的配給所と工場食堂とは企業自體の構成部分となつてゐる。實質貨銀の引上げは著しい程度に

封鎖的配給所の活動に依存してゐる。その活動の合理化、豫想注文、家庭への生産物の供給、商品の豫定數量の決定、規格化の採用、企業の『配給的商業的職場』の組織の技術の獲得、この方面における損失との闘争（時間の損失、商品の毀損、廢物、乾燥し過ぎた物、漏減の比率の減少、等々）、經營採算振替勘定の採用、仕事上の嚴格な商業財政計畫——これらのことは、こゝでも生産におけると同様にしつかりと行はなければならない。この仕事は直接、あらゆる工場組織及び工場管理の分野に含まれてゐる。

これと關聯して大きい意義を持つてゐるのは、各個々の經濟單位（食堂、賣場、事務所、等々）において、各工場労働委員會の下にXグループを有する職場X細胞を作ることである。このX細胞は企業X×××の成員となるべきである。

選舉制、協同組合評議會や監視委員會の創設はまた、協同組合網を決定的に健全にし、ソヴェート商業をヨリ高い段階に高めるに違ひない。

消費組合に課された諸任務のうち新段階において巨大な意義を持つてゐるのは、生活社會化の組織であり、先づ第一に社會的給養組織である。

「婦人はあらゆる解放的法律があるにも拘らず依然として家庭的奴隷である。なぜなら、彼女は料理に、小供に縛り付けられ、極めて不生産的な、些細な、神經を疲勞させる、愚鈍な、身體を壞す仕事にその労働を浪費して、抑壓され、苦しめられ、愚鈍にされ、小さい家庭經濟を營んでゐるから

である。婦人の眞の解放、眞のX×主義は、この小さい家庭經濟に對する大衆的闘争（國家X×××つたプロレタリアートによつて指導される）、或は、もつと正しく言へば、それを大社會主義的經濟にまで大衆的に改造することが始まる時、そして始まる所のみ始まるのである。」(14)。

(14) レーニン全集、第一版第十六卷、二五六—二五七頁。

一九三一年に八十萬の婦人を生産に引き入れることは、社會的給養狀態の發達と決定的改善とに直接依存してゐる。

一九三〇年全同盟X××中央委員會及び中央統制委員會の十二月總會が指摘してゐるやうに、『食堂に對するソヴェートの統制を確立し、この統制に食堂係り自身を引き入れて、社會的給養事業を秩序立てるために決定的方策を取る』ことが、必要である。

社會的給養の改善は、消費組合、保健諸機關、ソヴェート、労働組合諸機關の注目的とならねばならない。社會的給養の職場は、その生産計畫の百パーセントの量的および質的指標を提供しなければならぬ。

社會的給養が労働者の實質賃銀のための闘争でどんな大きい意味を持つてゐるかは、社會的給養がレーニングラードで労働者の三八・六%、マグニトストロイで四八%、モスクワで五〇%、等々を捉へてゐることを見れば分かる。

社會的給養の發達は一九三一年に、一日三千七百五十萬個を下らない食事の提供を保證しなければ

ならない。この場合、新鮮な一食の平均引渡価格は都市で一七カペーク、農村で一・七カペークと定められてゐる。

社會的給養は事實その意義を非常に素晴しく増大したので、それは消費組合組織中で別個の拂込資本をもつ獨立部門になつてゐるほどである。

消費組合の掌中に社會的給養事業が集中される結果、消費組合組織中に生産的聯合が作り出されるやうになつた。消費組合は單に正しい分配について考慮するばかりでなく、國の生産的資源の増加についても考慮しなければならない。

消費組合は大きい蔬菜農場、大麻農場、酪業農場、家畜農場を組織し、機械化された穀物パン製造所や穀物工場や巨大な料理工場を組織し、食事調製過程を大工場生産に轉化しつゝある。

共營化に役立つ消費組合

共營化の發達は農村における消費組合の意義を激増してゐる。消費組合はその組織的、物質的可能性を利用して共營農場運動を強化しなければならない。

既に一九三〇年に、我々は農業における社會主義部面の頑固な右翼日和見主義的過小評價を協同組合内に持つてゐた。それは次の點に現はれた、即ち協同組合網が共營農場及び國營農場の地理的分布に相應して建設されなかつたこと、多くの地方では共營農場よりも個人的部面の方がよい待遇を受け

たこと、協同組合はまた共營農場の組織と共に發生した生産的必要や文化生活的需要を考慮に入れなかつたこと、等々。個々の消費組合の實踐には『左翼的』飛躍も生じた。これは個人的部面（中農及び貧農）の貢獻に関する過小評價に現れた。

協同組合はそのあらゆる活動を決定的に改造し、それを共營化の利害に従屬させなければならぬ。共營農場員の生産的及び消費的必要の充足、個人的豫約買付を通じてその生産（牛乳、卵、家禽、蜜、蔬菜）の非社會化部面を捉へること、集團的農業生産の特殊性を考慮し、それに自分のあらゆる活動を適應させること——これらすべては共營農場運動の嵐の如き成長と關聯して消費組合に課された新たな基本的任務である。協同組合はこの部門から個人商人の商業を終局的に排除しなければならぬ。彼等個人商人は不安定な個々の共營農場員を投機や國家に課せられた自分の義務の不履行に追ひやり、やけ糞になつて自己の存在を防衛するために戦つてゐるのだ。

一九三〇年の全同盟×××中央委員會及び中央統制委員會十二月總會の決定に従つて行はれた協同組合における選挙制の復活、農業協同組合の活動における共營農場員の指導的役割の保證、消費組合網（15）の農業賣店の發達の保證は、これらのあらゆる任務を遂行する完全な可能性を與へてゐる。

(15) 消費組合統制數字は一九三一年に農業賣店網の八萬九千七百七十二個から十萬九千七百七十九個への増加（一萬一千二百六十七個の増加）、小出張店および移動網の二萬百六十九個から三萬二千二百十九個への増加（一萬三千六十個の増加）を豫想してゐる。

消費組合に課されたそれにも劣らず責任のある任務は、共營農場員及び國營農場労働者の生活を社會的給養の方向において組織することである。消費組合は生活の社會化を促進して労働力を解放し、農民を自由にしつゝある。一九三一年の統制數字は農村における社會的給養企業の年生産を五十四億個以上の食事と決定し、農村網による百六十萬噸までの穀物製パンの遂行を決定してゐる。民族的諸地方の給養は殊に注意を拂はれてゐる。

社會的給養事業が消費組合の手に移り、共營農場における生活が別の方針によつて社會化される結果、共營農場の収入とその成員の生活水準は著しく高められてゐる。

商業の領域における資本建設

工業及び農業の大及び最大トラストの創設、共營農場の嵐のやうな成長進歩は、商業網を完全に改造し、商業に新しい技術的基礎を與へることを要求してゐる。農業の専門化過程と農業生産の規格化、國內市場および殊に外國市場のためのその技術的分類は、この必要を緊切にしてゐる。國民經濟計畫化の諸任務、個人商人との鬭争、及びその行動の統制は、冷却設備、固定倉庫、及びエレベーターの數が充分存在しないことによつて著しく困難にされたし、困難にされてゐる。エレベーター組織によつて穀物輸送は一年を通じて一層均等に行はれ、それによつて「弱點」となつてゐる鐵道運輸を緩和することができる。また蔬菜倉庫の問題や、食料品生産に不可避的な製粉所建設問題も、焦眉の

急を告げてゐる。

労働者の消費構成自體の改善(蔬菜及び將來は牧畜生産物の比重の増大)を目的とする×の政策は、また多くの大建設を要求してゐる。

商業の領域における資本建設の發展は、穀物及び商品貯蔵の蓄積に関する第十五回×大會の指令の遂行と最も直接に關聯してゐる。貯蔵品の蓄積は不作の場合、帝國主義國家側の部分的または全般的なソヴェート同盟封鎖の場合、世界資本主義市場の景氣の大變動の場合、戦争の場合に必要な保險である。

流通領域への資本投下は年を逐ふて増大してゐる。

交換および分配の領域における資本建設に對しては、一九二八年に八千五百三十萬ルーブル投下され、一九二九年には一億七千八百四十萬ルーブル、一九三〇年には四億七千二百二十萬ルーブル、一九三一年には五億九千二百萬ルーブル投下された。

第七章 財政政策

一、統一財政計畫と國家豫算

統一財政計畫は社會主義建設の手段である

ソヴェート同盟の國民經濟は、絶えず速まりゆくテンポで成長してをり、既に國民經濟内で絶對的優勢を占めた社會主義部面の比重は、年々歳々擴大してゐる。このことはソヴェート同盟の財政體系に大なる要求を提示してゐる。

適確なポリシエヴィキの財政計畫化を行はないならば、巨大な資本投下に融資したり、共營化を完成したり、わが國に、文化革命を實施するために、我々が必要とする資金を動員することが出来な

こととは不可能である」と力説した。

今日まで存在してゐたのは個々の分散的財政計畫であつた。國家の支出と収入との個別的計畫――

豫算だの、工業の個別的計畫――協同組合や、社會保險や、労働組合等々における個別的財政計畫であつた。はじめて一九三一年からソヴェート同盟は、社會主義部面の増大および計畫性の増大に基づいて、統一財政計畫を作成することが出来た。この計畫は、社會化された部面での資本建設や、社會的文化的支出や、國の防衛などに使用される國の一切の資金を、包含する。

統一財政計畫は次の部分から成る。イ、國民經濟部門（工業、農業、運輸、コンミン經營、商業協同組合）の財政計畫、ロ、個々の財政機關の財政計畫（國家豫算および地方豫算、信用體系、國家保險）、ハ、社會文化建設の財政計畫（國民教育、健康保健、社會保險および社會保障）、ニ、社會的組織（労働組合、國防飛行化學協會等）の財政計畫。

一九三一年の統一財政計畫は――社會主義經濟の基礎完成への融資計畫である。

統一財政計畫は三百二十億ルーブル、即ち國民收入の約三分の二を包含し、再分配し、そして「ルーブル統制」を實現しつつ、全國民經濟過程を調節する。統一財政計畫の任務は、國民經濟の諸部面に資金を分配することによつて、社會主義部面の擴大や、小商品組織の社會主義的改造や、資本主義的分子の清算を、保障することである。

一九三一年の統一財政計畫は一九三〇年の財政計畫よりも百十億ルーブルだけ多い。これらの莫大な附加的資金は次のやうな資源から得られねばならぬ。即ち國民收入の増大によつて――五十億、當年度に仕事を始める新企業によつて――二十億、工業および農業における生産物の原價を引下げること

とによつて——二十九億、その他の資源から十一億ルーブルだ。以上の数字は明らかに、新企業を適時に開始し、計畫を完全に實現し、工業および農業の生産計畫の量的、質的指標を百パーセントに遂行してのみ、財政計畫が遂行し得られることを示してゐる。統一財政計畫が動員する三百二十億ルーブルの中、百四十億即ち財政計畫の収入部分の四三・八パーセントは、工業および農業の生産物の増大、國營商業および協同組合の取引高擴大および質的課題の遂行によつて得られねばならぬ。

原價低下豫定を一パーセントでも不充分に遂行すれば、財政計畫のなかに一億五千萬から二億ルーブルに及ぶ大穴を生じ、工業生産を一パーセントでも不充分に遂行すれば、國が受ける物質的價値は二億ルーブルだけ少なくなり、わが資本建設が一パーセントでも高くつけば、國家的には一億ルーブルの損失となる。協同組合が流通費用を一パーセントだけ下げれば、一億五千萬ルーブルの節約となる。もし協同組合が一日にもつと速く自分の商品を消費者に運搬するならば——わが國は二千五百乃至三千万ルーブル儲かるのである。

財政計畫の二百十億ルーブルは國民經濟の融資に、工業や、農業や、運輸の社會主義的改造に、コンミン建設に向けられる。六十五億ルーブルは文化建設、即ち教化、保健および社會保障の融資に當てられる。國家機關の維持および國の防衛には、二十五億ルーブル、即ち全統一財政計畫の約八パーセントだけ當てられるにすぎない。

一九三一年の統一財政計畫によると支出は収入よりも十五億ルーブルだけ少ない。この十五億ルー

ブルは國家積立金の設立に當てられる。

統一財政計畫の支出部分の大半は、社會主義工業および運輸への資本投下に當てられる。最高國民經濟會議の工業について云へば資本投下は五十五億ルーブル（これは、のちに七億七千萬ルーブルだけ増加された計畫による）であつて、この外八億五千萬ルーブルは全國的電化に、約六億ルーブルは配給人民委員部によつて計畫される工業に當てられる。

運輸の社會主義的改造は、最重要な經濟的任務であつて、この任務を解決することなしには、工業および農業が定められたテンポで發展することは考へることも出来ないものであるから、統一財政計畫のなかで重要な地位を占めてゐる。運輸に對する一九三一年の資本投下は、一九三〇年の十八億ルーブルに對し三十二億ルーブルである。

農業における社會主義建設に費やす額は、財政計畫によると三十八億ルーブルである。そのうち國營農場は二十一億ルーブル、共營農場、機械トラクター供給所および農業協同組合は十七億ルーブル與へられる。農業を社會主義的に改造するためのこの巨大な財政的援助は、農業内の現存の社會主義部面を鞏固にし、次々に數百萬の農民經營を共營化することを助成し、わが國の中央委員會が定めた期限内に共營化を完成することを容易にする。

統一財政計畫と國民收入

わが豫算および統一財政計畫の嵐のやうな成長は、ソヴェート同盟の國民收入の嵐のやうな成長なしには不可能だつたらう。わが國の國民收入は絶えず促進しゆくテンポで増大してゐる。これらのテンポは新段階において特に激しく飛躍し、擴大してゐる。それは次の數字が證明してゐる。一九二八年にソヴェート同盟の國民收入は二百七十一億ルーブル、一九二九年に二百八十八億ルーブル、一九三〇年からは既に三百七十七億ルーブル、最後に一九三一年には四百九十七億ルーブルと算せられた。資本主義諸國の國民收入の増大の『正常的』テンポは年に二―三―四パーセントと見られる。そして最高の『繁榮』時代においてさへ、この百分比は五―六パーセントを超えたことがなかつた。革命前のロシアでは國民收入増大の通常の百分比は年に二乃至三パーセントであつた。ソヴェート同盟では、一九三〇年における國民收入の増大は殆ど二十パーセントであり、一九三一年には三十五パーセント以上であつた。社會主義の時代へのソヴェート同盟の進入は、たゞ一九三一年の一年間に十年間の最高繁榮時代の資本主義諸國に相當する國民收入の増加によつて示された。

この國民收入増加の社會主義的テンポは、人口そのものが甚だ急速に増加してゐるのに、人口一人あたりの收入の極めて急速な増加を齎らしてゐるのである。ソヴェート同盟の人口は毎年二・五パーセントだけ増加してゐる。即ち一ケ年に約三百五十萬人の増加である。ソヴェート同盟の現在の範圍での舊ロシアの版圖には一億三千九百七十萬人住んでゐた。一九二九年にはソヴェート同盟の人口は一億五千四百七十萬人、一九三〇年には一億五千八百萬人、一九三一年には既に一億六千五十萬人

となつた。人口はかやうに極めて急速なテンポで増加してゐる、しかし國民收入はもつともつと急速に増加してゐる。一九一三年に舊ロシアの一人あたり收入は一〇〇・四ルーブルであつたが、ソヴェート同盟では一九三一年に一九三・六ルーブル（戦前の貨幣價值で）である。即ち、一人あたりの收入は殆ど二倍となつた。一人あたりの收入増加のテンポは、年に數十パーセントを以つて數へられる。こゝに資本主義的經濟體制に對するソヴェート同盟の一切の優越性がつきりと現れてゐる。

一九二八年のソヴェート同盟は國民收入の總額から見て北米合衆國、イギリス、ドイツに次ぎ世界第四位を占めてゐた。一九三一年の我々はイギリスとドイツとを追ひ越し、北米合衆國に次いで第二位を占めてゐる。一九三一年のテンポでわが國民收入が増加するならば、我々は四年後には國民收入の絶對數から云つても北米合衆國をも追ひ越すだらう。

人口一人あたりの收入について云へば、我々はこゝでも素晴らしい發展を遂げたとはいへ、我々はまだ北米合衆國や、ドイツや、イギリスや、フランスだけではなく、多くの他の帝國主義諸國にも劣つてゐる。

最近の三ケ年間は、國民收入における社會化部面の比重の猛烈な向上を特色とする。

社會主義部面が國民收入の中に占める比率は一九二八年に僅かに四七・四パーセント、つまり全收入の半分足らずであつたが、一九三一年には既に七四・八パーセント、即ち殆ど四分の三となつた。小商品部面、主に農民個人農の比率は一九二八年に四五・五パーセントであつたが、一九三一年に

は早くも二三・一パーセントにすぎない。資本主義部面、主に富農の比率は一九二八年に九・一パーセントに達したが、一九三一年にはソヴェート同盟の全國民收入において單に二・一パーセントを占めるにすぎない。種々の階級および人口の諸層への國民收入の分配は、甚だ截然たる變化を示した。一九二八年には農業労働者をも含めてプロレタリアートの受取率は、二三・二パーセントであつたが、一九三一年には四〇・八パーセントになつた。従つて、國民收入の増大のテンポがどんなに前代未聞の高度なテンポであらうとも、ソヴェートの國のプロレタリアートが受取る收入部分は、もつと迅速なテンポで増大してゐるのである。こゝに注意すべきことは、プロレタリアートの受取率はプロレタリアートの個人的消費に當てられる收入部分だけで測定されるのではないといふことだ。こゝへはプロレタリアートに屬する國營部面の生産擴張にあてられる國民收入部分をも含めなければならぬ。

一九二八年には國民收入における共營農民の受取率は取るに足らず——やつと〇・九%であつて、共營農民そのものが少なかつた。一九三一年には共營農民は既に全農業人口の収入の半分以上を受取るであらう。(既に受取つた——譯者)。

國民收入の大きいさ、その分配とにおけるこれら巨大な變動は、『偉大なる轉換』の年、社會主義的改造過程が最も深刻に行はれた年をもたらしたところのソヴェート同盟の國民經濟内の根本的變化の結果である。

國家豫算

豫算は統一財政計畫の最重要部分である。ソヴェートの豫算は資本主義諸國の豫算とは根本的に違ふ。資本主義諸國の豫算はその收入部分においては殆ど全く租稅收入から成つたり、租稅收入は主に都市と農村の甚だ多くの勤勞大衆から徴集され、極めてわずかの部分が工業家、商業家、地主から徴集される。資本主義諸國家の豫算は、その支出部分において不生産的性質を持つてゐる。消費の主要部分は×××準備に、××、××の維持に、官吏の俸給にあてられる。資本主義諸國家は、被抑壓大衆××××××とブルジョア××××××制度の強化に當てられる税金も、労働者および農民から××してゐる。労働者と農民とは、自分たちの××××『労働』に自ら××××××はされてゐるのだ。プロレタリア××××の社會的階級的構造はわが國に社會主義を建設するといふことにある。プロレタリア國家の豫算はこの任務に完全に從屬する。

收入の歴倒的部分は、特に現在、國民收入における社會主義部面の絶對的優勢と關聯して、社會主義部面から得られる。

ソヴェートの國家豫算の特徴は、國營企業から得られる莫大な收入の存在である。既に一九二四—二五年には郵便や、電信や、運輸や、國營工業からの國家の收入總額は、全收入の四四・八パーセントであつた。一九三一年には收入の五三パーセントは社會主義部面の内部で徴集されねばならぬし、